

奈良市立こども園カリキュラム

バンビーノ・プラン

平成30年度改訂版



奈良市子ども未来部

はじめに

近年、子どもたちを取り巻く環境は、グローバル化や情報通信技術が加速度的に発展しております。そのような時代を迎える子どもたちには、社会の流れや時代の変化に、自らの可能性を發揮しながら生きぬく力が必要になります。幼児期は生涯にわたる人格形成の基礎が培われる極めて重要な時期であり、幼児期の教育・保育における経験や体験はまさに原体験となりその後の育ちに大きく関わります。

平成27年度から本格施行されている「子ども・子育て支援新制度」では、全ての子どもが健やかに成長することができる社会の実現をめざし、幼児期の教育・保育、地域の子育て支援を総合的に推進することが求められております。本市におきましても、「奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン」を策定し、「奈良市子どもにやさしいまちづくり条例」の理念を踏まえ、すべての子どもが今を幸せに生き、夢と希望を持って成長することができるような、「子どもにやさしいまち」の実現をめざしています。

市立園において質の高い乳幼児期の教育・保育を総合的に提供できるように、平成25年度から、大学教授の専門的な指導を受けながら、市立幼稚園教員と市立保育園保育士が合同で2年間研修を重ね『奈良市立こども園カリキュラム バンビーノ・プラン』を策定いたしました。

このたび、平成30年4月1日施行の幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領及び保育所保育指針の改訂(定)に伴い、本市におきましても平成29・30年度の2年間をかけて内容の見直しを行い、『奈良市立こども園カリキュラム バンビーノ・プラン 平成30年度改訂版』として生まれかわりました。

各園において特色を生かした教育・保育を推進するとともに、小学校・家庭・地域社会と協力して教育・保育活動のさらなる充実を図っていくことが重要になります。

今後も、子どもたち一人ひとりの豊かな育ちを支える質の高い幼児期の教育・保育の充実、発展のために本カリキュラムを積極的に活用していただけるよう期待しております。

平成31年3月

奈良市長

仲 川 げ ん

正解がない時代、最適な解を自分たちで創造していく時代のカリキュラム

帝塚山大学 教授 清水 益治

子どもの育ちをとことん見つめて策定されたバンビーノ・プランが、新しい幼稚園教育要領等の施行を機に改訂されました。改訂版の大きな特徴は、正解がない時代に対応したことです。これまでのカリキュラムは揺らぎなく確たるものでした。そのため指導計画のよりどころにもなってきました。しかし新要領等の下では、カリキュラム・マネジメントや指導と評価の一体化という考え方に則り、カリキュラムもより良いものに作り変えていくことが求められています。そこで改訂バンビーノ・プランではファイル式を採用しました。こうすることで、各頁を取り外して比べることができます。また各頁の間に指導計画を挟んで対応づけたり、白紙を挟んで記録したりすることができます。1年経つと、一人ひとりの保育者がそれぞれ独自のファイルを持ち、それを自らの保育の記録として活用していくことができるでしょう。担当年齢が変わる場合は、その指導計画や記録をコピーして引き継ぐことも可能です。

正解がない時代、最適な解を自分たちで創造していく時代。バンビーノ・プランをどのように創り、活用していくかは、一人ひとりの保育者の保育に対する姿勢に委ねられていると言えるでしょう。

奈良の保育を創る ～ 新しい幼児教育の時代のはじまりとともに ～

奈良教育大学 教授 横山 真貴子

幼児教育の新時代の幕が開きました。要領・指針が改訂(定)され、施行されました。2019年度からは3歳以上児の幼児教育の無償化も始まります。今、この時代に生きる子どもたちのための新しい教育・保育を、それぞれの地域で創り出し、実践することが求められています。

子どもは“今”を生きています。改訂(定)では、カリキュラム・マネジメントの重要性が謳われています。指導計画通りに、保育を進めることを目指すではありません。予期しなかった子どもの反応や創意が出てくるからこそ、保育は生き生きとし、ワクワクと心躍るものになるのです。

子どもの姿からねらいと内容を考え、指導計画を立てて、保育に臨みます。しかし、今、このときを生きる子どもたちの姿から、新しい保育を創り出していくのです。子どもの育ちのねらいや願いといった方向性は持ちながら、具体的な活動の有り様は子どもと共に生み出していく。その保育実践の軌跡がカリキュラムです。指導計画に沿った活動と予期しなかった活動を捉え、共に活かすような方策を考え、明日の指導計画につないでいくのです。

子どもは“明日”に向かって生きています。奈良の子どもたちの保育は、奈良の保育者の手で創る。子どもと共に暮らし、遊んだ軌跡を明日の保育につなぐのです。明日の保育を描きながら、明日は明日の実践がある。今、子どもたちとここにいることを喜び、楽しみながら、未来を生きる子どもたちのために、奈良の保育を創っていきましょう。

も く じ

はじめに

奈良市の育てたい姿・カリキュラム改訂について・カリキュラムの枠組み	2
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）の捉え	6
発達の大きな流れ 0歳児～2歳児	8
3歳児～5歳児	9

年齢に応じたカリキュラム

3歳未満児の保育

『育児担当保育』における保育者の関わりと子どもの育ち	10
『育児担当保育』における保育者の援助の手順について	11
0～1歳児	22
2歳児（1期～4期）	40

幼児期の教育

3歳児（1期～5期）	50
4歳児（1期～5期）	62
5歳児（1期～5期）	74
カリキュラム原稿の表記について	86
改訂の取り組み	87

奈良市の育てたい姿

乳幼児期における教育及び保育は、子どもの健全な心身の発達を図りつつ、生涯にわたる人格形成の基礎を培う上で極めて重要です。

奈良市立こども園では、「夢と希望をもち、変動する社会をたくましく生きぬく子どもの育成」を目指し、教育・保育を一体的に行います。子どもたちが社会の変化に柔軟に対応し、未来を切り開く力の基礎を培っていきます。年齢や発達に応じて、生活や遊びの中で乳幼児期にこそ必要な経験を保障します。そして自ら課題を見つけ、考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決していく力が身につくように育てます。

カリキュラム改訂について

幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針が同時に改訂（定）されたことに伴い、平成27年に策定した『奈良市立こども園カリキュラム バンビーノ・プラン』を基に、年齢に応じたカリキュラムの部分を見直し、カリキュラムを改訂しました。改訂時に加えた点は以下の通りです。

- ・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿につながる「10の姿の芽生え」、及び「10の姿」を表記した。
- ・期の特徴を表記した。

カリキュラムの枠組み

区分・期の設定

「年齢に応じたカリキュラム」は、0歳児から2歳児を対象とする「3歳未満児の保育」、3歳児から5歳児における「幼児期の教育」からなります。それぞれ年齢や月齢に応じて、区分や期を設定しています。（図1参照）



図1 年齢に応じたカリキュラムの区分・期

期の特徴

2歳児からその期に見られる発達的主要特徴を表記しています。

子どもの姿

「子どもの姿」として、前の区分や期、年度の終わり頃の育ちの姿を表記しています。幼児は四つの視点で捉え、表記しています。

- 生活する姿
- 遊びへの関わり
- 人との関わり
- 集団や全体での姿

コンセプト

- 判断と行動 自ら考え、判断し、行動する。
- 結い <もの><ひと><こと>と関わり、関係を結ぶ。
- 表現と反応 思いや気付きや感じたことを表し、認め合う。

コンセプトは、生涯発達の基盤となる力を示しており、育ちを捉える視点として機能します。

【判断と行動】の内容

自立	<ul style="list-style-type: none">●状況に応じて自分はどうするのか、自らの意思で考え、判断する。●やるべきことが分かり、他者から指示されなくても自分で行動する。●他者に助けってもらうことと自分で行うことを区別し選んで行動する。
計画性	<ul style="list-style-type: none">●見通しをもち、ふり返りをしながら、行動や取組にあたる。●自分の力や特性を理解し働かせ、やりがいのあることに挑戦する。●自分なりの規範をもちつつ、臨機応変に判断し行動する。
問題解決	<ul style="list-style-type: none">●疑問をもち、どのようになればよいのか、めあてをもつ。●解決に向けて、どうすればよいか、手段や方法を工夫する。●試行錯誤を含めて様々な取組を行い、その成り行きを評価する。

【結い】の内容

<もの> との関係性	<ul style="list-style-type: none">●ものの性質や仕組み、形状の変化や法則性を理解する。●素材選択や操作、加工など、ものとの接し方や扱い方を工夫する。
<ひと> との関係性	<ul style="list-style-type: none">●他者の存在を認め、尊重し、他者との関係をよりよくしていく。●他児と協働し、共通の目標に取り組む。●役割を理解し、ルールや規範を用いて集団生活を送る。
<こと> との関係性	<ul style="list-style-type: none">●自然現象や文化的事象を理解する。●知識や情報を用いて、事態や状況を理解する。●自ら物語や生活の世界を構築する。

【表現と反応】の内容

言語	<ul style="list-style-type: none"> ●遊びのために自らの思いを言葉で表し、互いの考えを理解し合う。 ●言葉に対する感覚を養い、状況に応じて言葉を使い分ける。 ●言葉の特性や有効性、機能的側面に気付く。
アート	<ul style="list-style-type: none"> ●身体表現や音楽的表現、描画や造形などを通して自らのイメージを表現する。 ●アート表現を楽しみ、美しさや不思議さなどの感性を高める。 ●他者のアート表現に言葉や表情、行為で反応し、その良さを理解する。
情動表現	<ul style="list-style-type: none"> ●感じたことや内的状態を、言葉や表情、行為で表現する。 ●自他の情動を言葉や表情、行為から読み取り、理解する。 ●自らの情動を調節し、他者の情動に応じた言動をとる。

養護

園児の生命の保持と情緒の安定を図るために保育者が行います。園での生活全般の基底として3歳未満児の保育に養護を表記しています。

ねらい

0・1・2歳児	3・4・5歳児
次の三つの視点の順に設定しています。 <ul style="list-style-type: none"> ●生活する姿 ●遊びへの関わり ●人との関わり 	子どもの姿を受けて、前掲の四つの視点の順にねらいを設定しています。子どもの姿とねらいは必ずしも一対一対応にはならず、その期で特に重視したい点については、一つの視点に二つのねらいを表記していることもあります。

内容

0歳児	1・2・3・4・5歳児
三つの視点 「身近な人と気持ちを通じ合う」 「身近なものとの関わり感性が育つ」 「健やかに伸び伸びと育つ」 に基づき子どもの経験を表記しています。	5領域「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」に基づき子どもの経験を表記しています。三つのコンセプト「表現と反応」「結い」「表現と反応」との対応を表のはじめに示しています。 2歳児から4歳児は「10の姿の芽生え」、5歳児は「10の姿」に特にかかわりの深いものを◎で表記しています。

環境構成

0・1・2歳児	3・4・5歳児
子ども一人一人が、健やかに育つように、生活の充実や連続性、教育や安全に配慮して、人的・物的環境について表記しています。	子どもが周囲の環境に自らかかわり、自発的に活動を生み出し充実感を味わうには、どのような環境構成が適切か、発達の各時期にふさわしい遊びや生活を展開できるような環境の在り方を各期に表記しています。 周囲の環境とは、「子どもをとりまくすべて」であり、遊具や用具、材料などの物的環境や保育者や友達などの人的環境、身の回りにおこる事象、時間、空間、それらがかもしだす雰囲気など、様々な要素を含んでいます。

援助

0・1・2歳児	3・4・5歳児
子ども一人一人を受容し、主体的な活動を大切に、丁寧に関わることを重視して表記しています。（育児担当保育）	子どもがもの、ひと、ことに主体的に関わって、活動を展開できるような援助の在り方について、発達に応じて表記しています。

遊び

0・1・2歳児	3・4・5歳児
各区分・期における発達に向けて経験することが望ましい遊びをいくつか抜粋して表記しています。	各期のねらいを達成するため、経験することが望ましいと思われる遊びの例を、その時期に特に経験させたいことから、順に表記しています。

小学校との連携

幼児期の教育と小学校教育の接続や連携、環境移行に向けて、4歳児の1期以降に小学校の教師との連携や、子ども同士の交流や連携について表記しています。

家庭・地域との連携

家庭・地域・こども園の間における生活の連続性や、育ちを支えるための連携について、その在り方について表記しています。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）の捉え

- 今回のカリキュラムの特徴として、教育要領・保育指針等のトリプル改訂（定）を受け、各期の「内容」が「10の姿」の中でどの項目の育ちにつながる活動であるのか、またそのことを理解した保育を行って欲しいという思いを表で記しています。
- 「内容」を「10の姿」に照らし合わせる際、◎と○で表記しています。主に育ちにつながると考える項目1つに◎を、その他に育ちにつながるであろう項目やその項目の育ちも意識して欲しいと考える項目に○をつけています。保育者が保育する際に意識しやすいことを考え、全ての「内容」において◎と○を合わせて3項目までに絞っています。
- 「10の姿」の分類について乳児期は、重なり合っていて、少しずつ分かれてきます。幼児期は、3歳児は徐々に分かれていき、4歳児になると明確に分かれてきます。そして、5歳児はさらに明確となり分類しやすくなります。2歳児から4歳児までは「10の姿の芽生え」と表記しています。

（0、1歳児）

- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）は5歳児で突然出てくるわけではなく、0、1歳児は、生活や遊びにおいて養護の行き届いた環境の中で、受容的で応答的に関わり、一人一人丁寧に質の高い保育をすることが、幼児期の育ちにつながっていきます。
- 0歳児においては、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に合わせ、「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」の三つの視点で表記しています。
- 1歳児においては、三つの視点をさらに分化させた5領域「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の視点で表記しています。



（2歳児）

- 5領域を「10の姿」とつなげて考えて、2歳児の各期に特に大切にしたい項目として、1つの領域の中で特に当てはまるものを◎、他を○として最高3つまで当てはめて考えています。
- 2歳児はまだまだ個々への関わりも大切なため、集団を見るときは期を見て個人は36ヶ月～42ヶ月を参考にしましょう。
- 「自立心」とは身辺自立ではなく、自立心の芽生えとして捉えています。確立しないといけなという視点ではなく、自立に向かってということです。
- 「～に気付く」とは、自ら気付くことになるので、「～を知る」という表記を多く用いています。

（3歳児）

- 3歳児は、遊びや生活の全てが「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）につながっていくため、1つの内容がいくつかの「10の姿の芽生え」に重なりました。
- 3歳児は、友達や人との関わりが直接的ではないため、そこにつながっていくものとして「10の姿」の各項目を捉えています。保育者やもの・こととの関わりを重ねることで、友達や人に興味をもち、



関わりも多く見られるようになっていきます。成長発達の大い時期であり、特に「道徳性・規範意識の芽生え」や「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「協同性」「道徳性」は、4・5歳児の姿につながっていく姿として捉えています。「言葉による伝え合い」や「自然との関わり・生命尊重」「数量・図形、文字等への関心・感覚」については直接的に関わるものであり、「健康な心と体」は、安心して過ごせるということが大切であると捉えています。

（4歳児）

- ・4歳児は、園生活に慣れ、友達との関わりが広がり多様な経験や感情体験を積み重ね、ため込んでいく時期だと捉えています。「10の姿」は重なり合っていますが、4歳児は5歳児へ向かって、取り立てて見えてくる時期です。下記に取り上げた項目が遊びや生活をする上で著しく成長、発達が見られるため大切であると考えました。



- ＜自立心＞ 生活習慣面での自立については、1学期に集中しています。4期・5期になると数が少なくなりますが、精神面の自立や学びに向かう力につながる部分でもあるので大切です。
- ＜協同性＞ 自信をもって行動しながら、友達や異年齢児との関わりが深まっていく後半に増えます。その頃は、行事や遊びを通して友達同士がつながるような保育者の援助が大切であり、5歳児への成長のつながりも大きくなります。
- ＜道徳性・規範意識の芽生え＞ 社会生活や集団生活で学ぶことが多いので、保育者や友達との関わりを通して、直接体験を大事にしていく必要があります。
- ＜社会生活との関わり＞ 3歳児に比べて、友達や地域の人など様々な人と関わる機会が多くなっていきます。「社会生活」とは身近な人との関わりが土台となり、それが広がり築いていけるものと考え、社会性を育む内容も挙げました。
- ＜思考力の芽生え＞ じっくりと人やものに関わることができるようになる後半に増えています。5歳児の姿につながると思われるので、集中して遊び込める環境構成や援助が大切になります。
- ＜言葉による伝え合い＞ 人間関係が広がる時期なので、多くの内容を挙げました。自分の思いを伝える・言葉で関わりをもつなど、人との関わりにおいてとても重要な項目であると考えました。

（5歳児）

- ・4歳児までは「10の姿の芽生え」となっていますが、5歳児では「10の姿」と表記しています。幼児期の終わりまでに育てほしい姿であることから、幼児期の最終学年である5歳児は芽生えではなく「10の姿」としました。
- ・他の年齢に比べ、内容と「10の姿」との照らし合わせの際、項目が絞られています。（内容の欄についている〇の数が少ない）それは、5歳までに様々な力が育ってきていることと、最終学年であるため、10の項目に表されている姿が明確に見られるようになってくるからであると捉えました。また、明確にしておくことで、子どもの育ちを小学校につなげる際に伝えやすいと考えました。
- ・「社会生活とのかかわり」について、5歳児では、園生活は日々の生活の場となっていることから、「社会生活」ではなく「日常生活」と捉えています。



	0歳児	1歳児	2歳児
年齢の特徴	特定の大人との安定した関係が最も必要な時期	自分の意志や欲求を表出できるようになる時期	自我の育ちと自立心の芽生えの時期
援助のポイント	自分でしようとする気持ちを尊重し温かく見守るとともに愛情豊かに応答的に関わっていきます。		子どものあるがまますを温かく受け入れ、励ましながら意欲を育んでいきます。
期の 特徴	おおむね6か月未満 <ul style="list-style-type: none"> 首がすわり手足の動きが活発になり、寝返り、腹ばいなどの全身の動きがとれるようになる。視覚や聴覚などの感覚のめざましい発達が見られ、泣く、笑う、喃語を発するなどの表情や体の動きで自分の欲求を表現する。 受容的・応答的に関わる特定の大人との間で情緒的な関係（愛着関係）が生まれる。 	おおむね1歳3か月～2歳未満 <p>歩く、押す、つまむ、めくるなどの運動機能が発達し、身近な人や身の回りのものに働き掛けていく。ものをやり取りしたり、取り合ったりする姿が見られるとともに、玩具などを実物に見立てられるようになり、人やものとの関わりが強まる。指さしや身振り、片言などを使うようになり、二語文を話し始める。</p>	1期（4～5月） 安心できる環境のもとで、「自分で」「いや」が出せるようになる時期 2期（6～8月） 「これは？」「なに？」と、保育者や友達のしていることに興味や関心を示す時期
	おおむね6か月～1歳3か月未満 <p>座る、はう、立つ、つたい歩きといった運動機能が発達し、腕や手先を意図的に動かせるようになる。周囲の人やものに興味を示し、探索活動が活発になる。特定の大人との情緒的な絆が深まる一方で、人見知りをするようになる。自分の意思や欲求を身振りなどで伝えようとし、大人から自分に向けられた気持ちや簡単な言葉が分かるようになる。</p>	おおむね2歳～3歳未満 <p>歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動機能や、指先の機能が発達し、排泄の自立のための身体機能も整ってくる。行動範囲が広がり探索活動が盛んになる。友達と一緒に過ごすことを喜び親しみをもつ一方で思いのぶつかりあいがふえる。発声が明瞭になり、語彙も著しく増加し、自分の意思や欲求を簡単な言葉で表そうとする。</p>	3期（9～12月） 「みてみて」と主張したり、「やったー！」「できた」という満足感を味わう時期 4期（1～3月） 「かして」「いいよ」と、保育者が仲立ちとなり、友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる時期

発達の大きな流れ 3歳児～5歳児

	3歳児	4歳児	5歳児
年齢の特徴	自分の思いを十分に出す時期	「したい遊び」から「好きな遊び」への移行が見られ、友達との関わりが広がっていく時期	友達と一緒に遊びや生活を進めようとする時期
援助のポイント	したいことや好きなことを思う存分にできるようにしていきます。	やり遂げた喜びと自信を積み重ね、友達と一緒に多様な経験が得られるようにしていきます。	今までの知識や経験を生かし、創意工夫を重ね学びに向かう力を育てていきます。
1期 (4～5月)	安心できる人やものとの関わりを基盤にして、新しい環境に慣れ、新しい生活の仕方を知る時期	進級した喜びを感じ、新しい環境に慣れて安定した気持ちで過ごす時期	4歳児からのつながりを基盤として、5歳児としての自覚や意欲を高める時期
2期 (6～8月)	身の回りのもの・ことや、友達のしていることに興味をもつようになる時期	身近な環境に関わり、気の合う友達と一緒に遊ぶことを楽しむ時期	今までの経験を活かし、自ら環境に関わる中で思考力を身に付ける時期
3期 (9～10月)	保育者や友達のしていることに興味をもち、自分から遊ぼうとする時期	友達と一緒にいろいろな遊びや活動に、意欲的に取り組む時期	一人一人が自信をもち、一つの目的に向かってクラスやグループで取り組むことで仲間意識が芽生える時期
4期 (11～12月)	自分の思いを出しながら、したい遊びを十分に楽しむ時期	自分の思いや考えを出し合いながら、友達と一体感を感じるようになる時期	友達と折り合いをつけながら、協同して自分たちで遊びや活動を進めていく時期
5期 (1～3月)	自分のしたい遊びを気の合う友達と関わりながら遊ぼうとする時期	友達との関わりを深めながら、自分の力を存分に発揮する時期	就学への期待を高め、友達とともに活動する充実感や達成感を味わう時期

年齢に応じたカリキュラム

3歳未満児の保育

乳児期は、人生と人格の土台を形成する最も大事な時期です。

本カリキュラムでは、人への信頼感を育てること、生きる力の基礎を養うことを大切にしています。

『育児担当保育』とは安心して身を委ねられる環境（園）の中で、特定の保育者による愛情深い関わりを行うことです。そのことで子どもは生活に満足感をもち、情緒を安定させます。この安定した人間関係が支えとなり、人間を愛し、信頼し、自尊感情を高めます。それらは、「生きること」への意欲や、自立を導きます。

乳児期の保育において、保育者の姿勢（子どもへのまなざし、ふるまい、心遣い、言葉遣い）は、ことのほか重要で大きな意味をもっています。

一人一人への丁寧な関わりに基づく保育は、子どもに満足感や安心感、幸福感を与えます。食事、排泄を中心とした『育児担当保育』は、特定の保育者との愛着関係のもと、一人一人への働き掛けや対応が変わることのないように、同じ手順で援助し、安心して、見通しをもって過ごせるようにしています。



『育児担当保育』における保育者の関わりと子どもの育ち

- 子どもにとって、子どもの多様な感情を受け止め、傾聴してくれる、語り掛けてくれるなどの保育者の温かい受容的・応答的で質の高い関わりが愛着関係を育みます。
- 子どもは、自分の気持ちを代弁してもらったり、共感してもらったりすることによって、自分とは違う相手の気持ちを理解し、徐々に子ども同士で関係をもつようになります。このように、大人との信頼関係を基として、人間への信頼感と人間関係を形成する力が育っていきます。
- 子どもは、他児との違いや、一人の人間としての人格を尊重されることによって、自信を含む自尊感情や、自発性、意欲、集中力、先を見通す力が育っていきます。
- 子どもの感性をゆさぶり、目を輝かせて遊んでみたくなる豊かな環境構成をすることによって、子どもは試し、驚き、発見、失敗、喜び、共感などの体験をすることができ、人としての成長や発達が促されます。



ミルクの飲ませ方の手順

保育者の手順	◎環境 ●保育者の援助
1、保育者がエプロン・三角巾を付けて、手を洗い、消毒して調乳する。	◎いつも決まった場所（席）で授乳する。 ◎椅子に深く座り、膝が90度になるように調節する。途中で体を動かしたり姿勢を直したりしなくてもいいように、背もたれやクッションなどを利用して安定した状態で飲ませてあげることが大切。
2、ミルク・ガーゼ（エプロン）・口拭き手拭きタオルの準備ができたなら、子どもを迎えに行く。	●「今からミルク飲もうね」と声を掛けながら抱っこする。
3、子どもの両手が常に自由になるように抱っこし、椅子に座る。	手が自由に動かせることで、安心して飲める。また、哺乳瓶に興味を示した時に持つことができるようにするため。
4、ガーゼで口のまわりを拭く。	●「口を拭こうね」と言葉を掛ける。 ●拭くことで、清潔を保ち、唾液の分泌を促すようにしていく。
5、ガーゼで両手を拭く。	●「手を拭こうね」と言葉を掛ける。 ●右左の順に手を拭く。（子どもが出した手を尊重する）
6、ガーゼ（ハンカチ）をあごの下に入れて授乳する。	後々の食事前に手を洗う習慣に結びつく。
7、飲み終わったら、口のまわりと手を拭く。	●子どもと目と目を合わせて「いただきます」「ミルク飲もうね」「ウクン」「おいしいね」などと語り掛ける。
8、排気を促す。	●飲み終わったら「口を拭こうね」「手を拭こうね」「おいしかったね」と言葉を掛けながら口のまわりと手を拭く。 ●たて抱きにして背中を下から上になでる。 ●ガーゼ（ハンカチ）、口拭き、手拭きタオルを汚れ物袋に入れる。

離乳食の手順 歩行が安定するまで大人の膝の上に座って【抱っこ食べ】から始める。
 (大人の体温を感じ温かく包まれた中で、安心して食事に向かう事ができる)

保育者の手順	◎環境 ●保育者の援助
1、保育者がエプロン、三角巾、マスクを付けて、手を洗い、消毒して、離乳食の配膳をする。(マスクは配膳の時のみ) 2、食事の準備ができたことを子どもに伝え迎えに行く。 3、子どもに座る椅子を見せて座るようにする。(前向きに抱っこする)	◎いつも決まった場所で食べる。集中して食べるため、遊びが見えないように机を配置する。 ◎大人の左手は子どもの腰にそえ、子どもの両手は常に自由になるようにする。大人は長時間座っていても安定していられる姿勢にする。
4、エプロンをつける。 5、ハンドタオルで口のまわりを拭く。 6、ハンドタオルで手を拭く。	今から何処に行くのか、次に何があるのかをわかるようにしておくことで、生活の見通しをもつことができ、安心して食事に向かえるようにするため。 ●「エプロンしようね」と声を掛ける。 ●口のまわりを拭くことで、清潔を保ち、唾液の分泌を促すようにしていく。 ●拭く手の順番も右から左へと拭いていく。(子どもが出した手を尊重する)
7、「いただきます」の挨拶をして離乳食を食べる。(15~20分が目安) ・お茶(スープ)から飲む。	唾液の分泌を良くし、咀嚼や食べ物の飲み込みをよくするようにするため。 ●汁物は保育者がお椀を持って援助し、子どもが両手を持って飲めるように援助する。 ●スプーンは下唇に軽く乗せ、口の中には押し込まず、子どもが食べ物を取り込むのを待ちながら進める。 ●スプーンは水平に口に運び、斜めに傾けたり上顎になすったりしない。 ●食事の始めから終わりまで介助用スプーンを握るようになったら、子ども用スプーンを使い始める。
8、「ごちそうさま」の挨拶をする。 9、ハンドタオルで口のまわりを拭く。 10、ハンドタオルで手を拭く。 11、エプロンをはずす。	【介助用スプーン】 ・柄が長いので子どもがスプーンを持ちたいと手を伸ばしてきた時に大人と共に握りながら使うことができる。 【子ども用スプーン】 ・柄は短い。スプーンのすくう部分が浅いので、すくいやすく、食べ物が口に入りやすくなっている。 ・「口を拭こうね」と声を掛ける。 ・「手を拭こうね」と声を掛ける。 ・右から左へと拭いていく。 ・エプロン、口拭き手拭きタオルを汚れ物袋に入れる。
12、エプロン、口拭き手拭きタオルを子どもに見せながらたたむ。 13、子どもに見せながら椅子を元に戻す。	見せながらすることで、後々のエプロン・タオルをたたんだり、椅子を元にもどしたりする習慣に結びつく。

乳児食の手順 歩行が安定し、自分の力で体を支えられるようになったら【椅子に座っての食事】座位の姿勢での遊びが15～20分ぐらいできることも目安にする。

保育者の手順	◎環境 ●保育者の援助
<p>1、保育者がエプロン、三角巾を付けて、手を洗い、消毒して、乳児食の盛り付けをして、準備しておく。</p> <p>2、食事の準備が出来たことを子どもに伝え、迎えに行く。</p> <p>3、子どもを椅子に座らせる。</p> <p>4、エプロンをつける。</p>	<p>◎机の高さは、子どもの胃と同じ高さになるようにすることが望ましい。</p> <p>◎椅子は、背中や足の位置に足台やマットなどを用意し、両足がしっかりと床につき、姿勢が安定するようにする。</p> <p>●保育者の動きや次の行動を言葉にしながら、ゆっくりと見本を見せて、子どもが自分でしてみようとする姿を待つ。</p> <p>●「椅子をひくね」と言葉を添えながら一緒にする。</p> <p>●「エプロンしようね」と言葉を掛ける。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>してみようとする時は、さりげなく介助し、急がせないようにする。 →いずれは、子どもが一人ですという見通しをもてるようにする。</p> </div>
<p>5、「手を拭こうね」と言葉を掛け、子どもがタオルの上に手を置くのを待ち拭く。(いつも同じ手から拭く)</p> <p>6、子どもが席についてから配膳する。 「いただきます」の挨拶をする。</p>	<p>●手を拭く順番は、離乳食の時期から同じにするが、子どもの意思で手を出した時は、その手から拭いていく。</p>
<p>7、乳児食を食べる。(15～20分が目安)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お茶から飲み始める。 ・主食・副菜・汁物などを順番に食べるように声を掛ける。 	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>最初にお茶を飲むことで、唾液の分泌をよくし、飲み込みをよくする。</p> </div> <p>→「三角食べ」に繋がる。</p> <p>●子ども一人一人の意欲や、発達に応じて、介助スプーン、子ども用スプーンを使う。</p> <p>●子どもがスプーンを握っている時は「自分で食べたい」という気持ちを尊重する。</p> <p>●左手は、皿に添えることができるように、さりげなく介助する。皿に手を添えることで、食べ物をすくいやすくするため。</p>

<p>8、「ごちそうさま」の挨拶する。 ハンドタオルで口のまわりを拭く。</p> <p>9、ハンドタオルで手を拭く。</p> <p>10、エプロンをはずす。</p> <p>11、エプロン、口拭き手拭きタオルを子どもに見せながらたたむ。(または、子どもと一緒にたたむ)</p> <p>12、椅子を後ろに引く。</p> <p>13、子どもに見せながら椅子を元に戻す。 (または、一緒に椅子を元に戻す)</p> <p>14、自分のマークの汚れ物袋にエプロン、口拭き手拭きタオルを入れる。</p>	<p>●お椀を持つ時は、スプーンを置き、両手で持つことができるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>スプーンの握り方 「上手握り」から「下からの3点持ちへ」</p> </div> <p>●「口を拭こうね」と言葉を掛ける。</p> <p>●「手を拭こうね」と言葉を掛ける。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>エプロン、口拭きタオルは子どもの育ちの様子をみながら使うことを終了したり、コップでうがいをするなどに移行したりしていく。</p> </div>
--	---

※ 子どもの育ちの様子をみながら、自立につなげる。



オムツ交換の手順（テープ式の場合）

※オムツ交換台で交換

※つかまり立ちが出来ない子、歩行が完成していない子どもは、テープ式のオムツにしてもらう。

保育者の手順		◎環境 ●保育者の援助
1、子どものそばに行き、オムツ交換をすることを伝え交換台へ向かう。 「オムツ替えようね」と子どもと目線を合わせて伝え、おむつ交換へ向かう。（子どもが手を伸ばしたり、手をつなぎに来たり、行こうとする姿勢になるなど、子どもの動きを待ってから） 2、手足が自由になるように抱く。（進行方向に体を向かせて抱く） 3、オムツ交換台に毎日交換してもらっている個人用のタオルを敷く。（ウンチ用シートも可）		今から何処に行くのか、次に何があるのかを分かるようにしておくことで、早い段階から生活の流れの見通しをもつことができるため。子どもの気持ちがオムツ交換に向かうようにする。 ◎オムツ交換台は、生活や遊びの場から見えないようについでやカーテンなどで囲う。 ◎交換台は寝転んだ時に天井が高いと不安に感じるため、天井を付けるなど、工夫する。 ◎タオルは常に使用する面を内側にたたんで片付ける。 ●子どもを一人の人として尊重しプライバシーを守るため。
	（便の場合） ＊ビニール袋を広げて用意する。 ＊下痢の場合は2重で用意しておく。 ＊両手に手袋をはめる。（保育所における感染対策ガイドラインより）	◎交換台は寝転んだ時に天井が高いと不安に感じるため、天井を付けるなど、工夫する。 ◎タオルは常に使用する面を内側にたたんで片付ける。 ●子どもを一人の人として尊重しプライバシーを守るため。
4、子どもを寝かせる。 5、ズボンをはかせる。「ズボンを脱ごうね」と目線を合わせて声を掛けてから、ズボンを下げる。 6、オムツを着けたまま、お尻を手で支えて持ち上げ、新しいオムツを下に入れる。		◎交換台は寝転んだ時に天井が高いと不安に感じるため、天井を付けるなど、工夫する。 ◎タオルは常に使用する面を内側にたたんで片付ける。 ●子どもを一人の人として尊重しプライバシーを守るため。
（尿の場合） ＊お尻を手で持ち上げ、ぬれたオムツを外し、新しいオムツをオムツカバーの上に置く。 ＊ぬれたオムツはトレーに置くか、ビニール袋に入れる。	（便の場合） ＊オムツを外し、袋に入れる。（異常便の場合は、袋を2重にし、すぐに袋の口を閉める） （普通便の場合は、汚物流しに便のみ流してもよい）	◎交換台は寝転んだ時に天井が高いと不安に感じるため、天井を付けるなど、工夫する。 ◎タオルは常に使用する面を内側にたたんで片付ける。 ●子どもを一人の人として尊重しプライバシーを守るため。
7、おしり拭きで拭く。		◎交換台は寝転んだ時に天井が高いと不安に感じるため、天井を付けるなど、工夫する。 ◎タオルは常に使用する面を内側にたたんで片付ける。 ●子どもを一人の人として尊重しプライバシーを守るため。
（尿の場合） ＊女子は、前から後ろ方向に拭く。 ＊おしり拭きは紙オムツと一緒に入れるか、ビニール袋に入れる。 ＊保育者は手を手指アルコールで拭く。	（便の場合） ＊おしり拭きも袋に入れて、袋の口を閉める。 ＊手袋を外し、ビニール袋に入れる。保育者は手を手指アルコールで拭く。	◎交換台は寝転んだ時に天井が高いと不安に感じるため、天井を付けるなど、工夫する。 ◎タオルは常に使用する面を内側にたたんで片付ける。 ●子どもを一人の人として尊重しプライバシーを守るため。
8、新しいオムツをする。ズボンをはかせる。「オムツをしようね」と声を掛け、保育者がしようとしている行動を先に知らせてからオムツをする。「右足あげるよ」「左足あげるよ」と声を掛け、子どもが足をあげる動きに合わせてながらズボンをはかせていく。 9、保育者の親指を握らせて、子どもの手首を軽く握って、ゆっくり引き起こす。 10、子どもを遊びの場に戻してから、オムツの処理をする。個人の袋・バケツに入れる。 11、保育者は、手洗い石鹸で手を洗う。（手洗い後、蛇口も洗う）		◎交換台は寝転んだ時に天井が高いと不安に感じるため、天井を付けるなど、工夫する。 ◎タオルは常に使用する面を内側にたたんで片付ける。 ●子どもを一人の人として尊重しプライバシーを守るため。

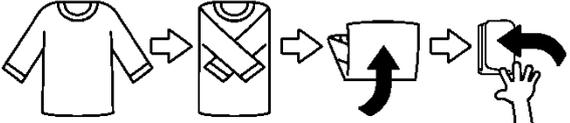
オムツ交換の手順（パンツ式の場合）

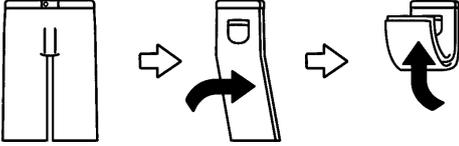
※つかまり立ちがしっかりできることを目安に立ったまま交換を行う。

保育者の手順		◎環境 ●保育者の援助
<p>1、子どものそばに行き、交換をすることを伝えトイレへ向かう。 「パンツ替えようね」と子どもと目線を合わせて伝え、交換へ向かう。（子どもが手を伸ばしたり、手をつなぎに来たり、行こうとする姿勢になるなど、子どもの動きを待ってから）</p> <p>2、交換をするところまで歩いて向かう。</p> <p>3、交換する場所で立ってズボンを脱ぐ。 保育者と対面になり、子どもは保育者の肩に手を掛け、ズボンとパンツを脱がせる。</p> <p>4、「ズボンを脱ごうね」と目線を合わせて声を掛けてから、ズボンを下げる。</p>		<p>今から何処に行くのか、次に何があるのかを分かるようにしておくことで、早い段階から生活の流れの見通しをもつことができるため。子どもの気持ちがオムツ交換に向かうようにする。</p> <p>◎オムツ交換は、トイレで行うか、生活や遊びの場から見えないようについたてやカーテンなどで囲う。</p> <p>子どもを一人の人として尊重しプライバシーを守るため。</p>
	<p>（便の場合） *ビニール袋を広げて用意する。 *両手に手袋をはめる。（保育所における感染対策ガイドラインより）</p>	<p>●一人一人のタイミングを見て、やさしい言葉で誘いかけ、子ども自身が動き出すのを待ち、オムツ交換の場所へ向かう。</p>
<p>5、紙パンツを脱がせる。</p>		<p>●子どもが自発的に脱ごうと足を上げるタイミングを大切にします。</p> <p>●保育者は一つ一つの動きを丁寧に語り掛けていく。「ズボン脱ごうね」など。</p>
<p>（尿の場合） *立ったまま、ぬれたパンツを外し、ぬれたパンツはビニール袋に入れる。</p>	<p>（便の場合） （紙パンツ時） *パンツを外し、袋に入れる。 （異常便の場合は、袋を2重にし、すぐに袋の口を閉める） （普通便の場合は、汚物流しに便のみ流してもよい） （布パンツ時） *便は汚物流しに流しビニール袋に入れる。</p>	
<p>6、おしり拭きで拭く。</p>		
<p>（尿の場合） *女子は、前から後ろ方向に拭く。 *おしり拭きは紙オムツに入れるか、ビニール袋に入れる。 *保育者は手を手指アルコールで拭く。または、手洗い用石鹸で洗う。</p>	<p>（便の場合） *おしり拭きもビニール袋に入れて、袋の口を閉める。 *手袋を外し、保育者は手を手指アルコールで拭く。または、手洗い用石鹸で洗う。</p> <p>●視線をあわせて、「きれいになったね」「気持ちよくなったね」と語り掛ける。</p> <p>●子どもに手を拭く様子を見せるとで、後々、排泄後の手洗いの習慣につなげていく。</p>	

<p>7、新しいパンツ・ズボンをはく。</p> <p>8、ズボンは、イスに座って自分ではく。 子どもを遊びの場に戻してから、オムツの処理をする。</p> <p>9、保育者は、手洗い用石鹸で手を洗う。(手洗い後、蛇口も洗う)</p>	<p>●子どもがしようとしたとき、「上手にはけたね」と声を掛けたり、一緒にしたり、一人で出来た満足感が感じられるようにする。</p>
<p>*1 歳児クラス</p> <p>尿間隔が長くなり、オムツがぬれていない時、便器に腰掛けるよ誘う。(便座シートは衛生上使用しない)</p> <p>個人差はあるが、一人一人に合わせて、立って片足があげられるようになってきたら、片手は壁に手を当て、利き手でパンツを持ち、足を入れてパンツがはけるように出来る子どもから一人でパンツがはけるようにゆっくりと進めていく。(このとき、お尻が直接床に触れないようにする)</p> <p>手を洗うよう誘う。</p>	<p>●子どもが、濡れていることや出た時・出る前に動作や言葉などで知らせた時は、交換したり便器に腰掛けたりするようにし、知らせてくれたことを認めながらトイレに誘っていく。</p> <p>出たら「よかったね」と共に喜びます。子どもが排泄はここでするということを理解していきます。</p> <p>●手を添えて一緒に洗うことで習慣づけていく。</p>
<p>*2 歳児クラス</p> <p>布パンツへの移行は、一人一人に合わせる。 (排泄の自立は4歳頃)</p>	<p>◎女兒は、徐々にトイレットペーパーを自分で使えるように適度に切ったものを置いておいたり、適度な長さを伝えたり、前から後ろに向かって拭くように伝えたりする。</p> <p>●水を自分で流せるように、流し方を伝える。</p> <p>●男児は、個人差に合わせて、男児用便器をできるように援助していく。立つ位置、おなかを突き出すようにして便器に近づける。尿を切るなども伝える。</p> <p>●個人差に合わせて、パンツやズボンを下げて排泄できるように(どこまで下げるのか、便器に座る位置、足を置く位置など)一人一人丁寧に知らせていく。</p> <p>排泄の自立に向かう時期には、園児の「自分でできる」「自分でいたい」という自信や意欲を育む事も大切である。</p>

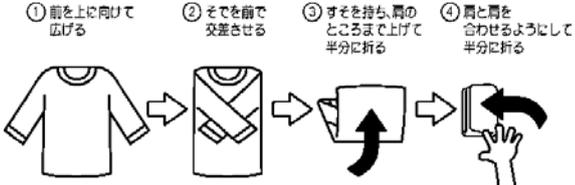
0歳児 衣服の着脱 保育者が一方的に着替えさせるのではなく、子どもと一緒に着替えているという意識をもち、丁寧に一つ一つ手順を声掛けしながら、子どもの動きに合わせて行う。

【上の服を脱ぐ】	◎環境 ●保育者の援助
<p>1、ボタンがあればはずす。</p> <p>2、子どもの服の内側に手を入れ、子どもの右肘に手を添えて、内側から肘を抜く。</p> <p>3、子どもの服の内側に手を入れ、子どもの左肘に手を添えて、内側から肘を抜く。</p> <p>4、保育者が服の裾を肩の高さまで持ち上げ、えり首から頭を抜く。</p> <p>5、子どもに見せながら、保育者が服をたたむ。</p> <p>6、汚れ物入れに入れる。</p> <p style="text-align: center;">上の服のたたみ方</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; font-size: small;"> ① 前を上に向けて広げる ② そでを前で交差させる ③ すそを持ち、肩のところまで上げて半分に折る ④ 肩と肩を合わせるようにして半分に折る </div> 	<p>◎つい立等で外から見えないように配慮する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>子どもを一人の人として尊重しプライバシーを守るため。</p> </div> <p>●着替えの前に子どもに「着替えようね」などと確認を取ることを大切にする。</p> <p>●肘内障（脱臼）を防ぐため、子どもの手を引っ張ったり、腕に負担をかけないように留意する。</p> <p>●保育者の動作や子どもの動き、感覚を言葉にしながらい進めていく。 「ボタンはずすね」「右足入れてね」 「そでたたむね」「半分にするね」 「汗で濡れて、気持ちわるいね」「暑いから脱ごうね」など。</p> <p>●「いないいないばあしようね」などと声を掛けながら、えり首から頭を抜く。また、子どもが服を引っ張って脱ごうとしている時は、子どもの動きに合わせて、服を持つ位置や引っ張る方向など、ポイントを見極めて援助していく。</p>
【上の服を着る】	◎環境 ●保育者の援助
<p>1、頭から服をかぶり、顔を出す。</p> <p>2、保育者が右の袖口を持ち、右腕を通す。</p> <p>3、保育者が左の袖口を持ち、左手を通す。</p> <p>4、ボタンがあれば、とめる。</p>	<p>●子どもが着脱に興味をもち始めると、裾をたぐりよせ、えり首を子どもが握れるようにする。</p> <p>●着替えの前に子どもに「着替えようね」などと確認を取ることを大切にする。</p> <p>●頭を通す所が子どもに分かるように見せながら「頭通そうね」と言葉を添えていく。</p> <p>●保育者の動作や子どもの動き、感覚を言葉にしながらい進めていく。</p>

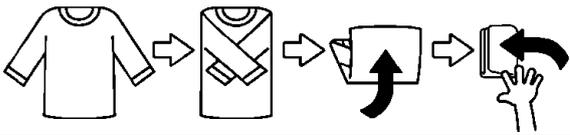
【ズボンを脱ぐ】	◎環境 ●保育者の援助
<p>1、両手でウエストのゴムの部分を握り、お尻より下にズボンを下げる。</p> <p>2、台に座り〈保育者の肩を持ち立ったまま〉片足ずつ足を抜く。</p> <p>3、子どもに見せながら、保育者がズボンをたたむ。</p> <p>4、汚れ物入れに入れる。</p> <p style="text-align: center;">ズボンのたたみ方</p> <p>① 前を上に向けて広げる ② 両足を合わせて半分に折る ③ ウエストとすそを合わせて半分に折る</p> 	<p>●保育者の動作や子どもの動きを言葉にしなが ら進めていく。</p> <p>◎座った時に足が床に付く高さの台を用意 する。</p>
【ズボンをはく】	◎環境 ●保育者の援助
<p>1、台に座ったまま〈保育者の肩を持ち立っ たまま〉、保育者の持つズボンの中に右 足を入れる。</p> <p>2、左足を入れる。</p> <p>3、ウエストのゴムの部分を両手で持ち、ズ ボンを上げる。</p>	<p>◎座った時に足が床に付く高さの台を用意 する。</p> <p>●保育者の動作や子どもの動きを言葉にしな がら進めていく。</p> <p>●どこを持って引きいれるのか、引き上げ るのかなどをさりげなく伝えながら進めてい く。</p>

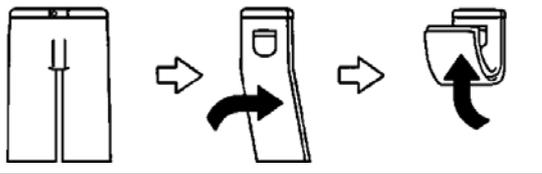
【靴を履く】	◎環境 ●保育者の援助
<p>1、マジックテープをはずす。</p> <p>2、足を入れやすいようにペロを大きく広げ る。</p> <p>3、靴のかかと部分を持ち、手を添えて足を入 れる。</p> <p>4、かかとがしっかり入っていることを確認 し、マジックテープを留める。</p> <p>①  ②  ③ </p>	<p>●保育者が左右の確認をする。</p> <p>●保育者の動作や子どもの動きを言葉にしな がら進めていく。</p>
【靴を脱ぐ】	◎環境 ●保育者の援助
<p>1、座ってマジックテープをはずす。</p> <p>2、かかと部分を持って足を抜く。</p> <p>3、靴裏同士を叩き合わせて砂を落とす。</p> <p>4、靴箱に入れる。</p>	<p>●保育者の動きや子どもの動きを言葉にしな がら進めていく。</p>

1歳児 衣服の着脱 何故、着替えをするのかを伝えてから着替えを始める。月齢差を考慮し、保育者が手を添えながら無理なく進める。丁寧に、一つ一つ手順を声掛けしながら、子どもの動きに合わせて行う。

【上の服を脱ぐ】	◎環境 ●保育者の援助
<p>1、ボタンがあればはずす。</p> <p>2、右手（利き手）でもう片方の袖を持って腕を抜く。</p> <p>3、もう片方の腕も同じように抜く。</p> <p>4、頭から脱ぐ。</p> <p>5、たたむ。（図1参照）</p> <p>6、汚れ物入れに入れる。</p> <p style="text-align: center;">上の服のたたみ方</p> 	<p>◎つい立等で外から見えないようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>子どもを一人の人として尊重しプライバシーを守るため。</p> </div> <p>●袖を持つことを促しながら保育者も手を添える。</p> <p>●「頭から脱ぐよ」と声を掛けながら、えり首から頭を抜く。また、子どもが服を引っ張って脱ごうとしている時は、服を持つ位置や引っ張る方向など、ポイントを見極め援助していく。</p> <p>●子どもがするようになるまでは保育者がたたんで見せる。</p>
【上の服を着る】	◎環境 ●保育者の援助
<p>1、頭から服をかぶり、顔を出す。</p> <p>2、保育者が右の袖口を持ち、右腕を通す。</p> <p>3、保育者が左の袖口を持ち、左手を通す。</p> <p>4、ボタンがあれば、とめる。</p>	<p>●襟ぐりから裾を手繰り寄せ、寄せた部分を一緒に持つように促す。</p> <p>●左右は子どもの意思や動きに合わせる。</p>
【ズボンを脱ぐ】	◎環境 ●保育者の援助
<p>1、腰ゴム部分をもって下にずらす。</p> <p>2、足を抜く。</p> <p>3、たたむ。（図2参照）</p> <p>4、汚れ物入れに入れる。</p> <p style="text-align: center;">ズボンのたたみ方</p> 	<p>●腰部分が意識できるよう手を添えて知らせたり、自分でするのが難しい場合はさりげなく援助したりする。</p> <p>●子どもがするようになるまでは保育者がたたんで見せる。</p>
【ズボンをはく】	◎環境 ●保育者の援助
<p>1、ズボンを広げて床に置く。</p> <p>2、座って足を右脚から入れ、もう片方も入れる。</p> <p>3、立って腰ゴム部分を持って上げる。</p> <p>4、後ろの腰ゴムを持って上げる。</p>	<p>●左右は子どもの意思や動きに合わせる。</p> <p>●ズボンの後ろを意識できるように手を添えたり、上げるのが難しい場合はさりげなく援助したりする。</p>

2歳児 衣服の着脱 子どもの姿に合わせてさりげない援助を行なう。

【上の服を脱ぐ】	◎環境 ●保育者の援助
<p>1、ボタンがあればはずす。 2、利き手で服のもう片方の服の袖を持ち、腕を抜く。 3、もう片方の腕も同じように抜く。 4、両手を使って頭から脱ぐ。 5、服をたたむ（袖をたたむ、縦半分、横半分）</p> <p style="text-align: center;">上の服のたたみ方</p> <p>① 前を上に向けて広げる ② そでを前で交差させる ③ すそを持ち、肩のところまで上げて半分に折る ④ 肩と肩を合わせるようにして半分に折る</p> 	<p>◎つい立等で外から見えないようにする。</p> <p>子どもを一人の人として尊重しプライバシーを守るため。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自分で服を脱いだり着たりする姿を見守り出来た喜びを共感する。 ●前後が分かりやすいように声を掛け、着やすいように服を置いておく。 ●子どもが自分で服をたためない時は、優しく声を掛けながら一緒に服をたたむようにする。
【上の服を着る】	<ul style="list-style-type: none"> ●気温に応じて、寒い時は着替えの最後に服をたたんでも良い。

【ズボンを脱ぐ】	◎環境 ●保育者の援助
<p>1、腰ゴム部分を持って下げる。 2、足を抜いて脱ぐ。 3、ズボンをたたむ。</p> <p style="text-align: center;">ズボンのたたみ方</p> <p>① 前を上に向けて広げる ② 両足を合わせて半分に折る ③ ウエストとすそを合わせて半分に折る</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●裏表や前後が分かりやすいように声を掛けたり、一緒にしたりする。 ●子どもが自分でたためない時は、優しく声を掛けながら一緒にズボンをたたむようにする。 ●2歳後半になると立った状態でズボンの脱ぎはきができるようにしていく。
【ズボンをはく】	<p>1、腰ゴム部分を持ち、前後の確認をしながら利き足を入れる。 2、もう片方も同じように入れる。 3、両手で腰ゴム部分を持って腰まで上げる。</p>



0～1 歳児

0歳児は特定の大人との安定した関係が最も必要な時期です。
1歳児は自分の意志や欲求を表出できるようになる時期です。
自分でしようとする気持ちを尊重し温かく見守るとともに愛情豊かに応答的に関わっていきます。

発達の特徴

おおむね6か月未満

- ・首がすわり手足の動きが活発になり、寝返り、腹ばいなどの全身の動きがとれるようになる。視覚や聴覚などの感覚のめざましい発達が見られ、泣く、笑う、喃語を発するなどの表情や体の動きで自分の欲求を表現する。
- ・受容的・応答的に関わる特定の大人との間で情緒的な関係（愛着関係）が生まれる。



おおむね6か月～1歳3か月未満

- ・座る、はう、立つ、つたい歩きといった運動機能が発達し、腕や手先を意図的に動かせるようになる。周囲の人やものに興味を示し、探索活動が活発になる。特定の大人との情緒的な絆が深まる一方で、人見知りをするようになる。自分の意思や欲求を身振りなどで伝えようとし、大人から自分に向けられた気持ちや簡単な言葉が分かるようになる。

おおむね1歳3か月～2歳未満

- ・歩く、押す、つまむ、めくるなどの運動機能が発達し、身近な人や身の回りのものに働き掛けていく。ものをやり取りしたり、取り合ったりする姿が見られるとともに、玩具などを実物に見立てられるようになり、人やものとの関わりが強まる。指さしや身振り、片言などを使うようになり、二語文を話し始める。

おおむね2歳～3歳未満

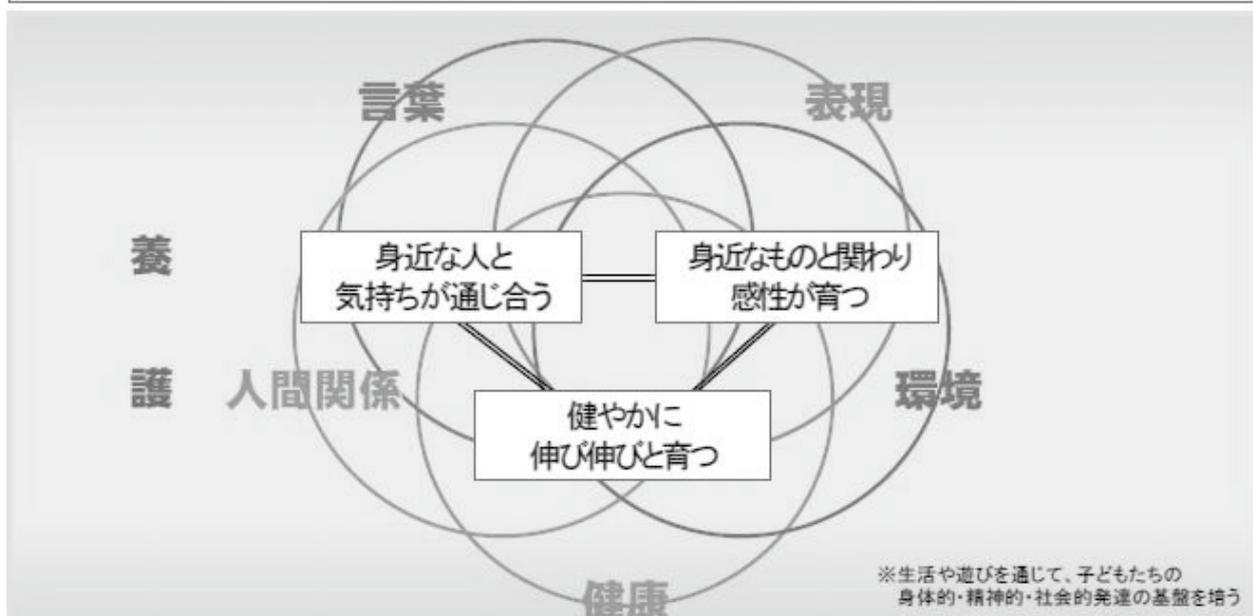
- ・歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動機能や、指先の機能が発達し、排泄の自立のための身体機能も整ってくる。行動範囲が広がり探索活動が盛んになる。友達と一緒に過ごすことを喜び親しみをもつ一方で思いのぶつかりあいがふえる。発声が明瞭になり、語彙も著しく増加し、自分の意思や欲求を簡単な言葉で表そうとする。

保育上の工夫



- ・子ども一人一人が、健やかに育つような人的、物的環境を構成し、安全面への十分な配慮を心掛けます。
- ・子どもの主体性を大切にするとともに、育児担当保育によって子どもを受容し丁寧な関わりを行います。
- ・子どもの生活に寄り添い、保護者の子育てを支援します。共に子どもの育ちを喜び合う保育を目指します。

0歳児の保育内容の記載のイメージ



○乳児保育については、生活や遊びが充実することを通して、子どもたちの身体的・精神的・社会的発達を培うという基本的な考え方を踏まえ、乳児を主体に、「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」「健やかに伸び伸びと育つ」という視点から、保育の内容等を記載。保育現場で取り組みやすいものとなるよう整理・充実。

○「身近な人と気持ちが通じ合う」という視点からは、主に現行指針の「言葉」「人間関係」の領域で示している保育内容との連続性を意識しながら、保育のねらい・内容等について整理・記載。乳児からの働きかけを周囲の大人が受容し、応答的に関与する環境の重要性を踏まえ記載。

○「身近なものに関わり感性が育つ」という視点からは、主に現行指針の「表現」「環境」の領域で示している保育内容との連続性を意識しながら、保育のねらい・内容等について整理・記載。乳児が好奇心を持つような環境構成を意識して記載。

厚生労働省 保育所保育指針の改定に関する議論のとりまとめ資料



おおむね 6か月未満

<p>子どもの姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授乳、睡眠、遊びのリズムが徐々についてくる。(判断と行動) 首がすわり、腹ばいや寝返りができるようになる。(判断と行動) 目の前のものをつかもうとするなど、手足の動きが活発になる。(結い) 自分の気持ちや欲求を泣く、笑うなどの表情や喃語などで表す。(表現と反応)
<p>養護</p>	<ul style="list-style-type: none"> 保健的で安全な環境をつくり、体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め、快適に生活できるようにする。 快適な環境と家庭との一貫した生活リズムの中で食欲、睡眠、排泄などの子どものありのままを受け止め、安心して園生活を過ごせるようにする。 一人一人の生活リズムを大切にし、生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする。 特定の保育者との豊かな関わりにより、安心して過ごせるようにする。
<p>ねらい</p>	<ul style="list-style-type: none"> 飲む、眠る、遊ぶなどの安定したリズムで過ごす。(判断と行動) 大人からあやされたり、声を掛けられたりすることを喜び、自分からも声を出す。(結い・表現と反応)
<p>環境構成</p>	<ul style="list-style-type: none"> 清潔で、心地よく眠れる環境(室温、湿度、換気、採光)を整える。 腹ばい、寝返りなどの全身運動が安全にできるような空間を保障する。 触ったり、なめたりしても安全なものを用意し、常に清潔を保つ。 感染症などにかかりやすいため、保育者は健康状態に留意し、清潔(手洗い、つめを切るなど)に努める。
<p>援助</p>	<ul style="list-style-type: none"> 食事(授乳も含む)、睡眠、排泄、着替えなどは、子どもが安心できるように、特定の保育者がいつも決まった場所で、同じ手順(P11から参照)で行うようにする。(育児担当保育) 心地よく過ごせるように、食事(授乳)、排泄、着替えなどは、子どもと視線を合わせ「〇〇しようね」「おいしいね」などと、声を掛けながら、安心感がもてるように関わる。 一人一人の発達を促すように声を掛けたり関わったりする。 子どもの表情や喃語を受け止め、ゆったり語り掛ける。
<p>遊び</p>	<ul style="list-style-type: none"> 諸感覚を刺激する遊び(オルゴールメリー、モビール、タオル地、フェルトなどの手触りの良い玩具、握れる玩具、音の出る玩具、彩りのある玩具など) ふれあい遊び(赤ちゃんマッサージ、くすぐり遊び、いないいないばあ、ちゅんちゅんこなど) 絵本(布絵本、動物など)
<p>家庭・地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの24時間の生活が相互にわかるよう、送迎時や連絡ノートなどを活用して、健康状態(機嫌、食欲、体温、全身状態)の変化などについて共有する。 発育に対する不安や戸惑いを受け止め、共に子育てを進められるよう保護者との温かい関係をつくる。 SIDS やゆさぶり症候群について正しい知識をもち、家庭でも事故がおきないように助言する。 飲む、眠る、オムツを替えてもらうなどの生理的欲求を満たすことで、生活リズムが安定し、心身の健やかな育ちにつながっていくことを伝え、共に子育てしていく。

内 容

※3つの視点で内容を分けていますが、1つずつ分かれているのではなく、重なりどの育ちにも影響しあいます。特に6か月未満では「身近な人と気持ちを通じ合う」「健やかに伸び伸びと育つ」の2つの視点を太枠にしています。

身近な人と気持ちを通じ合う

- なじみのある保育者の呼びかけに反応する。(目を合わす、微笑む、身体全体で反応する、喃語を発する)
- 触れてもらうことに心地よさを感じる。
- 身近な人にあやしてもらうことを喜ぶ。
- 心地よいときは喃語を発し、声や泣き声で欲求を表す。



身近なものと関わり感性が育つ

- 音のする方や動くものを目で追う。(例えば、吊るし玩具など)
- 手に触れたものを親指と手の平でつかみ、見たり、なめたりする。



健やかに伸び伸びと育つ

- 特定の保育者の1対1の関わりの中で、おなかいっぱいミルクを飲む。
- 特定の保育者に優しく声を掛けてもらいながら、オムツ交換するをしてもらい、気持ちよさを感じる。
- オムツの汚れを泣いて知らせる。
- 特定の保育者に見守られたり優しく抱かれたりしながら、安心して眠る。
- 手足を動かす、寝返りをする、うつ伏せの姿勢を保つなど、体を動かして遊ぶ。
- 支えられて座ったり、両脇を支えられると足をつっぱり、はねたりする。

おおむね 6か月～9か月未満

子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・離乳（初期、中期）が進み、少しずつ食べる量が増える。（判断と行動） ・身近な人が分かり、慣れない人に人見知りする。（判断と行動・結い） ・腹ばいから四つばいの姿勢で前後に移動したり、座ろうとしたりする。（判断と行動） ・目の前のものに手を伸ばしつかもうとする。（結い・表現と反応）
養護	<ul style="list-style-type: none"> ・保健的で安全な環境をつくり、体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め、快適に生活できるようにする。 ・快適な環境と家庭との一貫した生活リズムの中で食欲、睡眠、排泄などの子どものありのままを受け止め、安心して園生活を過ごせるようにする。 ・一人一人の生活リズムを大切にし、生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする。 ・特定の保育者との豊かな関わりにより、安心して過ごせるようにする。
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・飲む、食べる、眠る、遊ぶなどの安定したリズムで過ごす。（判断と行動） ・寝返り、四つばいなど、体全体を動かして遊ぶ。（判断と行動） ・保育者の語り掛けを喜び、自分でも喃語や声を出そうとする。（結い・表現と反応）
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・食事はゆったりとした雰囲気の中、歩行が安定するまで保育者が膝の上に抱き、腰を支えて、食べるようにする。 ・いろいろな味や舌ざわりを楽しめるように食品の種類を増やしていく。 ・遊びと休息がとれるように（運動発達を促したり身体を休めたりすることができるように）、クッションやマットを置くなどの空間づくりをする。 ・感触を充分楽しめるように、誤飲の恐れのないいろいろな素材を用意し、常に清潔を心掛ける。 ・玩具は子どもが興味のもてるように見えたり触れたりする位置に用意する。
援助	<ul style="list-style-type: none"> ・視線を合わせながら優しく語り掛けたり、一緒に口を動かして見せたりしながら、自ら食べ物を口に取り込むのを待ちながら進める。 ・「〇〇しようね」と次にしてもらおう事を丁寧に語り掛け、見通しがもてるようにする。 ・人見知りが出る時期なので不安な気持ちを理解しまるごと受け止めるようにする。 ・喃語に込められている気持ちを温かく受け止める。 ・子どもとスキンシップが図れるような遊びを十分に取り入れる。
遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・全身を使った遊び（坂道はいはい、トンネルくぐりなど） ・触れたり、握ったりする遊び（穴おとし、玉ころがし、ガラガラ、壁につけた玩具〔木製、布製、ゴム製、プラスチック製〕など） ・ふれあい遊び（いないいないばあ、もしもしかめよ、ことりことりなど） ・絵本（あかちゃんえほん、布絵本など）
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの24時間の生活が相互にわかるよう、送迎時や連絡ノートなどを活用して、健康状態（機嫌、食欲、体温、全身状態）の変化などについて共有する。 ・発育に対する不安や戸惑いを受け止め、共に子育てを進められるよう保護者との温かい関係をつくる。 ・SIDS やゆさぶり症候群について正しい知識をもち、家庭でも事故がおきないように助言する。 ・感染症にかかりやすい時期になるので予防接種や感染症などについて情報を提供する。 ・離乳食は、一人一人の状態に合わせ、進め方や大切にしたいことを共有しながら進める。（食材一覧表をもとに進め、初めての食材の時は、家庭で試してもらう。また、1さじから始め、便、体調、咀嚼の様子を見ながら進める。） ・腹ばいやはいはいで遊ぶことをたっぷり経験させるために、育ちを急がないこと、また筋力が不十分であり、自分から座った姿勢になるまでは長時間座位にしないことなど、発達に合った関わりを伝える。

※3つの視点で内容を分けていますが、1つずつ分かれているのではなく、重なりなどの育ちにも影響しあいます。特に6か月～9か月未満では「身近な人と気持ちが通じ合う」「健やかに伸び伸びと育つ」の2つの視点を太枠にしています。



身近な人と気持ちが通じ合う

- 親しみをもっている人を目で追いかけてたり自分から近づいていこうとしたりする。
- 知っている人と知らない人が分かり人見知りをする。
- 喃語をしきりに発し、優しく受け止めてもらうことでやり取りを楽しむ。
- 簡単な歌や手遊びなどのふれあい遊びを喜ぶ。



身近なものに関わり
感性が育つ

- 興味のある玩具を両手で持ち、なめる、噛むしゃぶるなどして遊ぶ（口を使って性質、形、硬さ、舌ざわりなど確かめる）。
- 音の出る玩具を握ったり、たたいたりして音を出す。



- 特定の保育者の膝の上で腰を支えてもらい、1対1で安心して食べる。
- 舌でつぶせる固さのものが食べられるようになり、自分から口をあけて食べようとする。
- オムツを替えてもらう心地よさを知り、オムツ交換時に、足をあげようとする。
- 睡眠のリズムが徐々に安定し、機嫌よく目覚める。
- 寝返り（仰向け→腹ばい、腹ばい→仰向け）やずりばい、四つばいなどの姿勢で遊ぶ。



健やかに伸び伸びと育つ



おおむね 9か月～12か月未満

子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・歯茎でつぶせる硬さに慣れるなど、離乳が進み、食品の幅が広がる。(判断と行動) ・人見知りや特定の人へ後追いをする。(判断と行動・結い) ・手指の機能や全身の運動機能が発達し、ものをつまむ、四つばいからお座りへと姿勢を変えたり、はいはいや伝い歩きをしたりするようになる。(判断と行動) ・特定の大人との関係の中で、簡単な言葉が分かり、自分の意思や欲求を簡単な動作や表情で表そうとする。(結い・表現と反応)
養護	<ul style="list-style-type: none"> ・保健的で安全な環境をつくり、体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め、快適に生活できるようにする。 ・快適な環境と家庭との一貫した生活リズムの中で食欲、睡眠、排泄などの子どものありのままを受け止め、安心して園生活を過ごせるようにする。 ・一人一人の生活リズムを大切にし、生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする。 ・特定の保育者との豊かな関わりにより、安心して過ごせるようにする。
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・食べる、眠る、遊ぶなどの安定したリズムで過ごす。(判断と行動) ・はう、立つなど体全体を動かして遊ぶことを楽しむ。(判断と行動) ・保育者の語り掛けを喜び、繰り返しの中で、声を発したり、身振りで表現したりする。「マンマ」「バイバイ」「ちょうだい」など(結い・表現と反応) ・保育者との信頼関係ができ、身近な物や人への関心、関わりが広がる。(結い)
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・食事はゆったりとした雰囲気の中、歩行が安定するまで保育者が膝の上に抱き、腰を支えて、食べるようにする。 ・全身のいろいろな動きが十分にできるように、緩やかな斜面や興味もてるような環境(トンネルなど)、長い距離をたくさんはえるような余裕のあるスペースを確保する。 ・誤飲や誤食を避けるため、大きさ、質、形、色など安全な玩具を用意する。 ・目の高さで遊べる玩具を用意する。(たたく、回す、押す、引っ張る、つまむなど) ・中から取り出す、引っ張る、棚から出すなど、好奇心を満たす玩具を用意する。 ・使われていない玩具は、さりげなく片付ける。
援助	<ul style="list-style-type: none"> ・離乳食は一人一人の進み具合に合わせ、食への興味や自ら食べようとする意欲を育てる。 ・「○○しようね」と次にしてもらおう事を丁寧に語り掛け、見通しがもてるようにする。 ・子どもが楽しんでいる姿勢や動きを真似たり、視線を合わせたりしながら、自分から動こうとする気持ちを大切にします。 ・保育者との触れ合い遊びを多くもち、「できたね、よかったね」「たのしかったね」などと子どもの思いに寄り添い、言葉にして返す。 ・指さしや子どもの声に耳を傾け、共感しながらものの名前を知らせたり、動作と言葉を結び付けたりして語り掛け、発語の意欲を育む。
遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・全身を使ってする遊び(トンネル、斜面、箱車、手押し車、滑り台など) ・手や指を使う遊び(マジックテープのついた玩具、穴おとし、玉ころがし、布などを引っ張りだす玩具、積み木、チェーンストーン、壁面遊具など) ・音をだす遊び(ラッパ、鈴、太鼓、笛、マラカスなど) ・感覚遊び(ハンカチ、布、スポンジ、鏡など) ・ふれあい遊び(おすわりやす、ちょちょちあわわ、のこのこかめのこ、どてかぼちゃんなど) ・絵本(繰り返しのある絵本)
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの24時間の生活が相互にわかるよう、送迎時や連絡ノートなどを活用して、健康状態(機嫌、食欲、体温、全身状態)の変化などについて共有する。 ・発育に対する不安や戸惑いを受け止め、共に子育てを進められるよう保護者との温かい関係をつくる。 ・SIDS やゆさぶり症候群について正しい知識をもち、家庭でも事故がおきないように助言する。 ・離乳食の回数や食材も増えるので、園での様子を伝えるとともに家庭での食事の量や様子を知らせてもらう。 ・いろいろなものに興味を示し、はいはいなど行動範囲が広がるので、転倒、転落、誤飲などの事故につながらないように家庭と共に気をつける。 ・つかまり立ちをし始める子もいるが、はいはいを十分にすることが体の発達に大切であることを知らせる。

※3つの視点で内容を分けていますが、1つずつ分かれているのではなく、重なりどの育ちにも影響しあいます。特に9か月～12か月未満は「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」の2つの視点を太枠にしています。

身近な人と気持ちが通じ合う

- 身近な保育者に相手にしてもらおうことを喜び、親しみをもって関わる。
- 人やものに対する意思が芽生え人見知りや特定の人への後追いをする。
- 簡単な言葉と動作が一致し、大人の音声やイントネーションを真似て盛んに声を出す。(はいどうぞ、ちょうだいなど)
- 保育者と一緒にしぐさで食前食後の挨拶をする。
- ふれあい遊びや手遊びを喜び、リズムに合わせて体を揺らして遊ぶ。

身近なものに関わり感性が育つ

- 自分で自由に移動しながら、身近な生活用具や玩具などに興味や好奇心をもつ。
- 玩具や身の回りのものをつまむ、つかむ、たたく、引っ張るなど手や指を使って遊ぶ。
- いろいろなものを見て指さしをする。
- 戸外に行くことを喜び、事物や動物に興味を示す。



- 手(指)でつまんで自分で食べようとしたり、スプーンやコップを持とうとしたり、奥の歯茎で噛んで食べるようになる。(果実、野菜など)
- オムツ交換時や着替えなどの時足をあげたり、手を出したりするなど意識をもち始める。
- 一定時間安心して眠るようになる。
- 腹ばいからお座りへと姿勢を変えたり、はいはいで移動したりつかまり立ちから伝い歩きをしたりする。

健やかに伸び伸びと育つ



おおむね 12か月～1歳3か月未満

おおむね12か月～
1歳3か月未満

子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> 舌、あごを動かして前歯で噛み切れるようになり徐々に乳児食に慣れていく。(判断と行動) 保育者や周りにいる子どもたちと関わろうとする。(判断と行動・結い) 伝い歩きや一人歩きなど行動範囲が広がる。(判断と行動・結い) 自分の意思や欲求を指さしや声や動作などで伝えようとする。(表現と反応)
養護	<ul style="list-style-type: none"> 保健的で安全な環境をつくり、体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め、快適に生活できるようにする。 快適な環境と家庭との一貫した生活リズムの中で食欲、睡眠、排泄などの子どものありのままを受け止め、安心して園生活を過ごせるようにする。 一人一人の生活リズムを大切にし、生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする。 特定の保育者との豊かな関わりにより、安心して過ごせるようにする。
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 食べる、眠る、遊ぶなどの安定したリズムで過ごす。(判断と行動) 歩く、しゃがむなど体全体を動かして遊ぶことを楽しむ。(判断と行動) 保育者との信頼関係が深まる中で、自分の気持ちを安心して表す。(結い・表現と反応)
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> 食事は安定して食べられるように、食事の席を決め、子どもにあった椅子や机、足が床に届くように足置きを用意したり背もたれを用意したりする。(高さ、奥行き) くつろげるよう、クッションなどを置き、休息できる環境を整えておく。 全身のいろいろな動きが十分にできるように、緩やかな斜面や興味もてるような環境づくりをする。 一人遊びがじっくりできるように、玩具は高さや置き方を工夫し取り出しやすいようにしておく。
援助	<ul style="list-style-type: none"> 自分で食べる意欲を大切にしながら、食事の進行に合わせて、介助スプーンで援助する。(スプーンの持ち方を知らせていく。最初は上から持つ。) 何でも自分でやろうとする姿を大切に、子どもの動きに合わせて援助する。 子どもの模倣のイメージを広げるように、ゆっくり、大きく分かりやすく表現し、子どもの見立てや「つもり」を理解して会話する。 周りにいる子どもとのつながりの芽生えを見逃さず、見守ったり仲立ちをしたりしていく。 子どもの要求する気持ちを受け止め、伝えたい思いを言葉に表現しながら丁寧に応える。
遊び	<ul style="list-style-type: none"> 全身を使ってする遊び(マット、滑り台、箱、トンネルなど) 手や指を使う遊び(引っ張り玩具、ポストボックス、積木など) 感覚遊び(音、手触り、色、形、大きさなど) ふれあい遊び(きゅうりもみ、ことりことり、一本橋、おすわりやす、のこのこかめのこなど) 模倣や見立てをする遊び(人形、お茶碗、コップ、布団、電話など) 絵本(繰り返しや音やリズムを楽しむ絵本)
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの24時間の生活が相互にわかるよう、送迎時や連絡ノートなどを活用して、健康状態(機嫌、食欲、体温、全身状態)の変化などについて共有する。 発育に対する不安や戸惑いを受け止め、共に子育てを進められるよう保護者との温かい関係をつくる。 SIDS やゆさぶり症候群について正しい知識をもち、家庭でも事故がおきないように助言する。 食材一覧表などを参考にし、乳児食への移行が無理なくできるように保護者と共に確認しながら進めていく。 子どもの発見や喜びに共感することや、膝の上ののせて絵本を読んであげるなど心地よく触れ合うことが、親子の絆を結ぶ上で大切なことを伝える。 ものや人、動作と言葉が結び付くよう、ゆっくり話したり、思いをくみとって言葉にかえたりすることが大切であることを伝える。

※3つの視点で内容を分けていますが、1つずつ分かれているのではなく、重なりどの育ちにも影響しあいます。特に12か月～1歳3か月未満は「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」の2つの視点を太枠にしています。



身近な人と気持ちが通じ合う

- 周りにいる子どもの行動に関心を示し、持っている玩具に触りにいくなど、関わりをもとうとする。
- 生活や遊びの中で保育者のすることに興味をもったり、真似たりする。
- 名前を呼ばれたら手をあげるなど、簡単な言葉と行動が結び付く。
- 行きたい所や欲しいものが明確となり、指さしや動作や声で伝えようとする。

身近なものに関わり感性が育つ

- 入れたり出したり、積んだりはめたりなどくりかえして遊ぶ。
- 絵本の中に知っているものを見つけると「あっあ」と喜んで指さしたり、絵本をめくったりする。
- 「食べる」「飲む」「電話をする」など遊具を様々なものに見立てて模倣する。



- 食事に誘われて自分のテーブルまで行き、椅子に座って食べる。
- オムツ交換時は、自分で交換台まで行こうとする。
- 食事後は、自ら布団に入り眠る。
- 立つ⇄しゃがむ、またぐ、階段をはって登る、歩くなどする。

健やかに伸び伸びと育つ

おおむね 1歳3か月～1歳6か月未満

おおむね1歳3か月～1歳6か月未満

子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に手伝ってもらいながら、スプーンを使って自分で食べようとする。(判断と行動) ・歩く、押す、つまむ、引っ張るなど運動の種類が豊かになる。(判断と行動) ・ものをやり取りしたり取り合ったりするなど、人やものへ関わろうとする。(結い) ・大人の言うことが分かるようになり、応答的な関わりを喜ぶ。(結い・表現と反応) 								
養護	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの生活リズムを大切にしながら、快適に生活し健康で安全に過ごせるようにする。 ・一人一人の甘えや要求を十分に満たし、ゆったりとした関わりの中で安心して過ごせるようにする。 ・身の回りに対する興味や関心を大切に、保健的で安全な環境の中で、十分に探索活動ができるようにする。 ・一人一人の欲求や甘えを丁寧に受け止め、応答的な関わりをし、情緒の安定を図る。 								
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で活動しやすい環境の中で、自由に体を動かす。(判断と行動) ・身の回りの様々なものを触って遊び、外界に対して好奇心や関心をもつ。(結い) ・保育者との信頼関係が深まる中で、自分の気持ちを安心して表す。(結い・表現と反応) 								
5領域	内 容								
健康	<table border="1"> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">判</td> <td>・保育者に手伝ってもらいながら、スプーンを使って食べようとしたり、コップや椀を両手で持って飲もうとしたりする。</td> </tr> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">結</td> <td>・オムツがぬれていない時は便器に座ってみる。</td> </tr> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">判</td> <td>・保育者に着替えさせてもらいながら、手や足を通そうとする。</td> </tr> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">判</td> <td>・戸外で遊ぶ。(一人歩きを十分に作る)</td> </tr> </table>	判	・保育者に手伝ってもらいながら、スプーンを使って食べようとしたり、コップや椀を両手で持って飲もうとしたりする。	結	・オムツがぬれていない時は便器に座ってみる。	判	・保育者に着替えさせてもらいながら、手や足を通そうとする。	判	・戸外で遊ぶ。(一人歩きを十分に作る)
判	・保育者に手伝ってもらいながら、スプーンを使って食べようとしたり、コップや椀を両手で持って飲もうとしたりする。								
結	・オムツがぬれていない時は便器に座ってみる。								
判	・保育者に着替えさせてもらいながら、手や足を通そうとする。								
判	・戸外で遊ぶ。(一人歩きを十分に作る)								
人間関係	<table border="1"> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">結</td> <td>・保育者と安定した関係のもとで一人遊びを十分に作る。</td> </tr> </table>	結	・保育者と安定した関係のもとで一人遊びを十分に作る。						
結	・保育者と安定した関係のもとで一人遊びを十分に作る。								
環境	<table border="1"> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">判</td> <td>・自分の持ち物が分かり始める。</td> </tr> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">結</td> <td>・つまむ・めくるなど、手や指を使って遊んだり、色々な素材に触れたりして遊ぶ。</td> </tr> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">判</td> <td>・様々な玩具や用具に興味をもち、触ったり使ったりして遊ぼうとする。</td> </tr> </table>	判	・自分の持ち物が分かり始める。	結	・つまむ・めくるなど、手や指を使って遊んだり、色々な素材に触れたりして遊ぶ。	判	・様々な玩具や用具に興味をもち、触ったり使ったりして遊ぼうとする。		
判	・自分の持ち物が分かり始める。								
結	・つまむ・めくるなど、手や指を使って遊んだり、色々な素材に触れたりして遊ぶ。								
判	・様々な玩具や用具に興味をもち、触ったり使ったりして遊ぼうとする。								
言葉	<table border="1"> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">判</td> <td>・保育者と一緒に、簡単な挨拶をしぐさや片言でする。</td> </tr> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">結</td> <td>・知っているものや欲しいものを指さしや身振りで知らせる。(一語文が出始める)</td> </tr> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">表</td> <td>・簡単な繰り返しの言葉や擬音語などを真似て言う。</td> </tr> </table>	判	・保育者と一緒に、簡単な挨拶をしぐさや片言でする。	結	・知っているものや欲しいものを指さしや身振りで知らせる。(一語文が出始める)	表	・簡単な繰り返しの言葉や擬音語などを真似て言う。		
判	・保育者と一緒に、簡単な挨拶をしぐさや片言でする。								
結	・知っているものや欲しいものを指さしや身振りで知らせる。(一語文が出始める)								
表	・簡単な繰り返しの言葉や擬音語などを真似て言う。								
表現	<table border="1"> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">表</td> <td>・大人の動作を真似たり、繰り返しの動作を楽しんだりする。</td> </tr> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">表</td> <td>・歌や音楽を聴いたり、音に合わせて体を動かしたりする。</td> </tr> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">結</td> <td>・つまむ・めくるなど、手や指を使って遊んだり、色々な素材に触れたりして遊ぶ。</td> </tr> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">表</td> <td>・往復線やなぐり描きをする。</td> </tr> </table>	表	・大人の動作を真似たり、繰り返しの動作を楽しんだりする。	表	・歌や音楽を聴いたり、音に合わせて体を動かしたりする。	結	・つまむ・めくるなど、手や指を使って遊んだり、色々な素材に触れたりして遊ぶ。	表	・往復線やなぐり描きをする。
表	・大人の動作を真似たり、繰り返しの動作を楽しんだりする。								
表	・歌や音楽を聴いたり、音に合わせて体を動かしたりする。								
結	・つまむ・めくるなど、手や指を使って遊んだり、色々な素材に触れたりして遊ぶ。								
表	・往復線やなぐり描きをする。								

<p>環境構成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ流れ、同じ場所で食べることで、安心して食べられるようにする。 ・戸外での遊びは、安心して遊べるように、できるだけ同じ場所を選ぶようにする。 (乳児用の砂場など) ・一人遊びや模倣遊びがゆっくりできるように、遊具の種類や適切な量を常に用意し、満足感がもてるようにする。 ・自分が触れると音や手触りや動きなどが得られることに気付き、その反応を楽しめるような玩具を用意する。 ・日常の生活や持ち物が分かるように、子どもが使うものや場所に分かりやすいマークを付ける。 ・狭い所に入りたいなどの好奇心を満足させる遊び場をつくり、手や体の様々な動きを楽しみながら、探索を十分にできる環境を整える。 ・自分の行きたいところに行き、安心して遊びながら、見る、聞く、触る、などの感覚を味わえるように時間や場を保障する。 ・肘を支えとした動きでなぐり描きができるように、滑りのよい紙を準備する。
<p>援助</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で食べようとする意欲を大切にしながら、一人一人に合った言葉掛けや援助をしていく。 ・身の回りのことを子どもが自分のペースで進められるように「自分でやりたい」という気持ちを大切に、できることとできないことを見極め先回りせずに援助する。また、満足感がもてるように目を合わせ、褒めたり、励ましたりする。 ・一人一人の排泄間隔を把握し、タイミングに合わせてトイレに誘い、便器での排泄に慣れるようにする。 ・子ども同士が「たのしいね」「おもしろいね」と思えるようにそばで見守り、子どもの気持ちを橋渡しする。 ・子どもの要求する気持ちを受け止め、伝えなかった思いを言葉で表現しながら丁寧に応えていく。 ・子どもが発する喃語や言葉に応答し、保育者とのやり取りを楽しめるようにする。
<p>遊び</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全身遊び(トンネル、スロープ、マット、滑り台、押し車、ボールプールなど) ・手や指を使う遊び(型はめ、シールめくり、積み木、ポットン落とし、なぐり描きなど) ・感覚遊び(水、砂、泥、粘土、寒天、片栗粉、米粉、小麦粉など) ※アレルギー児には、十分注意して取り入れる ・手遊び、ふれあい遊び(いないいないばあ、きゅうりもみ、おすわりやすなど) ・見立て、つもり遊び(人形、ままごとなど) ・絵本(繰り返しの話、言葉、歌やリズムに合わせたお話など)
<p>家庭・地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の時のスプーンの持ち方や援助の仕方、子どもの発見や喜びへの共感、1対1での絵本の読み聞かせや触れ合いなど、園で大事にしていることを知ってもらい、家庭と共に進めていけるように話をしていく。 ・発達の個人差が見られるようになり、保護者が不安を抱きやすくなる時期なので、クラス懇談会や個別面談などを通して家庭や園での様子を伝え合い、子どもの成長の見通しを具体的に知らせるようにする。

おおむね 1歳6か月～2歳未満

おおむね1歳6か月～2歳未満

おおむね 1歳6か月～2歳未満		
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> • 好き嫌いははっきりしてくるが、好きなものは自分で意欲的に食べる。(判断と行動) • 排泄間隔が長くなり、出た時に知らせたり、オマルや便器でしたりすることがある。(判断と行動) • つまむ、めくるなど、手や指を使った遊びができるようになる。(結い) • 登ったり、くぐったり、全身を使って遊ぶ。(表現と反応) • ものを仲立ちとした触れ合いや、他のものに見立てるなど周囲との関わりをもつようになる。(結い) • 自我が芽ばえ、要求を言葉やしぐさで伝える。(表現と反応) 	
養護	<ul style="list-style-type: none"> • 身の回りに対する興味や関心を大切にしたり、十分に認めたりしながら、自分でしようとする気持ちが育つようにする。 • 自我の芽生えを大切に、一人一人の生理的欲求や甘えを受け止め、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。 	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> • いろいろな食べ物に興味をもち、自分で食べようとする。(判断と行動) • 保育者と一緒に遊んだり、見守られながら一人遊びをしたりする。(判断と行動・結い) • 保育者と一緒に絵本を見たりふれあい遊びをする中で簡単な言葉の繰り返しや模倣を楽しむ。(表現と反応) 	
5領域	内 容	
健康	判	• スプーンを使うことに慣れ、こぼしながらも、自分で食べようとする。
	判	• 保育者の声掛けでトイレに行き、見守られて排泄をしようとする。
	判	• パンツやズボンを自分ではこうとする。
	判	• 歩く、走る、登るなど、戸外で体を動かして遊ぶ。
人間関係	結	• 保育者に見守られながら、身近な大人や友達に関心をもち、やっていることを真似たり、一緒にいることを喜んだりする。
	表	• 「自分で」と言いながら要求を通そうとする。
	判	• 保育者の言葉掛けで気持ちを切り替えようとする。
環境	判	• 身の回りの玩具や遊具に興味をもって探索したり、触れたりして遊ぶ。
	判	• 日常使用するものの場所や、自分の持ち物が分かる。
言葉	判	• 名前を呼ばれると、返事をする。
	結	• 保育者と一緒に簡単な挨拶をする。
	表	• ものの名前を言ったり、「なに？」と指さしをしたりする。
	表	• して欲しいことを言葉で伝えようとする。
	判	• 危ないことが分かり始める。
表現	表	• 保育者と一緒に歌を歌ったり、手遊びをしたり、音楽に合わせて体を動かしたりすることを楽しむ。
	結	• 自然物を含めた様々な素材に触れて遊ぶ。
	表	• 腕全体を使って、グルグルまるをかく。

<p>環境構成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で食べようとする意欲がもてるように、落ち着いた場所を用意する。 ・転倒や転落などにつながるような危険物を点検し、安全な環境を整える。 ・ものの置き場所に写真やマークを付け、いつも同じ場所に同じものが置いてあるようにしておく。 ・興味や関心を満たし、探索活動が十分できる環境を用意する。（自然を取り込んだ戸外遊び、つまんだり、引っ張ったり、触って、試すことができるなど探索を十分できる室内環境、跳ぶ、くぐる、押す、引っ張る、登る、降りるなどの動きができるような遊具） ・いつでもなぐり描きが楽しめるように、場所や用具を用意しておく。
<p>援助</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で食べたいという意欲を大切にし、食べている様子をしっかり認める。 ・自分でしようとしている時や夢中になっている時は温かく見守り、興味や好奇心を満たすようにする。 ・個人差の著しい時期であることを考慮し、一人一人の発育や発達状況に合わせて対応する。 ・子どもの気持ちや感情に寄り添い選択肢を広げるなど、気持ちの切り替えができるような配慮を行う。 ・子どもの発見や驚きに共感し、言葉や表情で対応していく。 ・子どもの言葉にできない思いを察し、受け入れて代弁していく。 ・見立て遊びや模倣遊びの仕方を知らせ、楽しさを共有できるようにする。
<p>遊び</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全身遊び（トンネル、スロープ、マット、滑り台、押し車、段差上り下りなど） ・手指を使う遊び（なぐり描き、積み木、型はめ、シール貼り、型はめパズルなど） ・感覚遊び（水、砂、泥、粘土、寒天、片栗粉、米粉、小麦粉、自然物など） ※アレルギー児には、十分注意して取り入れる ・手遊び、ふれあい遊び（一本橋、きゅうりもみ、おふねはぎっちらこなど） ・見立て、つもり遊び（人形、ままごとなど） ・絵本（繰り返しのお話、言葉、歌やリズムに合わせたお話など）
<p>家庭・地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄面など発達の個人差がみられることは、保護者と話し合いながら進めていく。 ・着脱など身の回りのことを自分でしようとする姿が増えるので、着脱しやすい物を用意してもらうなど、園と家庭が連携し、自分でできたという喜びが感じられるようにしていく。 ・クラス懇談会や個別面談などを通して家庭や園での様子を伝え合い、子どもの成長の見通しを具体的に伝えるようにする。

おおむね 2歳～2歳6か月未満

おおむね2歳～
2歳6か月未満

5領域		コンセプト	内 容
子どもの姿			<ul style="list-style-type: none"> ・好みは出てくるものの自分で食べる意欲が高まり、こぼしながらも一人で食べようとする。(判断と行動) ・排泄が徐々に自立しトイレで排泄することが増える。(判断と行動) ・走る、両足で跳ねる、段差から跳ぶなどに挑戦する。(判断と行動) ・自我が強くなり、自分でやろうとする気持ちが高まる。(判断と行動) ・様々なものを探したり集めたり「これなあに？」と盛んに尋ねる。(結い・表現と反応)
養護			<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達に応じた生活リズムがつくられていくようにする。 ・自我の芽生えを大切にして、一人一人の生理的欲求や甘えを受け止め、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。
ねらい			<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことに興味をもち、保育者に見守られながら、簡単なことは自分でしようとする。(判断と行動) ・全身を使う(ぶら下がったり低い段差をとび降りたりする)遊びをする。(判断と行動) ・友達の遊びや行動に興味をもち、保育者の仲立ちで関わって遊ぶ。(結い)
健康	判		・食べ物に興味をもち、スプーンを使って自分で食べようとする。
	判		・自分から、あるいは言葉を掛けてもらうなどして、トイレに行き排泄しようとする。
	判		・口を拭く、手を洗う、うがいをする、着替えるなど、保育者の手を借りながら少しずつ自分でしようとする。
	判		・行動範囲が広がり、斜面や段差など変化のあるところを喜んで歩く。
人間関係	結		・友達のしている遊びに興味をもち、同じことをしようとする。
	結		・自分のものと他者のものの区別気付く。
	結		・生活や遊びの中で「順番」「待つ」などのきまりがあることを知る。
環境	結		・身近な草花や生き物に興味をもち、触れて遊ぶ。
	結		・いろいろな玩具に興味をもち、触れてみようとする。
言葉	結		・保育者との応答的な関わりを楽しむ。
	表		・自分のしたいことやして欲しいことを、言葉で伝えようとする。(二語文が始まる。)
	結		・好きな絵本を繰り返し見る。
表現	表		・絵本や紙芝居を楽しんで見たり聞いたりし、保育者と一緒に模倣遊びをする。
	表		・保育者や友達と一緒に歌ったり、音楽に合わせて体を動かしたりする。
	表		・いろいろな素材の感触を楽しんだり、かいたりする。

環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことが、自分でできるように動線や環境を工夫する。 ・全身を使った活発な遊びが多くなるので、安全な環境を整え、休息を十分にとれるようにする。 ・手指を使って十分に遊べるように素材や用具を用意し、指の使い方を覚え楽しめるようにする。 ・ゆったりとした雰囲気の中で子どもが興味をもって、つもりや見立て遊びを楽しめるように、家庭にあるような馴染みのある遊具や用具を用意する。 ・子どもの気持ちや思いを代弁したり遊びを仲立ちしたりして、友達と一緒にいることが楽しいと感じられるような雰囲気づくりをする。
援助	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に食べようとする気持ちを大切にし、偏らないように交互食べができるような言葉掛けをしたり、タイミングを見ながら、介助したりしていく。 ・トイレで排泄した時は一緒に喜び、オムツやパンツが汚れた時は優しく声を掛けて、きれいになった心地よさを感じられるようにする。 ・自分でしようとしている時や、夢中になっている時は温かく見守り、援助が必要な時はさりげなく手伝うなど、自分でしようとする気持ちを尊重する。 ・活動範囲が広がり、探索活動が活発になるため、活動の姿（安全）や子ども相互のかかわりなどに十分注意を払う。 ・友達と一緒にしたいという欲求が満たせるように、保育者が仲立ちとなり、友達の気持ちや関わり方を丁寧に伝えていく。
遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・全身運動（滑り台、ぶらさがり遊び、巧技台など） ・手や指を使う遊び（ひも通し、型はめパズル、洗濯バサミ、紙など） ・感覚遊び（粘土、水、泥、砂、ワカメなど） ※アレルギー児には、十分注意して取り入れる ・手遊び、ふれあい遊び（一本橋、ひげじいさん、きゅうりもみ、バスにのってなど） ・見立て、つもり遊び（人形、ままごとなど） ・絵本（繰り返しのお話、言葉、歌やリズムに合わせたお話など）
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本に興味を示す時期なので、家庭でも子どもにゆっくり、はっきり話し掛けたり、絵本を読んでもらったりするように働き掛け、言葉の発達を促す。 ・「じぶんで」「いや」などの思いを出す子どもとの生活や、関わっていく保護者の大変さを受け止めつつ、自我が育ってきている時期であることを伝えていく。また、「～したい」「やってみよう」という気持ちを見守ったり一緒にしたりなど、子どもとの関わりについて共に考えていく。 ・懇談会や保育参観などを通して、日々の姿や成長を伝え合ったり、保護者同士が子育ての悩みなどを共有し合ったりできるような場をつくっていく。

おおむね 2歳6か月～3歳未満

おおむね2歳6か月
～3歳未満

5領域		コンセプト	内容
子どもの姿			<ul style="list-style-type: none"> ・食事や排泄、着脱など身の回りのことを保育者に手伝ってもらいながら、しようとする。(判断と行動) ・行動範囲が広がり、活発に遊ぶ。(判断と行動) ・かく、丸める、ひねる、折るなど手や指先を使って遊ぶ。(結い) ・保育者や友達と一緒に言葉のやり取りをしながら見立て遊びやつもり遊びをする。(結い)
	養護		<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの生活リズムや発達過程に合わせ、活動内容のバランスや調和を図りながら、遊びと休息がとれるようにする。 ・保育者との信頼関係のもとで自発性や探索活動を高め、安心して生活できるようにする。
	ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の援助を受けながら、身の回りの簡単なことを自分でしようとする。(判断と行動) ・室内や戸外で体を十分に動かして遊ぶ。(判断と行動) ・保育者や友達と簡単な言葉のやり取りをしながら、関わって遊ぶ。(結い・表現と反応)
健康	判		・自分のペースで食べようとする。
	判		・尿意を感じると知らせ、保育者と一緒にトイレに行き排泄しようとする。
	判		・簡単な着替えをしようとし、自ら布団に入って寝ようとする。
	判		・保育者に見守られながら、靴を履こうとする。
人間関係	結		・親しみをもって保育者や友達の名前を呼び、簡単な挨拶をする。
	表		・保育者や友達と見立てやつもり遊びを楽しむ。
	判		・待つことや交代すること、順番などが分かり始める。
環境	判		・遊びの終わりが分かり、保育者と一緒に片付けようとする。
	結		・ものの大小や、色などに興味をもち、違いに気付く。
言葉	結		・親しみをもって保育者や友達の名前を呼び、簡単な挨拶をしようとする。
	表		・生活に必要な簡単な言葉が分かり使おうとする。
	表		・要求など、言葉で伝えようとする。
	表		・様々なことに興味をもち「これ、何？」と盛んに問いかける。
表現	結		・保育者や友達と手遊びやふれあい遊びを楽しんでする。
	表		・ちぎる、ひねる、丸めるなどの指先を使う遊びをする。
	表		・いろいろな素材の感触を味わいながら、かいたりつくったりする。

<p>環境構成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食事や排泄、睡眠、衣服の着脱などに見通しがもてるように、生活の流れをつくり、子どもの状態に応じて落ち着いた雰囲気の中で行えるようにする。 ・活動的な遊びや戸外遊びが十分楽しめるように、安全な環境のもと、用具や遊具の準備や場の設定を工夫する。 ・友達と見立てやつもり遊びが楽しめるように、保育者が一緒に遊んだり、イメージしやすい遊具や用具を用意したりする。 ・手先や指先を使った細やかな遊びにじっくり取り組めるように、数や場所に配慮し、用意する。 ・子どもが感じ取れるように、繰り返しやリズムが単純な絵本を用意する。
<p>援助</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことについて自分でできるところは見守り、必要な援助はさりげなく行い、「できた」という達成感が味わえるように行う。 ・「自分で」という思いを受け止め、「〇〇したいんだね」「どうする?」と自分で選び決められるようにし、揺れ動く気持ちに寄り添いさりげなく援助を行う。 ・友達の動きや思いを代弁しながら、友達といることが楽しいと感じられるような経験を多くもてるようにし、声掛けを大切にする。 ・子どもの思いを表情や態度からくみとり、話したい内容を保育者が言葉で返し、疑問には丁寧に応えるようにする。 ・順番や交代などを知らせることで、友達との遊びがより楽しくなるようにする。 ・イメージが広がるように子どもの見立てに共感する。
<p>遊び</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全身遊び（滑り台、おいかっこ、築山登り下り、巧技台、ぶら下がり遊びなど） ・手や指を使う遊び（パズル、紙、ひも通し、シール貼りなど） ・感覚遊び（水、砂、泥、小麦粉、のり、ワカメなど） ※アレルギー児には、十分注意して取り入れる ・手遊び、ふれあい遊び（ひげじいさん、きゅうりもみ、ぽっとななど） ・見立て、つもり遊び（人形、ままごと、粘土、積み木など） ・絵本（繰り返しの話、言葉、歌やリズムに合わせたお話など）
<p>家庭・地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自分でできたという満足感が味わえるように、着脱しやすい衣服や靴を選んだり、見守ったり、一緒にしたり、手助けしたりなど家庭と共に関わり方を考えていく。 ・子ども同士の思いのぶつかり合いを否定的に感じないように、子どもの思いや保育者がどう関わったかを丁寧に伝え、成長に必要な過程の一つとして捉えてもらえるようにする。 ・懇談会や保育参観などを通して、日々の姿や成長を伝え合ったり、保護者同士が子育ての悩みなどを共有し合ったりできるような場をつくっていく。

2歳児

自我の育ちと自立心の芽生えの時期です。子どものあるがままを温かく受け入れ、励ましながら意欲を育んでいきます。



発達の特徴

- ・手指の操作や、歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動機能が向上し、食事や排泄、着脱などの基本的な生活習慣の自立が進み始める。
- ・語彙数が著しく増加し、自分の意思や欲求を言葉で表現するようになったり、盛んに質問をしたりするようになる。
- ・同じ遊びをそれぞれが楽しんでいる平行遊びであることが多いが、友達との関わりも見られるようになってくる。
- ・自我の育ちや言葉の発達とともに、自己主張や反抗が強くなる。
- ・身近な人や事物に興味をもって、行動や身振り、言葉などを盛んに真似て遊ぶようになり、見立てつもり遊びや、保育者や友達と一緒にごっこ遊びを楽しむようになる。

【1期】 安心できる環境のもとで、「自分で」「いや」が出せるようになる時期

- ・1期は、新入園児入所や、新しい環境（部屋・担任）などの変化があるので、あえて「安心した環境の中で」という表記を使っています。
- ・不安や戸惑いを感じていることを十分理解し、さまざまな態度で表す子どもの気持ちを丁寧に受けとめ、信頼関係を築いていくことが大切です。

【2期】 「これは？」「なに？」と、保育者や友達のしていることに興味や関心を示す時期

- ・言葉への興味が広がり、語彙も急速に増え、二語文から三語文が出始めます。「これなに？」「あれは？」と盛んに質問をするので、保育者は子どもの興味にできるだけ寄り添いながら関わり、甘えや自分の気持ちを素直に出せるようにすることが大切です。

【3期】 「みてみて」と主張したり、「やったー！」「できた」という満足感を味わう時期

- ・3期の『養護』で、2期と比べて「不安」という言葉がないのは、この時期になると環境が整い、落ち着き不安もなくなっているということで、取り除いています。
- ・自分でしようとする気持ちを受けとめ、見守ったり、方法を知らせたりしながら、自分なりにできた喜びを感じられるようにしていくことが大切です。

【4期】 「かして」「いいよ」と、保育者が仲立ちとなり、友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる時期

- ・4期の『養護』で、「安心」を「安定感」に変更しているのは、「安定感」とは、安心する気持ちをもって継続する状態として捉えています。

- 友達と一緒に遊ぶことの楽しさを感じられるように、互いの気持ちを言葉にして仲立ちをしながら、子ども同士の関係を支えていくような関わりが大切です。

保育上の工夫

- 子ども一人一人が、健やかに育つような人的・物的環境を構成し、安全面への十分な配慮を心掛けます。
- 保育者との安心できる関係のもと、情緒の安定を図りながら生活習慣の自立に向け丁寧な関わりをもち、育ちを保障するためにゆるやかな『育児担当保育』をしています。
- 子どもの主体性を大切にし、それぞれの子どもを受容し丁寧な関わりを行うとともに、集団における育ちや、3歳児以降の教育への移行を視野に入れて保育を行います。
- 子どもの生活に寄り添い、保護者の子育てを支援します。共に子どもの育ちを喜び合う保育を目指します。
- 「自分でする」という自己主張を大切にするとともに、「できない」「して」という甘えにも十分応え、生活の自立を温かく見守り支えます。
- 意欲的にいろいろなことに挑戦しようとするが、「失敗しても大丈夫」であるということを伝えながら、意欲や自信につなげていきます。
- 身近な大人の真似や経験したことを再現して楽しむ遊びは、子どもが「自分以外の人やもの」に興味をもち始めたことを示します。見立てが楽しくなるようないろいろな道具を用意しましょう。
- 自己主張や「イヤイヤ」がある時は、根気強く聞いたり、気持ちを切り替えるために環境を変えたりしながら、一対一でじっくりと関わるのが大切です。



2歳児 1期（4～5月）

期の特徴		安心できる環境のもとで、「自分で」「いや」が出せるようになる時期												
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に慣れ、食事や衣服の着脱、排泄など身の回りのことを、保育者と一緒に経験を重ねながら自分でしようとする意欲が出てくる。（判断と行動） ・園庭や戸外に出かけ、春の草花や小さな生き物に触れながら探索を楽しむ。（結い） ・保育者に見守られながら、自分のしたい遊びを楽しむ。（結い） ・保育者に自分の思いをしぐさや態度、簡単な言葉で伝えようとする。（表現と反応） ・いろいろな遊びに興味をもつ。（結い） 												
養護		<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の健康状態や心身の状態を把握し、快適に生活できるようにする。 ・一人一人の不安や欲求を受け止めながら、安心して過ごせるようにする。 												
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・保育者との安心できる関係のもとで、食事や排泄など、身の回りの簡単なことを自分でしようとする。（判断と行動・結い） ・保育者に見守られながら、自分のしたい遊びを見つけて遊ぶ。（結い・表現と反応） 												
5領域	コンセプト	内容	10の姿の芽生え											
			健康	自立	協同	道徳	社会	思考	自然	数量	言葉	豊か		
健康	判	・保育者や友達と一緒に喜んで食事をする。	◎				○							
	判	・トイレの使い方を知り、保育者に誘われて一緒にトイレに行き排泄しようとする。	◎	○										
	判	・保育者の手を借りながら、パンツやズボンなどを自分で着脱しようしたり、靴を履いたりしようとする。	◎	○										
	判	・保育者に見守られながら、自分で手洗いをしようとする。	◎	○										
	結	・保育者に見守られながら、安心して眠る。	◎	○										
人間関係	結	・保育者に親しみをもち、甘えたり一緒に遊んだりする。			○	○	○							
	結	・友達のしている遊びに興味をもち、同じ遊びをしようとする。		◎	○		○							
環境	結	・保育室など新しい生活の場や生活リズムに少しずつ慣れる。	○	◎			○							
	結	・自分のマークを見つけ、安心して生活する。	○	◎			○							
	結	・いろいろな玩具に興味をもって触れて遊ぶ。		◎				○						
	結	・園庭や散歩では草花を摘んだり虫を探したりして、春の自然に触れる。	○					○	◎					
言葉	表	・簡単な挨拶やしたいこと、してほしいことを、言葉やしぐさで伝えようとする。		○			○					◎		
	表	・保育者や友達の名前を呼んだり、名前を呼ばれると返事をしたりする。		○			○					◎		
	結	・絵本や紙芝居を読んでもらうことを喜ぶ。					○			○	◎			
表現	表	・保育者と一緒に歌や手遊びを繰り返す楽しむ。					○						◎	
	表	・指先を使った遊びを楽しむ。		○						○			◎	
	表	・粘土や紙、砂などの身近な素材に触れる。		○									◎	

1期（4～5月）
2歳児

環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者がそばで見守り、一人一人の子どもの欲求や気持ちを十分に受け止めながら安心して過ごせるようにする。 ・一人一人の持ち物の置き場所やロッカーにマークを付け、安心感がもてるようにする。 ・静かな音楽を流すなど、落ち着いて眠ることができる環境をつくる。 ・子どもの興味や関心に合わせた遊具や玩具を用意し、一人一人がしたい遊びを安心して遊び始められる空間づくりを工夫する。 ・身近にある春の自然物や生き物を子どもと一緒に見たり触れたりしながら、興味をもてるようにしていく。 ・砂場や遊具など興味をもった場所で、十分に遊べるように時間を確保する。 ・遊具の安全点検をするとともに、危険のないよう子どもの様子や遊び方を把握しておく。 ・季節に合わせた歌や手遊び、子どものよく知っているふれあい遊びなどを用意する。
援助	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の好みや食べる量を把握し、そばにいて安心して食べられるようにする。 ・一人一人の排泄の間隔を把握しながらトイレに誘い、一緒に行くなどして安心して排泄できるようにする。 ・保育者がそばに付き、袖まくりを手伝ったり言葉を掛けたりしながら、手洗いの仕方を丁寧に知らせていく。 ・睡眠の仕方や癖などを把握し、安心して眠ることができるよう寝る場所を決めたり、そばについたりして気持ちに寄り添う。 ・子どもと一緒に遊ぶ中で、一人一人の興味のある遊びや落ち着く場所を把握し、不安を和らげるようにする。 ・心地よいリズムやテンポの絵本を選び、言葉の響きや繰り返しのおもしろさを一緒に楽しむ。
遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外遊び（ブランコ、すべり台、砂場、ままごとなど） ・ふれあい遊び（きゅうりもみ、いっぽんばし、もしもしかめよなど） ・手や指を使った遊び（ひも通し、シール貼り、パズル、ペグさし、ブロックなど） ・見立て・つもり遊び（ままごと、ぬいぐるみ、人形、車、積み木など） ・手遊び（キャベツの中から、一本橋、小さな畑など）
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・入園や進級の期待や不安を受け止め、安心して生活ができるように、送迎時や連絡帳を通して子どもの日々の様子を伝え合い、信頼関係を築いていく。 ・家庭との連絡帳や家庭訪問などでアレルギーや健康状態、家庭での様子を把握し、一人一人に合った対応に努める。 ・生活や遊びにおいて個人差を踏まえて、家庭と連携をとりながら子どもの育ちを見守り支援していく。 ・言葉の発達の個人差に留意しながら対応していく。

1期
(4~5月)
2歳児

2歳児 2期（6～8月）

期の 特徴		「これは?」「なに?」と、保育者や友達のしていることに興味や関心を示す時期											
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> • 保育者に手伝ってもらいながら、食事や着脱、排泄など身の回りのことを自分でしようとする。(判断と行動) • 回りのしていることに興味を示し、つもり遊びや見立て遊びが多くなる。(結い) • 水や砂、泥などに触れて遊ぶ。(結い) • 自分の思いや要求を通そうとして、自己主張が強くなる。(表現と反応) 											
養護		<ul style="list-style-type: none"> • 一人一人の健康状態に合わせて、水分補給や休息がとれるようにする。 • 夏季の衛生面に留意し、清潔に気持ちよくゆったりと過ごせるようにする。 • 一人一人の不安や欲求を受け止めながら、安心して思いを表せるようにする。 											
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> • 保育者と一緒に身の回りの簡単なことを自分でしようとする。(判断と行動) • 保育者や友達と一緒に夏の遊びを十分楽しむ。(結い・表現と反応) • 保育者や友達と一緒にしたい遊びを楽しむ。(結い・表現と反応) 											
5領域	コンセプト	内 容	10の姿の芽生え										
			健康	自立	協同	道徳	社会	思考	自然	数量	言葉	豊か	
健康	判	• 楽しく食事をしながら、いろいろなものを食べてみる。	◎	○			○						
	判	• 自分から言葉や態度で尿意を知らせたり、保育者に誘われて排泄したりする。	◎	○				○					
	判	• 簡単な衣服は自分で着脱しようとする。	◎	○									
	判	• 手や服の汚れに気付くと保育者に知らせ、手を洗ったり着替えたりしようとする。	◎	○								○	
	結	• 保育者に見守られながらぐっすりと眠る。	◎	○									
人間関係	結	• 友達のしている遊びに興味をもったり、同じことをしたりして、友達と関わろうとする。		◎	○		○						
	結	• 生活や遊びの中で、順番や待つことなどのきまりがあることを知る。		○	○	◎							
環境	結	• 夏野菜（トマト、キュウリ、ピーマン、オクラなど）を見たり、触れたりする。	○					○	◎				
	結	• 身近な小動物に興味をもち、見たり触れたりする。							◎	○			
	結	• 水の感触を味わいながらプール遊びを楽しむ。	◎						○				
	表	• 水や砂、泥などに触れながら、夏の遊びを楽しむ。	○							○		◎	
言葉	表	• 簡単な話の内容が分かり、喜んで見たり聞いたりする。								○	◎	○	
	表	• したいことやして欲しいことを言葉やしぐさで伝える。									◎		
表現	表	• 好きな歌を覚えて保育者と一緒に歌ったり、音楽に合わせて体を動かしたりする。		○									◎
	表	• 思い思いに塗りたいくったり、かいたり、つくったりすることを楽しむ。							○				◎
	結	• いろいろな素材に触れて楽しむ。							○				◎

2歳児 2期（6～8月）

環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・夏を快適に過ごせるように風通しを良くし、室温調節をする。 ・戸外にパラソルや寒冷紗などを出して日陰をつくり、涼しいところで遊べるようにする。 ・水遊びの用意を分かりやすく伝え、子どもが自分で始末しやすいように環境を整えておく。 ・砂や泥、水遊びが十分に楽しめるよう、遊具や用具を工夫する。 ・個人差に応じてプール遊びが楽しめるように、大小のプールやタライを用意したりするなど、安全面や気持ちに配慮した工夫をする。 ・子どもが見やすい場所に、飼育ケースなどを置く。
援助	<ul style="list-style-type: none"> ・夏野菜と一緒に見たり触ったりして、子どもの発見や驚きに共感する。 ・暑さのため食が進まない時は、食事量を調整し、少しでも食べられた時は認めたり励ましたりしていく。 ・尿意を伝えてきた時には受け止め、一人一人に応じた関わりをする。 ・水の苦手な子どもには、楽しみながら安心して徐々に水に慣れていくことができるように配慮する。 ・保育者と一緒にダンゴムシやカタツムリなどの小さな生き物を見つけたり、動きを体で表現したり、関連した絵本を読んだりしながら身近に感じられるようにする。 ・自分でやろうとする気持ちを大切にし、見守ったり励ましたり、さりげなく手助けしながら意欲を育てていく。 ・疲れやすい時期なので、一人一人の健康状態に気を配り、水分補給や、活動と休息のバランスに配慮する。 ・子どもの表現しようとする気持ちを受け止め、共感しながら意欲につなげていく。 ・子どもの思いを受け入れ、保育者が仲立ちとなり、子ども同士お互いの気持ちが伝わるように援助していく。
遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外遊び（プランコ、すべり台、ままごとなど） ・ふれあい遊び（きゅうりもみ、ずっくぼんじょなど） ・手や指を使った遊び（ひも通し、パズル、ペグ差し、ブロック、新聞ちぎりなど） ・見立て、つもり遊び（ままごと、人形、車、積み木、お風呂ごっこなど） ・手遊び（ワニの親子、グーチョキパー、イワシのひらきなど） ・プール遊び（水の中を歩く〔アヒル歩き、ワニ歩き〕、水に浮く玩具、カップや容器、ペットボトルシャワーなど） ・水遊び（色水、しゃぼん玉など） ・感触遊び（フィンガーペインティング、のり、砂、土、泥、片栗粉など）
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・登園時、健康観察や連絡ノートで健康状態を確認し合い、体調に合わせた水遊びができるようにする。 ・暑い時期なので気を付けたいことや夏に多い感染症などについて、看護師と連携してたよりなどで保護者に伝え、園と家庭で予防に努める。 ・何でも「自分で」「自分が」と、自己主張が増えるが、自我の育ちであることを伝え、子どもの成長として受け止められるようにしていく。 ・自己主張が強くなり友達とぶつかることもあるが、言葉を添えながら、共感的に関わっていることを伝える。また、保護者同士が理解し合えるように双方の思いや状況を丁寧に伝え、わだかまりのないようにする。 ・して良い事やいけないこと、決まりがあることやその大切さを、保護者と共有しながら子ども達に伝えていくようにする。 ・歯科健診をきっかけに、歯の大切さや歯磨きの必要性などを伝え、家庭で実施するように促す。

2歳児 3期（9～12月）

期の 特徴		「みてみて」と主張したり「できた」「やったー！」という満足感を味わう時期											
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・保育者と一緒に繰り返すことで、排泄、着脱など、身の回りのことを自分でしようとする。（判断と行動） ・体を動かすことを喜び、保育者と一緒に全身を使った遊びを繰り返す。（結い） ・保育者や友達と一緒に自分なりのイメージをもって、見立てやつもり遊びを楽しむ。（結い・表現と反応） ・遊びの中で玩具の取り合いなどが見られるが、保育者を仲立ちとして相手の思いを知るようになる。（結い） 											
養護		<ul style="list-style-type: none"> ・季節の変化や気温差に留意し、健康で快適に過ごせるようにする。 ・一人一人の欲求を丁寧に受け止め、安心して思いを表せるようにする。 											
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの簡単なことを自分でしようとする。（判断と行動） ・室内や戸外で、保育者や友達と一緒に、十分に体を動かして遊ぶ。（表現と反応） ・自分なりの見立てやつもり遊びを楽しみながら、保育者や友達と関わって遊ぶ。（結い・表現と反応） 											
5 領域	コメント	内 容	10の姿の芽生え										
			健康	自立	協同	道徳	社会	思考	自然	数量	言葉	豊か	
健康	判	・苦手なものも、誘われて少しずつ食べてみようとする。	◎	○				○					
	判	・自分でトイレに行き、パンツやズボンを下げて排泄しようとする。	◎	○				○					
	判	・手や衣服が汚れると保育者に知らせて、手洗いをしたり着替えたりする。	◎	○				○					
	判	・自分から布団に入り、眠ろうとする。	◎	○				○					
	判	・走る、ジャンプする、登る、下りる、転がる、くぐるなど全身を使った遊びを繰り返し楽しむ。	◎	○				○					
人間関係	結	・保育者や友達、身近な人と関わって遊ぶことを楽しむ。			◎	○	○						
	結	・遊びの中で、保育者を仲立ちとして相手の思いを知る。			◎	○	○						
	結	・保育者や友達と一緒に真似たり、見立てやつもり遊びをしたりする。			◎	○	○					○	
環境	結	・どんぐりや木の実、草花、落ち葉などに触れたり、友達と一緒に集めたりして遊ぶ。						○	◎				
	結	・遊具や玩具の場所が分かり、保育者と一緒に片付けようとする。		○									
言葉	表	・自分がしたいことや、周りの出来事を保育者に話そうとする。		○				○			◎		
	表	・絵本や紙芝居を見たり聞いたり、繰り返しのある言葉を楽しむ。								○	◎	○	
表現	表	・生活や遊びの中で、自分なりに表現する。				○	○					◎	
	表	・音楽やリズムに合わせた体の動きを楽しむ。		○							○	◎	
	表	・いろいろな素材に触れ、見立てたり、かいたりつくったりして遊ぶ。						○	○			◎	

3期（9～12月）
2歳児

環境構成	<ul style="list-style-type: none"> • 手洗いやうがいなど風邪の予防に努めるとともに、室温や湿度、換気に配慮していく。 • 気温や一人一人の体調、活動に合わせて衣服の調節を行う。 • 身の回りのことが自分でしやすいように、動線や環境を工夫する。 • 全身を使った活発な遊びや戶外での遊びが安全に楽しめるよう、遊具や用具の準備、場の設定を工夫する。 • 秋の自然にゆったり触れられる場所の下見や散歩の計画をしておく。 • 一人一人の虫かごや散歩バッグを用意し、見つけたものを入れたり持って帰ったりできるようにする。 • 見立てやつもり遊びがしやすいもの(布、紙、自然物、さまざまな道具など)を用意し、自分の遊びがじっくり楽しめるようにする。
援助	<ul style="list-style-type: none"> • 食材に興味をもてるように、見たり触れたりする機会をもつ。 • 気温や活動、一人一人の健康状態に合わせて衣服を調節できるよう声を掛けたり、援助したりする。 • うがいや手洗いの大切さや、そのやり方を分かりやすく伝える。 • パンツやズボンを下げる位置や体と便器の位置などを一人一人丁寧に知らせていく。 • 自分で身の回りのことをしようとする姿を認め、次の意欲につながるようにする。 • 自分の思いを通そうとして思いがぶつかった時は、双方の気持ちを受け止め、気持ちの立て直しができるようにする。 • 保育者が仲立ちとなって一緒に遊ぶことを通して、周りの友達と関わりがもてるようにする。 • 散歩に出かけ自然に触れて遊ぶ中で、季節を知らせたり、驚きや発見に共感したりする。 • 絵本の中の繰り返しのある言葉や登場人物などを遊びに取り入れ、保育者と一緒に楽しむ。 • いろいろな音やリズムが楽しめるように、音の鳴る玩具を自由に鳴らしたり子どもの好きな曲を選んだりして、保育者も一緒に楽しむ。
遊び	<ul style="list-style-type: none"> • 運動遊び(走る、跳ぶ、またぐ、登る、下りる、押す、引っ張る、ぶら下がる、くぐる、渡るなど) • 戶外遊び(三輪車、ボール、ブランコ、ジャングルジム、すべり台、砂遊びなど) • ふれあい遊び(なべのくり、ひらいたひらいたなど) • 手や指を使った遊び(ひも通し、パズル、ペグ差し、ブロック、ドミノ、積み木、粘土、のりなど) • 見立て、つもり遊び(ままごと、遠足ごっこ、運動会ごっこなど) • 手遊び(こぶたぬきつねこ、やきいもグーチーパー、大きなくりの木のくさりで、どんぐりどんぐりなど) • お話遊び(繰り返しのあるものなど) • 自然物に触れる遊び(散歩、虫を見たり触れたりする、木の葉、木の実で遊ぶなど) • いろいろなもので音を鳴らす遊び
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> • 活動量が増え疲れやすくなるので、家庭でも十分に休息をとってもらえるようにする。 • 健康で安全な生活習慣(薄着、手洗い、うがい)などを定着させることの大切さを知らせていく。 • 子どもの言葉をゆっくりと聞いて受け止め、自ら話そうとする意欲を育てていく。 • 感染症が流行しやすい時期となるため、看護師と連携しながら家庭でも健康管理に気を付けるよう伝える。 • 園での姿や生活の中で大切にしていることを知らせ、自分でできることは家庭でも同じようにしてもらい、自分なりにできた喜びに共感してもらえるようにする。

2歳児 4期（1～3月）

期の 特徴		「かして」「いいよ」と、保育者が仲立ちとなり、友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる時期												
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に見守られながら身の回りの簡単なこと（食事、排泄、着脱、睡眠など）を自分でしようとする。（判断と行動） ・歩く、走る、跳ぶなど、自由に体を動かすことができるようになる。（表現） ・友達と関わることが増え、少人数でごっこ遊びを楽しむようになる。（結い） ・言葉数が増え、生活の中でしたいことやして欲しいことを言葉で伝えられるようになる。（表現と反応） 												
養護		<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の体調に留意し、健康に過ごせるようにする。 ・一人一人の思いを十分に受け止め、安定感をもって過ごせるようにする。 												
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・一人で身の回りのことができることを喜び、自分でしようとする。（判断と行動） ・保育者や友達と一緒に簡単なごっこ遊びを楽しむ。（結い・表現と反応） ・見たこと、感じたことを言葉やしぐさで伝えようとする。（表現と反応） 												
5 領域	コメント	内 容	10の姿の芽生え											
			健康	自立	協同	道徳	社会	思考	自然	数量	言葉	豊か		
健康	判	・いろいろな食材を楽しく自分から進んで食べる。	◎	○					○					
	判	・尿意や便意を感じたら自分でトイレに行き、後始末や手洗いをしようとする。	◎	○					○					
	判	・簡単な衣服は自分で着脱する。	◎	○					○					
	判	・鼻水が出ていることに気づき知らせたり、自分で拭いたりする。	◎	○								○		
	判	・戸外で自分から体を動かして遊ぶ。	◎	○										
人間関係	判	・保育者の言葉掛けで自分の順番が分かり、待つことができるようになる。			○	◎	○							
	結	・気の合う友達と一緒に過ごすことを喜び。		○	◎		○							
	結	・保育者や友達と関わりながら遊ぶ。			◎	○	○							
環境	結	・雪や氷などの冬の自然に触れてみようとする。			○					◎	○			
	結	・散歩などを通して、春の訪れを感じる。	○							◎			○	
言葉	判	・生活に必要な簡単な言葉が分かり、使おうとする。		○								◎		
	結	・保育者や友達とごっこ遊びをする中で、簡単な言葉のやり取りをする。			○			○				◎		
	表	・言葉の繰り返しや、模倣遊びを楽しむ。						○				◎	○	
表現	表	・経験したことや興味のあることをいろいろな方法で表現する。							○			○	◎	
	表	・リズムにのって歌を歌ったり、体を動かしたりする。		○								○	◎	
	表	・かいたりつくったり自分なりに表現しながら、意味づけするようになる。							○			○	◎	

4期（1～3月）
2歳児

<p>環境構成</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 暖房により室内が乾燥しがちになるので、換気や温度、湿度に配慮しながら快適に過ごせるようにする。 • 室内外で安全に遊べるように遊具の配置やスペースの取り方を工夫するとともに、定期的に玩具や遊具の点検や消毒を行う。 • 防寒着は始末しやすい場所を用意しておく。 • 簡単なごっこ遊びや、身近に経験したことなどを再現したり表現したりできるように、様々な道具を用意する。 • 冬の遊びが十分楽しめるように環境を工夫する。
<p>援助</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 保育者や友達と会話を楽しみながら、和やかな雰囲気で作られるようにする。 • トイレの後始末は、自分でしようとしていることを認めながら確認し、難しいところはさりげなく援助する。 • 手洗い、うがいの大切さを知らせ、丁寧にできているか見守り、一人一人の体調管理に気をつける。 • 一人でできることに喜びがもてるようにゆっくり見守り、一人一人に合わせて細やかに援助し、自信がもてるようにする。 • 戸外で思いきり体を動かして体の温まる遊びなどに誘いかける。 • 子ども同士のやり取りを大切にしながら、遊びの中で友達との関わりがもてるように仲立ちをしていく。 • 幼児クラスと交流する機会をもち、進級することに安心と期待がもてるようにする。
<p>遊び</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 運動遊び（走る、跳ぶ、またぐ、登る、押す、引っ張る、ぶら下がる、くぐる、渡る、転がるなど） • 戸外遊び（ボール、三輪車、すべり台、追いかっこ、砂遊びなど） • ふれあい遊び（おしくらまんじゅう、なべなべそこぬけなど） • 手や指を使った遊び（ひも通し、パズル、ペグ差し、ブロック、ドミノ、積み木など） • ごっこ遊び（ままごと、お店屋さんごっこ、お医者さんごっこなど） • 正月遊び（簡単なこままわし、凧遊び、簡単なカルタなど） • 手遊び（コンコンクシャン、ごんべさんの赤ちゃん、グーチョコキパー、ゆきだるまのチャチャチャなど）
<p>家庭・地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> • インフルエンザや感染症が流行する時期なので、園からのたよりなどで症状や予防法を知らせ、早期発見に努める。 • 食事や着替え、片付けなどを自分でする喜びを感じられるように、家庭でも最後まで見守ったり、できたことを十分に褒めたりしてもらうように伝える。 • 1年間の成長を知らせ、喜び合い、安心して進級できるよう丁寧に話し合う。 • 進級するにあたり、必要な持ち物などを早めに知らせ、準備をしてもらう。

3歳児

自分の思いを十分に出す時期です。

したいことや好きなことを思う存分にできるようにしていきます。



発達の特徴

- 基礎的な運動能力が育ち、走る、跳ぶ、投げる、ぶら下がるなどの基本的な動作が一通りできるようになります。自分の体の動きをコントロールしたり、身体感覚を高めたりしていきます。
- 食事、排泄、衣服の着脱など基本的な生活習慣がある程度自立できるようになっていきます。
- 子どもが理解する語彙数が急激に増加し、日常生活での言葉のやりとりが活発になっていきます。
- 友達への興味や関心が広がり、友達と関わりながら一緒に遊ぶことが増えていきます。トラブルになることもありますが、徐々に友達と分け合ったり、順番に使ったりするなど、きまりを守ることを覚えていきます。
- 周囲への関心や注意力、観察力が伸び、気付いたことを言葉で言ったり遊びに取り入れたりしながら、人との関わりを育てていきます。イメージを広げながらごっこ遊びを楽しみ、その中で身の回りの大人の行動や日常の経験を取り入れて、再現するようになります。

【全期】

- 乳幼児期から幼児期への移行に伴い、クラス人数や職員配置人数が変わるなど、生活環境が変化していきます。2歳児から進級する子どもと、3歳児から入園する子どもとの個人差への配慮も必要です。経験や環境、個の特性を踏まえて、一人一人の育ちを見守り、集団の中での情緒の安定を個々に図ることが大切です。特に1期と2期では「保育者との信頼関係を基盤に」という視点を持ち、生活習慣や遊びを見直しています。
- 「生き物」は小動物や虫などを総称して表しています。特に強調したい時には、「虫」など具体的に表記しています。

【1期】 安心できる人やものとの関わりを基盤にして、新しい環境に慣れ、新しい生活の仕方を 知る時期

- 新しい環境に慣れ、徐々に安定していくように「保育者と一緒に」という視点を軸にしています。
- 環境構成で、遊具については「目につきやすい場所」数は「多め」と記したのは、使いたいものですぐに遊べる場を保障することで、安定しやすくなると捉えたからです。
- 援助では「一人一人に丁寧に応じる」という姿勢をもつことや、個人差が著しくあることへの配慮が欠かせません。

※2歳児クラスから進級した子どもと、3歳児から入園する子どもとの間で、集団生活経験の有無により、対応の仕方が異なることがありますので、配慮すべき点を記しています。

【2期】 身の回りのもの・ことや、友達のしていることに関心をもつようになる時期

- ・保育者がいることで安心し、周囲にあるもの・ことに関心を向けたり、友達のしていることに目を留め、同じようなことをしたりする姿が見られるようになります。
- ・着替えが多くなる時期なので、自分で着脱しようとする意欲を育てていく援助も大切です。

【3期】 保育者や友達のしていることに興味をもち、自分から遊ぼうとする時期

- ・運動会を通して異年齢児への遊びに興味をもつようになるなど、戸外で体を動かして遊ぶことが増え、行動範囲が広がっていきます。「内容」に「いろいろな運動・遊び」と記しているのは、興味や関心の広がりをおお切にする必要があるからです。「子どもの姿」に「したい遊び」と記したのも、いろいろな遊びに、自ら「したい」という意思や意欲をもって取り組む姿が見られるようになるからです。
- ・遊びの選択に関する子ども自身の意思は必ずしも明確には示されず、身近にあるものや近くにいる人に興味があひかれて、関わっている可能性が高いことを考慮し、「したい遊び」を用いています。

【4期】 自分の思いを出しながら、したい遊びを十分に楽しむ時期

- ・同じ友達と遊びの場を共にしたり行動したりしたいという思いが出てきます。そこで、友達との関係の変化に着目し、「子どもの姿」に「一緒に遊びたい友達」、「ねらい」に「気の合う友達」と記しています。また、グループである遊びを楽しめるようになってくるので、「簡単なルールのある遊びをする」と記しています。

【5期】 自分のしたい遊びを気の合う友達と関わりながら遊ぼうとする時期

- ・「ねらい」や「内容」において、「したい遊び」が1日だけでなく、日を超えて継続することを考慮しています。
- ・進級に向けて、自分でできる喜びを保育者が認めたり励ましたりして、自信がもてるように配慮することが大切です。

保育上の工夫

- ・新しい生活環境の中で、保育者との信頼関係を基盤に、情緒の安定を図ることが大切です。個人差への配慮や一人一人への丁寧な援助を心掛けています。
- ・「またやりたい」「もっとしたい」という意欲を育てていくために、いろいろな経験を繰り返し積み重ねていける場と時間を確保することが必要です。
- ・「自分で」という自我を友達との関わりの中で表せるように配慮することや、保育者や友達とつながりやすくするように環境づくりを工夫することが必要です。



3歳児 1期 (4~5月)

期の 特徴	安心できる人やものとの関わりを基盤にし、新しい環境に慣れ、新しい生活の仕方を知る時期											
子どもの姿	<p>【2歳児クラスからの進級児】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の部屋やマークが分かり、保育者に見守られたり手伝ってもらったりしながら、身の回りの準備や始末をする。(判断と行動・結い) 進級することを喜び、興味をひいたものや場所で遊ぼうとする。(結い) 保育者との一対一の関わりの中で安心感をもち、喜んで登園する。(結い) 保育者のいるところに集まり、保育者のすること、話すことに関心をもつ。(結い) <p>【新入園児】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の部屋やマークがあることを知り、保育者を手伝ってもらいながら身の回りの準備や始末をしようとする。(判断と行動・結い) 園の遊具や場所・保育者などに興味をもつ。(結い) 保育者と関わる中で親しみをもち、喜んで登園する。(結い) 保育者のすることや話すことに関心を寄せる。(結い) 新しい環境に不安を感じ、周囲の友達の様子を見て楽しんだり、泣いて母親から離れなかつたりする。(表現と反応) 											
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 保育者の手助けにより身の回りのことをしようとする。(判断と行動) 身近な遊具に興味をもち、遊ぼうとする。(判断と行動・結い) 保育者に親しみをもって安心して過ごす。(結い・表現と反応) 保育者と一緒に喜んで歌を歌ったり手遊びをしたりする。(表現と反応) 											
5領域	コンセプト	内容	10の姿の芽生え									
			健康	自立	協同	道徳	社会	思考	自然	数量	言葉	豊か
健康	判	・1日の生活の流れを知り、保育者と一緒に身の回りの始末をしようとする。	◎	○								
	判	・身近な遊具や用具に触れて遊ぶ。	◎	○								
	結	・身の回りのことを保育者と一緒にする中で生活の仕方を知る。	◎				○					
人間関係	判	・興味をもった遊びを保育者や友達と一緒にする。		◎				○			○	
	結	・気に入った場所や遊具を見つけて、保育者や友達と安心して過ごす。	◎	○								
環境	判	・手洗いの仕方や、トイレの場所を知り、園での生活に慣れる。	◎	○			○					
	結	・自分のマークがわかり、ロッカーや靴箱の場所を知る。		◎						○		
	結	・身近な遊具や用具の安全な使い方を知る。				○	◎					
言葉	結	・保育者と一緒に園庭の草花を摘んだり、小さな生き物を見たり触れたりして親しみをもつ。							◎		○	
	判	・挨拶をしたり、呼ばれたら返事をしたりする。					○				◎	
	表	・保育者の話を楽しんで聞いたり、応答したりする。					○				◎	
表現	表	・保育者を真似て動くことを喜ぶ。			○							◎
	表	・身近な材料を使って、思いのままにかいたりつくったりする。						○				◎
	表	・保育者と一緒に知っている歌を歌ったり、簡単な手遊びをしたりする。									○	◎

1期 (4~5月) 3歳児

環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の場所が分かるように個別のマークを決めて表示し、安心して生活ができるようにする。 ・一人一人が安心して遊べるように、今まで遊んだことのある遊具などを選び、子どもの目に付きやすい場所に、多めに用意する。 ・子どもが遊びに取りかかりやすいように、登園する前に遊びの場を少しつくったり、絵表示などの目印を付けたりして配慮する。 ・遊びが交錯しないようにカーペットや畳を敷くなど、落ち着いて遊べるように場の配慮をする。 ・ぬいぐるみやペープサートなどを媒介にして話し掛けることで、保育者に親しみをもたせる工夫をし、保育者の言葉を聞いたり、言葉を発したりしやすいようにする。 ・聞いたことのある歌や簡単な手遊びなどを取り入れて、生活を楽しめるようにする。 ・絵がはっきりしたものや話が短く分かりやすいものを選んで読み聞かせをし、絵本に興味をもてるようにする。
援助	<ul style="list-style-type: none"> ・個人差に配慮しつつ、一人一人の子どものありのままの姿を温かく受け入れ、保育者と心のつながりをもてるようにする。 ・新しい環境に対する一人一人の緊張感や不安を受け止め、名前を呼んで話し掛けたりスキンシップを図ったりして、安心して過ごせるようにする。 ・生活習慣に関わることは、一人一人に応じて保育者と一緒にしたり見守ったりして丁寧に関わることで、自分でしようとする気持ちをもてるようにする。 ・春の身近な自然物や生き物に興味をもてるように、子どもと一緒に草花を摘んだり生き物に触れたりする。 ・一人一人の興味を探り、遊びに誘ったり一緒に遊んだりして楽しめるようにする。
遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や園で経験している遊び（ままごと、人形、レールや汽車、ブロック、油粘土、絵をかくなど） ・砂場遊び（ごちそうづくり、カップの型押しなど） ・固定遊具を用いた遊び（すべり台、ブランコなど） ・草花を摘んだり見たりする遊び ・生き物を見たり触れたりする遊び（ダンゴムシ、アリ、メダカなど） ・ふれあい遊びや手遊び、わらべうた遊び（トントントンひげじいさん、先生とおともだち、ぽっとななど）
3歳児クラスから配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣に関することは、仕方を一つずつ分かりやすく知らせる工夫をし、個別に丁寧に関わる。 ・園に来たくなるように楽しい雰囲気保育室を飾ったり、家庭でよく用いられているような遊具を数多く、目に付く場所に用意したりする。
2歳児クラスから配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・できることを認めたり手助けしたりしながら、生活習慣が身に付くように再確認していく。 ・今まで遊んだことのある遊びを用意するなどし、遊ぼうとする姿を見守りながら、少しずつ新しい友達と共に過ごせるように保育者が仲立ちとなる。 ・2歳児クラスとの生活時間の流れの違いに戸惑わないように一人一人に丁寧に伝え、見守る。
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・学級懇談会や学級だより、連絡帳を通して、子どもの様子や1日の保育の流れなど園生活を伝え合い、保護者と信頼関係を築いていく。 ・生活調査票や家庭訪問などでアレルギーや健康状態、家庭での様子や緊急時の連絡先を把握し、個別の対応に努める。 ・降園時などにできるだけ保護者一人一人に声を掛け、親の気持ちや不安を受け止められるようにする。 ・子どもが安心して生活を送れるように、所持品の始末や身の回りのことなどについて家庭との連携を密にし、個別に応じる。また、自分でしようとする意欲を促すために子どもの扱いやすいものを用意する大切さを知らせていく。

1期
4～5月
3歳児

3歳児 2期 (6~8月)

期の特徴		身の回りのもの・ことや、友達のしていることに関心をもつようになる時期												
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> 園生活の仕方に慣れ、身の回りの簡単なことを自分でしようとする。(判断と行動) 水や砂、泥の感触を味わいながら、思う存分遊ぶ。(表現と反応) 保育者や友達と触れ合いながら、いろいろな遊びを楽しむ。(判断と行動) 友達と一緒に遊んだり生活をしたりする中で、いろいろな約束やきまりを知る。(結い) 												
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> 園生活の仕方に慣れ、身の回りの簡単なことを自分でしようとする。(判断と行動) 保育者や友達と触れ合いながら、いろいろな遊びを楽しむ。(判断と行動) 水や砂、泥の感触を味わいながら、思う存分遊ぶ。(表現と反応) 友達と一緒に遊んだり生活をしたりする中で、いろいろな約束やきまりを知る。(結い) 												
5領域	コンセプト	内容	10の姿の芽生え											
			健康	自立	協同	道徳	社会	思考	自然	数量	言葉	豊か		
健康	判	・手洗いや用便、衣服の着脱などを自分でしようとする。	◎	○										
	判	・水遊びに必要な約束を知って、遊ぼうとする。	◎			○								
人間関係	結	・保育者や友達のしていることに興味をもち、真似たり触れ合ったりしながら遊ぶ。		◎			○							
	結	・保育者や友達と一緒に水の感触を味わいながら、プール遊びをする。	◎											○
	表	・保育者に親しみをもって、簡単な挨拶をする。						◎					○	
	表	・保育者や友達と一緒に、体操したり音楽に合わせて体を動かしたりする。	◎		○									○
環境	判	・いろいろな遊具や用具に関心をもち、自分で使ってみようとする。		◎				○						
	結	・身近な草花や生き物を見たり、触れたりして親しみをもつ。								◎				○
	結	・保育者と一緒に花の種や夏野菜の苗を植える。								◎	○			○
	結	・はさみやのりの使い方を知る。				○	◎							
言葉	判	・保育者の簡単な話が分かり、行動する。		◎				○					○	
	結	・保育者の話を喜んで聞く。						○					◎	
	結	・食育に関する絵本や紙芝居などを見聞きする。	◎										○	
	表	・したいことやして欲しいことを自分なりに言葉や動作で表現しようとする。						○					◎	○
表現	表	・水や砂、泥、絵の具、粘土などの感触を楽しんで遊ぶ。									○	○		◎
	表	・好きなものになって遊ぶことを喜ぶ。		○										◎
	表	・簡単なリズム楽器に親しみ、鳴らして遊ぶ。		○										◎
	表	・身近な素材に親しみ、触れて遊ぶ。							○					◎

2期 (6~8月) 3歳児

環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・プール遊びの身仕度や片付けなど自分でできるようにゴザやシート、プール鞆をかけるものなどを用意する。 ・プール遊びでは、自然に水に親しめるように、身近な容器のシャワーや浮く遊具などで遊んだり、好きな動物や乗り物などになっていろいろな動きを楽しんだりできるようにする。 ・涼しいところで遊べるように、パラソルやテントを張って日陰をつくったり木陰を利用したりする。 ・水遊びが存分に楽しめるように、水鉄砲やジョウロ、タライ、いろいろな容器などを使いやすい場所に置いておく。 ・水や砂、土などに触れて存分に楽しめるように、場と時間を確保する。 ・保育者と一緒にダンゴムシやカタツムリなどの生き物を見つけたり、園内の栽培物を見たりして、身近な自然物に触れることで興味の幅を広げていくようにする。また、小動物の動きを身体で表現したり、関連した絵本を読んだりして、より身近に感じられるようにする。 ・保育室近くに夏野菜の苗や種を植えることで、興味や関心をもてるようにする。
援助	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の着脱では、自分なりにやってみようとする意欲を認めたり、除々に自分でできるように具体的にやり方を知らせたり励ましたりして個別に関わる。 ・園生活に慣れてくる半面、園生活の疲れがでてくる子どももいるので、保育者はできるだけゆったりと受け入れ、一人一人と丁寧に関わるようにする。 ・気候や気温に応じて水遊びをする時間帯を変えたり、早めに切り上げたりするなど配慮する。 ・暑い日は、水分を十分にとり、休息をとるなどして体調への配慮を行う。プール遊びや戸外遊び後は、室内でゆったりと過ごすことができるようにする。 ・プール遊びをするときの手順は、保育者が模範を示しながら、具体的に伝える。 ・プール遊びでは、水の量を加減したり、水に抵抗がある子どもには、そばで手をつなぐなど安心できるようにしたりしながら、徐々に水に慣れるようにする。 ・水や砂、土などに保育者自ら積極的に触れ、その心地よさを言葉や表情で知らせたり、楽しさを共感したりして、子どもが思い切り遊べるようにする。 ・夏野菜の世話は、保育者が進んで声を掛けて一緒にに行い、その生長に気付くように、興味や関心が広がるようにする。 ・友達への関心が芽生えてくる頃なので、意図的に子どもの名前を呼ぶ機会を多くして、互いの名前に気付かせるようにする。また、友達の遊んでいる様子を伝えたり、互いの遊びの場が見渡せるように場を整えたりする。 ・ものの取り合いになったときは、できるだけその子の気持ちに沿うように対応し、自分の思いを出す心地よさを感じられるようにする。
遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・プール遊び（ワニやカエルになって動く、走る、ペットボトルシャワー、フープくぐりなど） ・水遊び（水かけ遊び、泡遊び、洗濯遊び、シャボン玉遊び、色水遊びなど） ・感触を楽しむ遊び（土粘土、泥んこ遊び、指絵の具など） ・生き物を見たり触れたりする遊び（カタツムリ、オタマジャクシ、ザリガニなど） ・ごっこ遊び（ままごとなど） ・積み木遊び ・かいたりつくったりする遊び（フィンガーペイント、七夕の笹飾りなど） ・体操したり踊ったりする遊び ・楽器遊び（カスタネット、鈴など）
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の着脱、用便、手洗い、食事など園生活の中で、自分で頑張ろうとしている姿を知らせ、家庭でも同様に時間的に余裕をもって取り組めるように、また少しずつできることを認め励ますように促す。 ・暑さや水遊びで体力を消耗したり、体調を崩したりする時期なので、食事や睡眠などに気を付け、健康に過ごせるように話し合ったり、学年・学級だよりなどで知らせたりする。 ・プール遊びは、入水の可否など、プールカードに記入してもらい、体調管理に協力を求める。 ・健康診断の結果を知らせ、治療を要する場合は受診を促す。 ・期末頃に個人懇談をもうけ、一人一人の成長を認め合うようにする。 ・食育に関する情報や取組を知らせ、家庭との連携をとりながら食への関心を高めていく。

2期(6~8月)
3歳児

3歳児 3期（9～10月）

期の 特徴		保育者や友達のしていることに興味をもち、自分から遊ぼうとする時期												
子どもの 姿		<ul style="list-style-type: none"> •身の回りのことを自分でしようとする。（判断と行動） •戸外に出て遊ぶことを喜び、保育者と一緒に自分のしたい遊びを見つけたり、気に入った遊具で遊んだりする。（表現と反応） •砂や水などの感触を楽しみ、見立てる、つくるなどをして遊ぶ。（結い） •友達の動きを真似たり、同じように遊んだりすることを喜び。（結い） •自分の思いを表情や動き、言葉などで保育者に伝えようとする。（表現と反応） 												
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> •自分でできることが分かり、自分でしようとする。（判断と行動） •全身を動かして遊ぶことを楽しみ、繰り返し遊ぶ。（表現と反応） •身近な自然物に触れたり、集めたりして遊ぶ。（結い） •保育者や友達と一緒に楽しんでいろいろな遊びをする。（結い） 												
5領域	コンセプト	内 容	10の姿の芽生え											
			健康	自立	協同	道徳	社会	思考	自然	数量	言葉	豊か		
健康	判	•手洗い、うがい、着替えなど自分で行う。	○	◎										
	判	•いろいろな運動に興味をもち、戸外で体を動かして伸び伸びと遊ぶ。	◎	○										
人間関係	判	•簡単な手伝いをしようとする。		◎			○							
	結	•生活や遊びに必要な簡単な約束や決まりを知り、守ろうとする。					◎	○						
	結	•保育者や友達、異年齢児のしていることに興味をもち真似たり一緒に遊んだりする。			◎		○							
	結	•大勢の友達と一緒にいろいろな遊びをするを喜び。			◎									○
環境	結	•虫や木の実、木の葉などに触れたり、集めたりする。								◎	○			○
	結	•サツマイモを収穫する喜びを味わう。								◎				○
	結	•遊具や用具の安全な扱い方を知る。	○			◎								
言葉	結	•関心をもって保育者の話を聞く。							○			◎		
	表	•自分の感じたことやして欲しいこと、困っていることなどを自分なりの言葉で伝えようとする。					○	○				◎		
表現	表	•身近な素材や用具で、好きなものをかいたりつくったりする。		○					○					◎
	表	•音楽に合わせて、自分なりに体を動かすことを喜び。	○											◎
	表	•生活の中でいろいろな音や色、形に関心をもつ。									◎			○

3期（9～10月）
3歳児

<p>環境構成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や周辺の環境に慣れ、遊具や用具などの置き場を把握している子どもが増えてくるので、自分から進んで片付けたり整理したりできるように、分かりやすく表示する。 ・身近なところに運動用具を用意し、遊び方を知らせながら、子どもの興味に合わせていろいろな組み合わせを楽しめるようにする。 ・音楽にのって踊ったり走ったりして体を動かす気持ちよさを味わいやすくするために、運動会で使う手具や曲などを身近なところに置いておく。 ・見つけてきた自然物を遊びに使えるように、目に触れやすい場所に置いておく。また、虫とりも楽しめるように、網や虫かご、飼育ケースなどを用意する。 ・秋の自然物に親しみ、秋を感じられるように、場所や時間について子どもの負担を考慮し、地域へ散歩に行ったり遠足に出かけたりする。 ・友達や異年齢児と同じことがしたいという要求に応じられるように、ものを十分に用意したり、貸し借りができるように仲介したりして、一人一人が満足して遊べるように配慮する。
<p>援助</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の思いを受け止めたり、見守ったりしながら、必要に応じて手助けし「できた」という満足感を味わえるようにする。 ・保育者のしていることを真似たり、手伝いをしたいと思ったりした時は、その気持ちを受け止め、生活の中で簡単な手伝いができるように働き掛けていく。 ・固定遊具やいろいろな運動に興味をもって取り組もうとする意欲を十分に認め、体を動かす楽しさが味わえるように、保育者も一緒に積極的に戸外へ出て遊ぶ。 ・大勢で一緒に走ったり、音楽にのって体を動かしたりする楽しさを味わいながら、運動会への期待感を高めていく。 ・異年齢児と一緒に活動することが増えてくるので、その機会を捉え、憧れや親しみの気持ちをもてるようにする。 ・話す喜びを感じられるように、思いが相手に伝わりにくい時は、言葉を補ったり話そうとする意欲を大事に受け止めたりする。
<p>遊び</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動用具を使っでの遊び（固定遊具、スクーター、フープ、ボールなど） ・運動会でする遊び（かけっこ、体操、表現遊び、ダンスなど） ・自然物に触れる遊び（種、虫、草花、木の実、木の葉など） ・ごっこ遊び（おうちごっこ、電車ごっこなど） ・つくったりかいたりする遊び（音の鳴るもの、旗など） ・音楽に合わせて体を動かしたり、音を鳴らしたりする遊び（手作り楽器など） ・ふれあい遊びや手遊び、わらべうた遊び
<p>家庭・地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活のリズムを取り戻せるように、家庭の様子を聞いたり園の子どもの姿を伝えたりしながら、保護者にもゆったりと受け止めてもらえるようにする。 ・運動会に向けた活動や子どもの様子を丁寧に伝え、親子ともに運動会を楽しみに待てるようにする。 ・子ども同士のトラブルが出てくる時期なので、具体的な姿を知らせ、自己主張や友達への関心の表れなど、発達の過程として生じていることを伝える。 ・手伝いや簡単な当番を喜ぶ姿を伝え、3歳児なりに人のためになる喜びを感じるこの大切さを伝える。そして家庭でも家族の一員として、手伝ったり一緒にしたりしながら、できることを続けてみることを推奨する。

3歳児 4期（11～12月）

期の 特徴		自分の思いを出しながら、したい遊びを十分に楽しむ時期												
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> 園生活に必要なことがわかるようになり、できることを自分からしようとする。（判断と行動） 行動範囲を広げ、自分のしたい遊びを繰り返して遊ぶ。（結い） 一緒に遊びたい友達ができて、同じ事をしたり、同じものを持ったりすることを喜ぶ。（結い） 異年齢児の遊びに関心をもち、真似たり、近くで見たりする。（結い） 遊びや生活に必要な言葉を使おうとしたり、保育者や友達の言葉を聞こうとしたりする。（表現と反応） 												
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> 身の回りのことに気付き、自分から行動する。（判断と行動） 素材や自然物に触れて遊ぶことを楽しむ。（結い） 気の合う友達と親しんで一緒に遊んだり、行動したりする。（結い） 思ったことや見たことを保育者や友達に喜んで話す。（表現と反応） 大勢で遊ぶ遊びに興味をもち、喜んで取り組む。（結い） 												
5領域	コンセプト	内 容	10の姿の芽生え											
			健康	自立	協同	道徳	社会	思考	自然	数量	言葉	豊か		
健康	判	・持ち物や防寒具の始末を自分からする。	○	◎										
	判	・手洗いやうがいの大切さを知り、自分からしようとする。	○	◎										
	判	・体を動かす遊びに興味をもって自分から取り組む。	◎	○										
人間関係	結	・友達とかかわりながら、一緒に遊ぶ。			◎	○								
	結	・保育者や友達と一緒に簡単なルールのある遊びをする。			○	◎								
	表	・自分の経験したことや思ったことを保育者や友達に話そうとする。		○			○					◎		
環境	判	・いろいろな遊びに興味をもち、繰り返して遊ぶ。	○					○						◎
	結	・木の実や落ち葉を集めたり、身に着けたりして遊ぶ。							◎	○				○
	結	・遊具や用具を大切にしたり、順番に使ったりする。				◎	○							
	結	・球根に関心をもって見たり、植えたりする。							◎	○				
言葉	結	・絵本や紙芝居などを大勢で楽しんだり、ごっこ遊びに取り入れたりする。			○							◎	○	
	表	・遊びに必要な簡単な言葉のやり取りを楽しむ。			○		○					◎		
表現	表	・音楽に合わせて動いたり、楽器を鳴らしたりすることを喜ぶ。	○											◎
	表	・身近な素材や用具を使って、自由にかいたりつくったり、できたものを好きなものに見立てて遊ぶ。							◎					○

4期（11～12月）
3歳児

環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいことへの興味や、自分でやってみようとする意欲の表れに応じて、それぞれの子どもが存分に楽しめるような場を確保したり、遊具や用具などの種類や量を調節したりする。 ・わらべうた遊びや鬼遊び、縄遊びなど全身を使って遊べる場を確保するとともに、クラスの友達と遊ぶ楽しさが感じられるような雰囲気づくりをする。 ・かいたりつくったりすることが十分に楽しめるように、素材や用具を子どもの身近なところに整理して用意しておく。 ・日頃から木の葉が色付いたり、木の実が落ちたりする時期などを把握しておき、自然物に十分親しんで遊べるような環境を身近な場所に用意する。 ・歌や楽器、わらべうた遊びなどを通して、集団で遊びを経験する機会をもつ。 ・クラスで集まった時に、本で行った遊びなどを伝える機会をもつ。自分の話を友達や保育者に聞いてもらえることに喜びを感じ、話すことについて少しずつ自信がもてるようにする。
援助	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で身の回りのことをしようとする姿を十分に認めたりほめたりして、次の意欲につながるようにする。反面、寒くなると手洗いや用便などルーズになることもあるので、一人一人に応じて声を掛けていく。 ・防寒具では、ファスナーやボタンの着脱の仕方を丁寧に知らせ、見守ったり手助けをしたりしながら自分でできた喜びがもてるようにする。 ・イメージしたことやしてみたいと望んだことについて、保育者が手助けしながら実現に近づけ、遊びに満足感が得られるようにする。 ・木の葉や木の実を一緒に探しに出かけたり、栽培物を見たりしながら、子どもの発見や感動に共感する。 ・トラブルが生じた時には、それぞれの気持ちを受け止め、思いを代弁したり、相手の気持ちを伝えたりする。 ・保育者も遊びに加わり、友達と関わったり一緒に遊んだりする楽しさやおもしろさを伝える。
遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・自然物を使った遊び（木の実、木の葉など） ・ごっこ遊び（ままごと、電車ごっこ、病院ごっこなど） ・運動遊び（固定遊具、ボールなど） ・お話遊び ・楽器遊び（カスタネット・鈴、手作り楽器など） ・歌ったり踊ったりする遊び（どんぐり、サンタクロースなど） ・鬼遊びや簡単なゲーム遊び（かくれんぼ、お引越しゲーム、いすとりなど） ・かいたりつくったりする遊び（お話遊びに使うもの、遊びや生活に使うもの） ・わらべうた遊び（むっくりくまさん、おんまつりのうたなど）
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の調節やうがい、生活リズムの調節など、園での具体的な取り組みを伝え、冬に向けて健康な体づくりを園と家庭で協力して進める。 ・自分で防寒着の始末がしやすいように、紐を付けるなどの対応を保護者に依頼する。 ・冬に流行しやすい感染症について知らせ、予防と適切な対応の大切さを伝える。 ・「春日若宮おんまつり」があることを知らせ、保護者が奈良の伝統行事に関心をもてるようにする。

4期
（11月～12月）
3歳児

3歳児 5期（1～3月）

期の特徴		自分のしたい遊びを気の合う友達と関わりながら遊ぼうとする時期										
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りのことができるようになり、安定した気持ちで自分から取り組む。（判断と行動） 素材や自然物に触れて、かいたりつくったりすることを自分なりに楽しむ。（結い） 気の合う友達と誘い合って遊ぶようになり、一緒に行動することが増えてくる。（結い） 自分の気持ちや困っていること、してほしいことなどを保育者に自分なりの言葉や方法で伝えようとする。（表現と反応） 保育者や友達と走ったり、鬼ごっこをしたりなど、みんなと一緒に体を動かすことを楽しむ。（結い） 											
	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> できるようになったことを喜び、進級への期待をもって生活する。（判断と行動） 自分の思いを表現しながら、したい遊びを存分に行う。（結い） 氷や霜、雪など、冬の身近な自然に触れて遊ぶ。（結い） 気の合う友達に関わりながら、楽しんで遊ぶ。（結い） 大勢で遊ぶ楽しさを感じ、一緒に表現したり活動したりする。（表現と反応） 										
5領域	コンセプト	内 容					10の姿の芽生え					
			健康	自立	協同	道徳	社会	思考	自然	数量	言葉	豊か
健康	判	自信をもって身の回りのことを行う。	○	◎								
	判	寒さに負けずに戸外で体を動かして遊ぶ。	◎	○								
	判	いろいろな食べ物を進んで食べようとする。	◎	○								
人間関係	判	遊びや活動の後、片付けをしようとする。	◎	○								
	判	集団で取り組む活動に喜んで参加する。		○	○		◎					
	結	自分のしたい遊びをするとともに、友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。		◎	○							
	結	友達にも嬉しい気持ちや嫌な気持ちがあることに気付く。				○	◎					
	結	友達と一緒に動いたり話したりすることを楽しむ。			◎						○	
環境	結	氷や霜、雪などを触ったり集めたりして遊ぶ。							◎			○
	結	伝承遊びに興味をもち、保育者や友達と遊ぶ。					○			○		
	結	日常生活の中で、簡単な数や順番などに関心をもつ。					○			◎		
言葉	表	したことや見たこと、思ったことなどを、喜んで話したり興味をもって聞いたりする。					○				◎	○
表現	表	材料や用具を使って、かいたりつくったりする。						○				◎
	表	簡単な話に沿って、好きなものになりきって楽しんで遊ぶ。		○								◎
	表	友達と一緒に歌ったり、楽器を鳴らしたり、体を動かしたりする。	○									◎

5期（1～3月）
3歳児

環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戸外で遊ぶことを誘いかけ、鬼ごっこやかかけっこなど、思いきり体を動かして遊べるようにする。 ・ 正月遊びが楽しめるような場をつくり、保育者や友達と一緒に簡単なルールのある遊びができるように用意しておく。 ・ 自分たちのイメージで、場を構成したり遊びに必要なものをつくったりできるように、イメージを広げるものや、簡単に扱うことのできる材料や用具を用意しておく。 ・ 子どもの身近なところに水をはった容器を置くなどして、時期を逃さず冬の自然事象に触れられる場や機会をつくるようにする。 ・ 友達と一緒に歌ったり楽器を鳴らしたり、お話の登場人物になって遊んだりできる場をつくり、多くの友達と一緒に活動する楽しさを味わえるようにする。
援助	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周りの状況に気付いて自ら行動できるようにするために、言葉掛けを工夫し、個々に応じて認めたり励ましたりする。 ・ 氷がはった時や雪が降った時など、保育者も一緒に見たり触れたりして遊ぶ。 ・ 自然の変化に気付くようにするために、球根の芽が出る様子などを一緒に見たり知らせたりする。 ・ 気の合う友達と自分たちの遊びを楽しんでいる姿を見守りながら、楽しい思いに共感したり、言葉に出して周りの子どもに伝えたりして、繰り返し遊びたいという意欲を高めるようにする。 ・ 子どもたちが楽しんで物語の世界に入り、登場人物になって伸び伸びと表現できるように、その子なりの表現や努力を受け止めていく。 ・ 4歳児と一緒に遊ぶ機会をもったり、4歳児のしていることに目を向けたりして、進級への期待が高まっていくようにする。
遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然物に触れる遊び（氷や霜集め、雪遊び、芽吹きを見るなど） ・ ごっこ遊び（お店屋さんごっこ、お家ごっこなど） ・ わらべうた遊び（あぶくたった、おしくらまんじゅうなど） ・ 簡単なルールのある遊び（鬼遊びなど） ・ ボール遊びや縄遊びなど ・ 正月遊び（凧揚げ、こままわし、絵合わせなど） ・ お話遊び ・ 歌ったり、楽器を鳴らしたりする遊び（たこのうた、まめまき、うれしいひなまつりなど） ・ かいたりつくったりする遊び（お話遊びにつかうもの、鬼の面、雛人形など）
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育参観や懇談会、たよりなどを通して、1年間で成長したことを共に喜び合えるようにする。また、家庭でも進級することに期待がもてるように、認めたり励ましたりすることを促す。 ・ 生活習慣について、個々の発達や状況に応じて見直し自分のことは自分でしようとする気持ちを高めていけるようにする。

5期
1～3月
3歳児

4歳児

「したい遊び」から「好きな遊び」への移行が見られ、友達との関わりが広がっていく時期です。やり遂げた喜びと自信を積み重ね、友達と一緒に多様な経験が得られるようにしていきます。



発達の特徴

- 生活習慣が身に付き、運動機能についても個人差はまだ大きいがますます向上します。そのため、喜んで運動遊びなどに取り組み、活発に活動するようになります。
- 身近な環境に興味をもち、じっくり触れながら一生懸命考え、見たり試したりするようになります。
- 言葉で自分の思いを伝え、友達と共通のイメージをもって遊んだり、目的に向かって集団で行動したりすることが増えます。さらに、遊びを発展させ楽しむために、自分たちで約束をつくらしたりします。
- 自分なりに考えたり行動したりするようになり、トラブルを自分たちで解決しようとしています。また、互いに相手の思いを受け入れたり、異なる考えを認めたりし、社会生活に必要な基本的な力を身に付けるようになってきます。
- いろいろな経験を積み重ねて、いくつかある遊びの中から選択したり、日を超えて継続したりするようになり、遊びに対して「好き」という評価が表れ始めます。
- 大勢の友達と遊ぶことに喜びを感じ、仲間の一員としての自覚が芽生えてきます。

【全期】

- 進級児対象のカリキュラムです。新入園児には、園児の状態や各園の環境や状態に応じて配慮が必要です。
- 個別から集団へと、遊びや集団において友達との関わりが広がっていく時期です。どのような友達であるのかということを示すために、「気の合う友達」「大勢の友達」など、いくつかの表現を使い分けています。
- 「したい遊び」から「好きな遊び」への移行が見られる時期です。移行には個人差がありますが、いろいろな経験を積み重ねて、「好み」や「こだわり」に基づき、いくつかある遊びの中から一つを選択したり、日を超えて継続したりするようになり、遊びに対して「好き」という評価が表れ始めます。こうした姿は、進級による環境移行に伴い1期においても表れる可能性があり、4歳児では「好きな遊び」という表現を随所で記しています。

【1期】 進級した喜びを感じ、新しい環境に慣れて安定した気持ちで過ごす時期

- 「子どもの姿」や「ねらい」で「気の合う友達」と記しているのは、進級当初は、3歳児クラスからの友達関係を基盤に、新しいクラスの友達との関わりを広げていくことが望ましいからです。集団としてのねらいで、「進級した喜びを感じ、新しい環境に慣れて安心して過ごす」としたのは、環境移行に伴う生活基盤の安定に向けて、新しいクラス、友達、保育者などの環境に慣れることが必要であるからです。

【2期】 身近な環境に関わり、気の合う友達と一緒に遊ぶことを楽しむ時期

- 「子どもの姿」や「ねらい」にあるきまりとは、遊びを含めて園生活を送る上での様々なきまり

のことで、また、約束とは、友達や保育者などと話を決めて決めたことで、柔軟に変化するものとしています。いずれも集団生活に必要であることを理解していきます。

- 水や砂、土、泥の表記の順は、子どもが身近に出会う順で記しています。

【3期】 友達と一緒にいろいろな遊びや活動に、意欲的に取り組む時期

- 「子どもの姿」に「簡単なルールや遊び方を相談しながら」とありますが、一緒に遊んでいる友達に思いを伝えたり、友達の言ったことを受け入れたりして、簡単なルールを決めようとする姿のことで、共にルールや遊び方を考えることで、友達と一体感を感じるようになる時期と捉えました。また、運動会に向けて、クラス全体で行う活動に楽しさを感じるようになります。さらに、運動会遊びだけでなく、その他のゲーム遊びや触れ合い遊びなど、大勢で行ったり共通経験として行ったりする活動にも今まで以上に楽しさを感じるようになるので「いろいろなことに」と記しています。

【4期】 自分の思いや考えを出し合いながら、友達と一体感を感じるようになる時期

- 友達とイメージを共有して、遊びを進めていく姿が見られるようになってきます。自分たちで遊びを時間的、空間的に広げていくことができるように、道具などは使いやすいところに用意しておくことが大切です。その観点から環境構成を記しています。「ねらい」に「大勢の友達」とありますが、大きな集団（グループ、クラス、学年など）のことで、

【5期】 友達との関わりを深めながら、自分の力を存分に発揮する時期

- 進級に期待を膨らませる時期です。遊びや生活の場で5歳児がしていたことを教えてもらう機会を意識してもつことで、より自信をもって過ごせるようになります。
- 「子どもの姿」に「折り合いをつけたりする」とありますが、子ども同士のやりとりの中で自分の気持ちと向き合い友達の思いを受け入れたり譲ったりする姿のことで、
- 氷、雪、霜柱の表記の順は子どもたちにとって身近なものの順で記しています。

保育上の工夫

- いろいろな環境にじっくり関わったり、思いきり遊ぶことが楽しいという経験を重ねたりできるように、時間や環境を十分確保することを大切にします。
- 友達と刺激し合う中で、遊びのイメージを広げ進めていけるように、子どもたちに具体的な思いを引き出したり確認したりします。
- 生活や遊びの中で「自分でできた」という経験を多くすることで、初めてのことや苦手なことにも「やってみよう」という期待や自信をもって取り組めるようにします。
- 友達とトラブルになった時には、互いに納得のいく解決ができるよう保育者は見守りつつ、相手の思いが感じ取れるような援助や関わりをすることが大切です。
- 一人一人の発見や経験をみんなで認め合い、共有することを大切にしていきます。また、子ども同士が互いに尊重し合う姿に保育者も一緒に共感し、つながり合う喜びや嬉しさが実感できるようにしていきます。
- 5歳児のしていることに興味をもち、4歳児なりにやってみようとして、自分なりに考えて遊びをつくり始める時期と捉え、必要な用具を用意したり、じっくりと遊ぶことができる時間の確保や場を整えたりすることが必要です。



4歳児 1期（4～5月）

期の 特徴		進級した喜びを感じ、新しい環境に慣れて安定した気持ちで過ごす時期											
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> 進級を喜び、新しい環境に興味をもって生活しようとする。（判断と行動） したい遊びを見つけて取り組み、楽しさを感じ、続けて遊ぼうとする。（結い） 保育者や気の合う友達に自分の思いを素直に出して、表現したり友達と関わったりしようとする。（結い・表現と反応） 新しい保育者や友達に親しみをもち、一緒に過ごそうとしている。（結い） 											
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> 生活の仕方が分かり、身の回りのことを自分でする。（判断と行動） 友達と関わりながら、自分の好きな遊びや興味をもった遊びを楽しむ。（結い） 保育者や気の合う友達に、自分の思いを伝えて遊ぶ。（表現と反応） 進級した喜びを感じ、新しい環境に慣れて安心して過ごす。（判断と行動） 											
5領域	コンセプト	内 容	10の姿の芽生え										
			健康	自立	協同	道徳	社会	思考	自然	数量	言葉	豊か	
健康	判	身の回りのことを自分で行う。	○	◎									
	結	保育者や友達と楽しく食事をする。	◎			○					○		
	結	友達と一緒に春の心地よさを味わいながら、戸外で遊ぶ。	○						◎			○	
人間関係	判	保育者や友達と一緒に過ごし、新しい環境に慣れる。		○	○		◎						
	結	生活をする中で、きまりや約束があることを知り守る。	○			◎	○						
	結	異年齢の友達と関わり、親しみをもち。			○		◎						○
	表	クラスの友達や保育者と過ごす楽しさを感じる。			○	○	◎						
環境	判	遊具や用具の使い方を知り、それを使って遊ぶ。	○			◎	○						
	判	栽培物に興味をもって世話をする。		○				○	◎				
	結	春の草花や生き物に触れたり、遊びに使ったりする。						○	◎				○
	結	友達のしている遊びに関心をもって、一緒に遊ぶ。		○	◎		○						
言葉	結	絵本や紙芝居に親しみ、興味をもって見たり聞いたりする。									○	◎	○
	結	友達に親しみをもち、日常の挨拶をする。	○				○					◎	
	表	保育者や友達に自分の思いや考えを言葉で伝える。				○	○					◎	
表現	表	保育者や友達と一緒に音楽に親しみ、歌ったり体を動かしたりする。	○		○								◎
	表	自分の気に入ったものをかいたりつくったりする。						○					◎
	表	自分の好きなものを言葉や動きで表現する。		○								○	◎

1期（4～5月）
4歳児

環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で身の回りの始末や整理ができるように、ロッカーや靴箱などに分かりやすいマークを表示する。 ・子どもが新しい環境でも安定して遊べるように、慣れ親しんでいた遊具や用具を用意しておく。 ・したい遊びが存分にできるように、道具や用具の数を調整したり、分かりやすく分類したり、取り出しや片付けがしやすいように配置する。 ・春の自然に触れて遊べるように、園内の環境を整えたり、できるだけ戸外に出かけたりする。 ・遊具などに興味を示し使ってみたいと思えるように、遊具や用具を子どもの動線や遊びの場の広がりなどを考慮して用意しておく。 ・お互い一緒にいることに嬉しさを感じられるように、歌を歌ったり、絵本を見たりして、学級全体で楽しく過ごせる時間をつくる。
援助	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でしようとする意欲がもてるように、身の回りの始末や片付けなどの方法を具体的に知らせ、一人一人のペースに合わせて励まし援助する。 ・新しい環境の中で安心して過ごせるように、登降園時の表情や日常生活での姿や、遊びの様子などを見取ったり、個々に応じた言葉を掛けたりする。 ・友達のしている遊びに興味ももてるように、子どもが楽しんでいることを保育者が言葉にしたり、友達に伝わるようにしたりする。 ・子どもなりの表現の仕方を認め、言葉で自分の思いを伝えられるように、保育者が言葉を補ったり仲立ちをしたりする。 ・保育者や友達に対して親しみももてるように、保育者や友達の名前を呼び合うような遊びをしたり、同じ場で遊んでいる友達の存在を感じられるように働き掛けたりする。
遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・草花を使った遊び（草花摘み、色水、ごちそうなど） ・固定遊具を用いた遊び（ブランコ、すべり台、ジャングルジムなど） ・虫を探したり集めたりする遊び（アリ、ダンゴムシ、アオムシなど） ・積み木遊び ・水や砂、土を使った遊び（山づくり、川づくり、型ぬき、ごちそうづくりなど） ・ごっこ遊び（ままごと、お家ごっこ、遠足ごっこなど） ・かいたりつくったりする遊び（合わせ絵、こいのぼり、箱や空容器を使った製作など） ・リズムや遊びやわらべうた遊び（あくしゅでこんにちは、ともだちできちゃった、奈良の大仏さんなど） ・歌ったり、楽器を鳴らしたりする遊び（こいのぼり、手をたたきましょうなど）
連と小学校の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・春を見つけに、小学校や地域に出かけ、小学校を身近に感じられるようにする。 ・小学校の教師と打ち合わせをする機会をもち、交流や連携の計画を立案する。
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問や登降園時などの機会に、子どもの様子や保護者の思いや希望などを把握し、それらを踏まえて、親子共に安心して園生活が送れるようにする。 ・保育参観や懇談会、たよりなどで、園の方針や園生活の様子、保育で大切にしていることを伝えたり共有したりして、保護者との信頼関係を築いていく。 ・保健調査票や家庭訪問などにより、アレルギー疾患などの健康状態や、家庭での様子を把握し、個別の対応に努める。 ・災害や警報時の対応を知らせたり、緊急連絡先等を確認したりする。また、登降園時の安全確保について知らせ、保護者も共にきまりを守って登降園できるように促す。 ・挨拶の大切さを知らせ、家庭や園で保護者も含めて、進んで挨拶する習慣を身に付けたりする。 ・地域の人や園内の行事に参加したり、子どもが園外保育で地域に出かけたりして、地域の人とつながりをつくる。

1期
(4~5月)
4歳児

4歳児 2期 (6~8月)

期の 特徴		身近な環境に関わり、気の合う友達と一緒に遊ぶことを楽しむ時期												
子ども の姿		<ul style="list-style-type: none"> 遊びや生活に必要なきまりや約束を知り、守ろうとする。(判断と行動) 身近な自然物などに興味をもち、自分なりに関わる。(結い) 水や砂、土、泥などの感触を楽しみながら遊ぶ。(結い) 友達同士誘い合ったり、自分の思いを気の合う友達や保育者に言葉などで表現したりするようになる。(表現と反応) 遊んだことや経験したことを保育者やクラスの友達に伝えようとする。(表現と反応) 												
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> 遊びや生活のきまりや約束が分かり、守ろうとする。(判断と行動) 身の回りの環境に興味をもち、自分から進んで関わって遊ぶ。(判断と行動) 水や砂、土、泥などの様々な事象の不思議さやおもしろさに気付く。(結い) 気の合う友達と言葉でやり取りをしながら遊ぶ。(表現と反応) クラスの友達に自分の思いや考えを伝える。(表現と反応) 												
5 領域	コ ン セ プ ト	内 容	10の姿の芽生え											
			健 康	自 立	協 同	道 徳	社 会	思 考	自 然	数 量	言 葉	豊 か		
健康	判	・ 休息をとったり、水分を補給したり、身の回りを清潔に保ったりするなど、夏の健康に必要な生活の仕方を知り行おうとする。	◎	○							○			
	判	・ 体全体を十分に動かして、水遊びやプール遊びをする。	◎	○		○								
	判	・ 友達と一緒に当番活動を行う。			○	○	◎							
人間 関係	判	・ 遊びにおける簡単な準備や片付けなどを、友達と一緒に行う。			◎	○	○							
	結	・ 生活に必要なきまりや約束を守って、友達と遊ぶ。			○	◎	○							
	結	・ 友達に関心をもって一緒に遊んだり生活したりする。		○	○		◎							
	表	・ 自分のしたいことやしてほしいことなどを、伝えたり、友達の思いに気付いたりする。					○	◎				○		
環 境	表	・ 気の合う友達と一緒に遊ぶことに楽しさを感じる。			◎		○							○
	結	・ 水や砂、土、泥などの不思議さやおもしろさに気付く。							○	◎				○
	結	・ 水の感触を体全体で味わい、存分に遊ぶ。	◎								○			○
	結	・ 遊具や用具に親しみ、それらを使って遊ぶ。	○						◎		○			
言 葉	結	・ 飼育栽培物の変化や生長に気付いたり、保育者や友達と一緒に世話をしたりする。			○						◎			○
	判	・ 保育者や友達の話に興味をもって聞こうとする。		○		○							◎	
	表	・ 思ったことや経験したことを、言葉で保育者や友達に表す。							○				◎	○
表 現	表	・ 絵本や物語などに親しみ、想像しながら見たり聞いたりする。					○						◎	○
	表	・ 自分なりのイメージをもって、かいたりつくったりしたものを遊びに使う。							○				○	◎
	表	・ 自然の中にある音、形、色やいろいろな感触、動きなどに気付いたり感じたりする。							○		○			◎

2期 (6~8月)
4歳児

環境構成	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちで遊びの準備や片付けができるように、遊びの場の近くに遊具や用具を整理して置いておく。 飼育栽培物について、その変化や生長に関心を持ち、自分たちで世話ができるように、目に付きやすいところに置いたり、用具や絵本、図鑑などを整えておいたりする。 プールでは個々の水慣れ具合を把握し、無理なく水遊びが楽しめるような遊具や用具を準備する。 友達の遊びへの興味や、真似てやってみたいという思いに応えられるように、場や用具を用意しておく。 水や砂、土、泥などの感触やその違いを楽しみながら遊ぶことができるように、いろいろな素材に関わる場や、体全体で思う存分遊べる場を整える。 梅雨期や夏季の自然事象に関心がもてるように、雨の音や身近な生き物の鳴き声などに耳を傾けたり、子どもの気付きを取り上げ話し合ったりする機会をもつ。
援助	<ul style="list-style-type: none"> 自分でやり遂げた喜びが感じられるように、身の回りのことに取り組む姿を見守り、必要に応じて声を掛けたり、方法を知らせたりする。 プール遊びでは、友達や保育者と遊びながら水に親しめるように、普段から楽しんでいる遊びを取り入れたり、友達の様子に刺激されてしてみようとする意欲を認めたりする。 興味や関心を深められるように、子どもの気付きや感動を受け止め、疑問に思ったことは、保育者も一緒に見たり考えたりする。 水や砂、土、泥などの不思議さやおもしろさを十分に楽しめるように、保育者も一緒に感触を味わい、一人一人が感じたことや気付いたことを受け止める。 自分の思いを伝えたり相手にも思いがあることに気付いたりするように、必要に応じて保育者が仲立ちし、子どもの思いを言葉で補うようにする。
遊び	<ul style="list-style-type: none"> プール遊び（宝探し、ワニ泳ぎ、流れるプール、触れ合い遊びなど） 水を使った遊び（色水、水鉄砲、シャボン玉、泡遊びなど） 砂や土を使った遊び（泥団子づくり、山や川をつくる遊びなど） 感触を味わう遊び（泥んこ遊び、土粘土、指絵の具など） 身近な生き物に触れる遊び（ダンゴムシ、カエル、カタツムリ、ザリガニなど） いろいろなものになって動く遊び（生き物、乗り物など） ごっこ遊び（お家ごっこ、店屋ごっこなど） かいたりつくったりする遊び（七夕の笹飾り、水遊びに使うもの、にじみ絵など） リズム遊びやわらべうた遊び（ちーちゃんぱーちゃん、かえるのたいそう、元気体操、きゅうりもみなど） 歌ったり、楽器を鳴らしたりする遊び（かたつむり、かえるのうた、水あそびなど）
小学校 との 連携	<ul style="list-style-type: none"> 小学校教師と保育や授業を参観し合ったり研修会を行ったりして、互いの教育についての理解を深める。
家庭・ 地域との 連携	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に食育に関する情報や取組（栽培活動やマナーなど）を知らせ、家庭と連携しながら食育について取り組んでいくようにする。 夏の感染症の症状や流行状態、熱中症予防について、園からのたよりなどで広報し、家庭でも健康状態に留意するように促す。 個人懇談などで子どもの育ちを具体的に保護者に報告し共有するとともに、保護者の思いを受け止め個別に対応しながら、信頼関係を深めるようにする。 大雨などで警報が発令されやすい時期であるので、災害対応の再確認をする。

2期（6～8月）
4歳児

4歳児 3期（9～10月）

期の特徴		友達と一緒にいろいろな遊びや活動に、意欲的に取り組む時期											
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> • いろいろなことに興味をもち、身の回りの環境に関わろうとする。（結い） • 生活や遊びの準備などを、自分から進んで行う。（判断と行動） • 自ら好きな遊びを見つけて、遊ぶ楽しさを感じる。（判断と行動） • 5歳児のしている遊びを見て、真似たり一緒に遊んだりする。（結い） • 体を動かすことに意欲的になり、いろいろなことに挑戦してみようとする。（判断と行動） • 気の合う友達との関わりを喜び、自分の思いを相手に話しながら遊ぶ。（表現と反応） • 友達と簡単なルールや遊び方を考えて遊ぼうとする。（判断と行動・結い） 											
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> • 遊びや生活の場を整えながら様々な環境に進んで関わる。（判断と行動） • 様々な環境に進んで関わり、友達と一緒に遊ぶ。（判断と行動） • 自分の好きな遊びに積極的に取り組む。（判断と行動） • 友達と一緒に体を十分に動かして繰り返し遊ぶことを楽しむ。（判断と行動） • 友達に自分の思いを話しながら一緒に遊ぶ。（表現と反応） 											
5領域	コメント	内容	10の姿の芽生え										
			健康	自立	協同	道徳	社会	思考	自然	数量	言葉	豊か	
健康	判	• 健康な生活に必要な習慣を身に付け、自分から進んで行う。	◎	○									
	判	• 戸外で力いっぱい体を動かして遊ぶ。	◎	○									
	判	• 遊具や用具を使い、友達と一緒に体を十分動かして遊ぶ。	◎		○		○						
	判	• 危険場所、遊び方、災害などの安全な行動の仕方を知る。	◎	○			○						
人間関係	判	• 自分の好きな遊びを繰り返し楽しみ、やり遂げたことを喜ぶ。		◎					○				
	結	• 大勢の友達と一緒に活動する楽しさを味わう。		○	○		◎						
	結	• 友達や保育者と一緒に楽しみながら、簡単なルールのある遊びをする。			◎	○	○						
	結	• 友達との関わりの中で、自分と違う思いや考えがあることに気付く。			◎	○	○						
環境	結	• 身近な自然物を通して、数や形などに関心をもつ。							○	◎			
	結	• 秋の虫や草花に興味をもち、見たり触れたり遊びに取り入れたりする。							◎	○		○	
言葉	表	• 思いや考えを、自分の言葉で、友達に分かるように話そうとする。		○	○						◎		
	表	• 遊びや生活の中で、友達と言葉を交わす喜びを味わう。				○					◎	○	
表現	表	• リズムに合わせて、歌ったり体を動かしたりすることを楽しむ。	○								○		◎
	表	• 様々な素材に親しむとともに、材料や用具の特性を知り、自分なりに工夫してつくる。						○		○			◎

3期（9～10月）
4歳児

環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え、試し、探ることができるように、素材や用具を取り出しやすい場所に用意しておく。 ・戸外で遊ぶ楽しさを感じ、意欲的に挑戦できるように、遊具を整えたり、遊ぶ場所や時間を確保したりする。 ・5歳児の運動会の演技や競技に刺激を受けて試してみたいという意欲を受け止め、自分たちで取り組めるように曲や手具などを準備しておく。 ・自分の経験したことや考えたことについて友達の前で喜んで話したり、友達の話を楽しんで聞いたりできるような和やかな雰囲気をつくる。 ・異年齢の友達や、地域の人と触れ合える時間や機会をもつようにする。
援助	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな遊びをする中で自分なりに試したり考えたりする姿を認め、子どもが感じていることに共感する。 ・自信や意欲がもてるように、挑戦している姿を認め励ます。またその姿を伝えて、互いに刺激し合えるように働き掛ける。 ・自然物を遊びに取り入れて季節の移り変わりに関心がもてるように、子どもの気付きや驚きに共感したり、保育者が感じたことを伝えたりする。 ・遊びの中で子どもが困ったり、友達と思いがぶつかったりした時には、できるだけ自分の言葉で表現し相手の思いに気付けるように、声の掛け方を工夫する。 ・クラスでの活動や運動会などでは、全体で活動することを楽しみながら自分の力を発揮できるように、その時々の子どもの姿を言葉にして伝えていく。
遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・運動用具を使っの遊び（マット、巧技台、フープ、ボール、パラバルーンなど） ・運動会遊び（体操、かけっこ、ダンス、玉入れ、リレーなど） ・集団遊び（鬼ごっこ、しっぽとり、いすとりゲームなど） ・自然物を使った遊び（虫、種、草花、木の実、木の葉、木の枝など） ・ごっこ遊び（お家ごっこ、店屋ごっこ、バーベキューごっこなど） ・かいたりつくったりする遊び（旗、運動会や遊びに使うものなど） ・リズム遊びやわらべうた遊び（お寺の花子さん、げんこつやまのたぬきさん、どんぐりきのこおいもなど） ・歌ったり、楽器を鳴らしたりする遊び（とんぼのめがね、うんどうかいの歌、ポンポコたぬき、どんぐりなど）
連携 <small>小学校</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・園外保育を通して小学校へ行き、小学校教師や小学生に関心をもって触れ合えるようにする。
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会や日々の保育において大切にしていることを保護者に伝え、子どもを温かく見守り、子どもなりの変化や努力を認めるように促す。 ・運動会の開催をポスターや手紙などで地域に発信し、地域の方々に多数来場していただくことにより、園教育に理解を得る。 ・夏の疲れや季節の変わり目のため体調を崩しやすい時期なので、睡眠や食事など生活リズムについて見直したり、考えたりしていく。

3期
(9~10月)
4歳児

4歳児 4期（11～12月）

期の特徴		自分の思いや考えを出し合いながら、友達と一体感を感じるようになる時期												
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> 生活や遊びの準備などを自分から進んで行う。（判断と行動） 自分なりの思いをもち、好きな遊びにじっくりと取り組み、繰り返したり工夫したりして遊ぶ。（判断と行動） 遊びを通して友達関係が広がり、一緒に遊んでいる友達と簡単なルールや遊び方について考えを出し合う。（表現と反応） 自分のイメージを言葉や行動で表現し、友達に伝えたり遊んだりする。（表現と反応） 友達と気持ちを合わせながら、いろいろな活動に取り組む。（結い） 												
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> いろいろな遊びや活動に自ら関わり、意欲的に取り組む。（判断と行動） 思いや考えを出し合いながら、友達と遊ぶ。（表現と反応） 友達とイメージを共有して遊ぶ。（結い） 大勢の友達と一緒にめあてをもって遊ぶ楽しさを味わう。（結い） 												
5領域	コンセプト	内容	10の姿の芽生え											
			健康	自立	協同	道徳	社会	思考	自然	数量	言葉	豊か		
健康	判	• 友達の活動に刺激を受けて、運動遊びに挑戦したり、全身を使った多様な動きを経験したりする。	◎		○									
	判	• 気温の変化と活動量に合わせて、衣服の調節をする。	◎	○										
	判	• 手洗いやうがいの必要性を知り、自分から気付き、見通しをもって行う。	◎	○										
人間関係	判	• 当番活動や手伝いを進んで行う。		○		○	◎							
	結	• 友達とのつながりを感じ、大勢で楽しく過ごす。			○	○	◎							
	結	• 思いを出し合って遊ぶ中で、友達の思いや考えを受け入れる。			◎		○					○		
	表	• 気の合う友達と考えを出し合って遊びを進める。			◎			○					○	
環境	判	• 友達と誘い合って遊びに使うものをつくったり、用具を準備したりする。		○	◎			○						
	判	• 遊びに必要なものや場を、自分たちで工夫してつくる。		○	◎			○						
	結	• 落ち葉や木の実などの自然物を見つけたり、遊びに取り入れたりする。							◎	○			○	
	結	• 秋の自然に興味をもって、見たり触れたりしながら季節の変化を感じる。							◎			○	○	
言葉	結	• 絵本や物語に親しみ、かかっている世界についてイメージを広げる。									○	◎	○	
	結	• 絵本やもの、生活の中で、言葉の響きやリズム、新しい言葉や表現などに触れる。								○		○	◎	
表現	表	• 遊びの中で自分なりのイメージをもち、かいたりつくったりして表現する。		○										◎
	表	• 音楽に合わせて体を動かしたり、感じたことを表現したりする。	○								○			◎
	表	• 楽器に親しみ、音楽に合わせて楽しんで鳴らす。									○			◎
	表	• 友達とイメージを共有して遊ぶ中で、思ったことや考えたことを動きや言葉で表現する。			○								○	◎

4期（11～12月）
4歳児

環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外で十分に遊びが楽しめるように、新しい遊具や用具を用意するなど、環境に変化をもたせるようにする。 ・安心して遊びを展開していくことができる場や空間を用意する。また、違う遊びをする友達とも互いに刺激し合えるように、場の構成を工夫する。 ・遊びに使ったり、新たな楽しみ方に気付いたりするように、集めた木の実や木の葉など、様々な素材を分類し遊びに使いやすいように用意しておく。 ・友達とイメージを共有しながら遊びを続けられるように、遊びに使う用具や道具などは、使いやすい場所に置いておく。
援助	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かして遊ぶ楽しさが感じられるよう、保育者も楽しみながら取り組んだり、友達が楽しんでいる姿と一緒に見たりして、体を動かしたくなるきっかけをつくる。 ・一人一人の遊びの様子を把握し、挑戦する姿ややり遂げたことを十分に認め、積極的に取り組めるようにする。 ・自分たちで遊びを進める姿を大切にしながら、必要に応じて、互いの思いを伝え合えるように話を聞いたり、言葉で補ったりする。 ・遊びのイメージが広がるように、子ども同士で遊びを展開させている姿を見守りながら、必要な場合は時機を見計らって新たなアイデアを提案する。 ・大勢で取り組む楽しさを味わえるように、子どもの思いを引き出したり、友達の思いに気付けるよう、言葉を補ったりする。
遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・運動遊び（短縄、ボールなど） ・集団遊び（鬼ごっこ、じゃんけん遊びなど） ・自然物を使った遊び（木の実、木の葉など） ・お話遊び ・ごっこ遊び（店屋ごっこ、病院ごっこ、忍者ごっこなど） ・かいたりつくったりする遊び（貼り絵、自然物を使ったもの、お楽しみ会の飾りなど） ・リズム遊びやわらべうた遊び（おおさむこさむ、おんまつりのうたなど） ・歌ったり、楽器を鳴らしたりする遊び（まつぼっくり、やきいもグーチャーパー、山の音楽家など）
連携 <small>小学校</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・行事を通して、小学生との触れ合いを楽しめるような機会をつくる。
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・友達との関わりが深まるにつれ、気持ちのぶつかり合いも増えてくるので、つまずきや葛藤を乗り越える経験の重要性を伝える。 ・風邪が流行する時期が近づき、手洗いやうがい、衣服の調節などの必要性を知らせる。 ・様々な行事や遊びを経験する中で得られる一人一人の育ちを伝え、成長や発達を共に喜び合う。 ・年末や年始、師走における日本古来の風習に子どもなりに触れたり、参加したりするように伝える。 ・「春日若宮おんまつり」があることを知らせ、奈良の伝統行事について関心をもてるようにする。

4期
(11月～12月)
4歳児

4歳児 5期（1～3月）

期の 特徴		友達との関わりを深めながら、自分の力を存分に発揮する時期											
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> • 様々な行事を経験し、クラスの一員としての意識をもち、生活や遊びに進んで取り組む。（判断と行動） • 自分の考えを出したり友達からの刺激を受けたりし、興味や関心を広げるとともに友達との遊びを存分に楽しむ。（表現と反応） • 遊びの進め方を友達と一緒に考え、イメージを共有して遊ぶ。（表現と反応） • 自分の思いを気軽に伝えられるようになり、友達が話すことも聞いて受け入れようとしたり、折り合いをつけたりする。（結い） • 大勢の友達と関わって遊ぶ楽しさが分かり、クラス共通の目的に取り組もうとする。（結い） 											
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> • 進級に期待感を膨らませ、楽しんで園生活を送る。（判断と行動） • 自分の力を存分に発揮して、遊びや活動に取り組む。（判断と行動） • 共通のイメージをもって遊ぶ中で、友達との関わりを深める。（結い） • 友達と思いを伝え合いながら、意欲的に活動に取り組む。（判断と行動・表現と反応） 											
5 領域	コンセプト	内 容	10の姿の芽生え										
			健康	自立	協同	道徳	社会	思考	自然	数量	言葉	豊か	
健康	判	• 冬の健康生活に必要な習慣を身に付ける。	◎	○						○			
	判	• 縄跳びやこままわしなどに、自分なりの目標をもって継続的に取り組む。	◎	○			○						
	判	• 体が暖まる心地よさを味わい、進んで戸外で体を動かして遊ぶ。	◎							○			○
人間関係	判	• 困った時などは自分で考えたり、友達と一緒に考えたりする。			◎		○	○					
	判	• 友達と誘い合って遊び方を話し合ったり、準備したりして遊ぶ。			◎			○				○	
	結	• 異年齢児との関わりを深め、思いやりの気持ちをもつ。			○	○	◎						
	結	• チームに分かれるなどして、友達とルールのある遊びを楽しむ。			○	◎	○						
環境	結	• 氷や雪、霜など冬の自然現象に触れ、感じたり試したりして遊ぶ。							○	◎			○
	結	• 伝統行事を見たり、伝承遊びをしたりする。			○		◎					○	
	結	• 遊びを通して文字や数量に興味をもつ。						○		○	◎		
言葉	表	• 互いの思いを言葉で伝え合ったり、相手の思いを受け入れたりしながら、遊びを進めようとする。			○	○						◎	
	表	• 絵本や物語を楽しみ、簡単な言葉を繰り返して遊ぶ。						○				◎	○
表現	表	• 一緒に遊んでいる友達とイメージを膨らませて遊ぶ。			○		○						◎
	表	• 友達とテンポやリズムを合わせて、歌ったり体を動かしたりする。	○									○	◎
	表	• 絵本や物語に親しみ、感じたことを表現したり、遊びに取り入れたりする。								○	◎		○

5期（1～3月）
4歳児

環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・進級に対する期待が膨らむように、遊びや生活の場で、5歳児が当番や手伝いなどを行っている様子を見たり教えてもらったりする機会をもつ。 ・自らの成長の喜びを感じながら、1年間使った保育室や遊具などを協力して整理したり掃除したりする機会をもつ。 ・冬の自然現象（氷、雪、霜など）や、冬から春への自然の移り変わりについて、子どもが不思議に思ったことを繰り返し試せる場や時間をもつ。 ・文字や数量などに興味をもてるように、正月遊びや伝承遊びなど必要なものを身近に用意する。 ・自分の力を発揮し遊ぶことができるように、工夫している姿を伝えたり話し合ったりする場をつくる。
援助	<ul style="list-style-type: none"> ・充実感や自信がもてるように、意欲的に身の回りのことに取り組む姿を認める。また周りの友達にもその姿を伝え、互いに刺激し合えるようにする。 ・目的をもって取り組む遊び（こままわし、縄跳び、マラソンなど）を取り入れ、継続することができるように保育者も一緒に取り組む。また遊び方を知らせるとともに、友達同士が刺激し合ったり励まし合ったりするように働き掛ける。 ・子どもが気付いたり発見したりしたことに共感し、さらに深めることができるように、興味をもったことや疑問に思ったことを一緒に考えたり調べたりする。 ・遊びの中でしたいことや目的を自覚して、自分たちで遊びを進めていくことができるように、子どもたちの具体的な思いを引き出したり確認したりする言葉を掛ける。
遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・自然物を使った遊び（氷、雪、霜柱集め、氷づくりなど） ・集団遊び（鬼ごっこ、ゲーム遊びなど） ・運動遊び（大縄、短縄、ボール遊びなど） ・正月遊び（こままわし、カルタ、凧揚げ、すごろく、羽根つき、トランプなど） ・言葉遊び（しりとり、言葉集めなど） ・お話遊び ・ごっこ遊び（郵便屋さんごっこなど） ・かいたりつくったりする遊び（鬼の面、ひな人形、修了や進級に関わるものなど） ・リズム遊びやわらべうた遊び（郵便さん、梅にうぐいす、あまざけホイホイなど） ・歌ったり、楽器を鳴らしたりする遊び（ゆき、まめまき、うれしいひなまつりなど）
小学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の連携の取組を見直し、成果や課題を検討し、来年度の計画を立てる。 ・運動場や体育館など小学校の施設の利用を通して小学校に慣れ、親しみを感じられるようにする。
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・学級懇談会などの機会に1年間の子どもの育ちを振り返り、互いに喜び合えるようにし、進級への期待がもてるようにする。 ・冬に流行しやすい感染症について知らせ、予防と適切な対応の大切さを伝える。

5期
(1~3月)
4歳児

5歳児

友達と一緒に遊びや生活を進めようとする時期です。今までの知識や経験を生かし、創意工夫を重ね学びに向かう力を育てていきます。



発達の特徴

- ・基本的な生活習慣が身に付き、1日の見通しをもち、生活の流れを意識して行動します。
- ・全身運動が滑らかで巧みになり、多様な動きができるようになります。
- ・様々な知識や経験を生かし、創意工夫を重ね、遊びを発展させていきます。
- ・相手の話を注意して聞き、言葉による伝え合いができるようになります。
- ・思考力や認識力が高まり、自然現象や社会事象、文字等への興味や関心が深まります。
- ・相手の考えを理解し、尊重したり折り合いをつけたりして遊びや活動を進めていきます。
- ・仲間の一員として自覚をもち、共通の目的に向かい友達と工夫したり、協力したりします。
- ・生活の様々な場面で、仲間との協同性が見られるようになります。

【全期】

- ・5歳児は基本的な生活習慣が自立し、友達など他者との関係の中で互いに育ち合う姿が見られます。「子どもの姿」と「ねらい」を四つの視点（生活・遊び・人・集団）から記していますが、四つ全ての面で、協同性が反映されていきます。
- ・小学校への接続期でもある5歳児は、好奇心や探究心をもち、問題を見出したり解決したりする力を育てることや、豊かな感性を発揮する機会を提供し、子どもの力を伸ばしていくことが重要な時期です。そのことを十分に考慮し、意識しながら園生活や保育内容を工夫することが大切であり、小学校との接続につながると考えます。

【1期】 4歳児からのつながりを基盤として、5歳児としての自覚や意欲を高める時期

- ・4歳5期と比べると「ねらい」が後退しているように見えますが、進級及びクラス替えによる、環境や人間関係の変化を考慮し、子どもの姿と発達を丁寧に見ていくという観点から現状の文章となっています。
- ・クラス替えの有無により、クラス集団の高まりや子どもの姿に違いがあります。各園の子どもの様子に合わせたねらい設定が必要な時期です。
- ・「子どもの姿」に記している「気の合う友達」とは、新しい環境において、まずは4歳児の頃の友達関係を基盤に遊びや生活が繰り広げられていくからです。また、異年齢児と関わることで、5歳児としての自覚が促されていきます。

【2期】 今までの経験を活かし、自ら環境に関わる中で思考力を身に付ける時期

- ・今までの経験を生かし、自然物や自然事象などを継続して観察したり、試したりする姿がよく見られるようになります。それらの経験を保障するような環境構成や援助を記しています。例えば、「用具や材料を豊富に準備する」とありますが、そのような環境のもと自分なりにそれらを選び、試したり組み合わせたりして、思考する力を身に付けてほしいと考えています。
- ・「内容」に「積極的に夏の遊びを楽しむ」とありますが、砂や水などを使い、その特性を十分に

生かし、自分たちで大胆な遊び方を考えていく姿を想定しています。

- ・「内容」に「行事」とありますが、この時期にある七夕で文字への興味をもつきっかけとなると考え、あえて「行事」と記しています。

【3期】 一人一人が自信をもち、一つの目的に向かってクラスやグループで取り組むことで仲間意識が芽生える時期

- ・活発に体を動かし、自分なりのめあてをもって挑戦したり、クラス全員やグループの友達と一体感を感じながら活動したりする時期です。自分たちでルールをつくって、意欲的に遊びや活動に取り組む時期でもあります。同様に、時間を意識し、見通しをもって行動するように促していきます。また、運動会や行事、社会事象との関わりを通して、園の内外にいろいろな世界の様子があることを知り、視野を広げていく環境構成が必要です。
- ・「敬老の日」を含む時期なので、内容等に高齢者との関わりを意識した文章が入っています。

【4期】 友達と折り合いをつけながら、協同して自分たちで遊びや活動を進めていく時期

- ・「子どもの姿」や「ねらい」「内容」に「役割分担」と記しました。これは、課題や活動の全体を見通し、自他の力を見図らって、計画的、協同的に自分たちで遊びや活動を進めていこうとする姿が多く見られます。
- ・今までの遊びや生活の中での経験を生かし、数量・文字・図形・時間などへの興味が一層高まるように、自然物や自然事象、年末の身近な事象などを意識して環境を用意していくことが必要です。その中で、子どもが興味や関心を十分に広げ、文字や数量に関わる感覚を豊かにすることができるようになることが大切であり、文字等について直接指導するのではないことを十分に理解して保育することが大切です。

【5期】 就学への期待を高め、友達とともに活動する充実感や達成感を味わう時期

- ・「一日体験入学」を経験し、就学への期待をもち、文字や数字などへの関心がさらに深まります。小学校への訪問や小学生との交流の経験を、自ら積極的に遊びや生活に取り入れていけるように、環境を構成していくことが必要です。また、自分たちの成長や園生活の思い出を振り返ったり、お世話になった方々や異年齢児に感謝や思いやりをもって接したりすることができるように環境構成や援助を行うことが必要です。「内容」における、異年齢児に「思いやりをもって接する」という記述は、自分たちの経験を伝えるという行為を含んでいます。

保育上の工夫



- ・子どもの思いや状況に応じて、話し合いや試行、挑戦の時間を柔軟に設定していきます。
- ・子ども達が見せる好奇心に敏感に反応し、受け止め、知的な好奇心を一層高められるような言葉掛けや援助、環境設定をしていきます。
- ・いざこざや葛藤を貴重な機会と捉え、互いに調整し合えるように見守り、子ども同士が理解し合えるように仲介したり、自分たちで解決したりできるようにします。
- ・自分の考えを発表したり、グループやクラスで話し合ったりする活動を充実させます。
- ・子ども達に役割を与えたり任せたりすることで、自分たちでやろうとする意欲とやり遂げた達成感を自信につなげていきます。

5歳児 1期（4～5月）

期の 特徴		4歳からのつながりを基盤として、5歳児としての自覚や意欲を高める時期												
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> 新しい環境の中で進級を喜び、自ら生活の場を整えたり、意欲的に行動しようとしたりする。その中で緊張感や不安感もある。（判断と行動・結い） 戸外で思いきり体を動かして遊ぶ楽しさを感じている。（判断と行動） 気の合う友達との関係を基盤に、新しいクラスの友達との関わりを広げようとする。（結い） 同じ遊びに興味をもつ友達と互いに思いを伝え合って遊ぶ。（表現と反応） 友達同士のトラブルを保育者に伝えるだけでなく、互いに思いを言い合ったり、聞き合ったりする。（結い） 												
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> 5歳児としての喜びと自覚をもって、生活する。（判断と行動） 進んで戸外に出て意欲的に体を動かして遊ぶ。（判断と行動） 春の自然に親しみをもち、遊びに取り入れ、試したり工夫したりする。（表現と反応） 感じたことや考えたことをイメージして、自分なりに工夫して表現する。（表現と反応） 異年齢の友達にも親しみをもち、積極的に関わる。（結い） 友達と互いの思いや考えを出し、遊びや活動に取り組む。（結い） 												
5 領域	コンセプト	内 容	10の姿								豊か			
			健康	自立	協同	道徳	社会	思考	自然	数量		言葉		
健康	判	・進んで戸外に出て、体を十分に動かして遊ぶ。	◎											
	判	・給食や弁当の食材に興味をもって、好き嫌いなく食べようとする。	◎				○							
	判	・健康に関心をもち、生活に必要な習慣を自分からしようとする。	◎	○										
	結	・日常生活の習慣やきまりを確認し、5歳児としての新しい生活の仕方を知る。	○				◎							
	判	・目的をもって遊びや活動に取り組む。		◎										
人間関係	結	・5歳児になった喜びや自覚をもち、友達と一緒に活動する楽しさを味わう。		○	◎									
	結	・異年齢児に進んで関わり、思いやりや親しみの気持ちをもったり、世話をしたりすることを喜ぶ。			○	◎	○							
	結	・当番の仕事に必要な感をもち、グループの友達と協力しながら進めていく。	○	○	◎									
環境	判	・自分の持ち物や遊びに使う用具の置き場所を決め、生活の場を整える。	○	○			◎							
	判	・目的に応じて、遊具や用具を選んだり試したりして使う。		○				◎						
	結	・身近な自然や生き物に親しみ、様子を見たり、触れたり、世話をしたりする。							◎					
	結	・自然の不思議さやおもしろさに気付く。							◎					
	結	・遊びの中で数量への関心を高める。								◎				
言葉	表	・自分から場に応じた挨拶をする。					◎				○			
	表	・自分の思いや考えを、言葉で明確に保育者や友達に伝える。										◎		
	表	・人の話を注意して聞き、自分と違う意見や考えを知ったり、相手に分かるように話したりする。			○								◎	
表現	表	・曲の雰囲気を感じ取り、友達と一緒に声を合わせて楽しんで歌う。												◎
	表	・いろいろな音や色、形、感触、動きなどに興味をもち、遊びの中で使ったり表現したりする。									○			◎

1期（4～5月）
5歳児

環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・5歳児になった自覚や喜びがもてるように、子どもと共に当番表やカレンダーなどをつくったり配置を考えたりし、自分たちで生活の場を整える機会をもつ。 ・他クラスと連携し、異年齢児と遊ぶ楽しさが味わえるように触れ合って遊ぶ場を保障する。 ・友達と簡単なルールのある遊びを楽しめる場を用意したり、体を十分に動かして遊べるような運動用具を準備したりする。 ・身近な自然物や自然事象に興味や関心をもって関わられるように、春の草花や生き物の図鑑や虫眼鏡などを準備する。命の大切さや自然の不思議さに気付き、様々な発見や驚きを共有できるように働き掛ける。 ・遊びや片付けを通して、種類や数量などを意識したり、分類や計数、計量に関心をもったりするように、遊具の種類や数、置き方に配慮する。 ・経験したことや思ったことを話したり聞いたりするとともに、自分の話を全体の場で聞いてもらえる機会をもつ。
援助	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでの話し合いの場を設けたり、活動の準備や片付けなどを協力し合うように促したりすることで、自分たちで考え行動する機会を増やし生活を楽しめるようにする。 ・異年齢児と関わる機会を増やし、思いやりや親しみの気持ちを持ち、必要とされる喜びや5歳児としての自覚を感じられるようにする。 ・話し合いの中で、自分の思いを十分にさせるように促すとともに、明日の遊びへの見通しがもてるように投げかけていく。 ・友達の遊びから刺激を受けられるように声をかけたり、遊びの場を提案したり、環境を共につくったりして、互いのよさや親しみを感じ、友達関係に広がりをもてるようにする。 ・新しい遊びに挑戦する姿や昨年5歳児の遊びを真似たり取り入れたりしている姿を認め、喜びや自信につながるように働き掛ける。 ・友達と関わって遊ぶ姿を見守り、互いの思いが伝わるように必要に応じて言葉を掛ける。
遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・砂や土、水を使った遊び（泥団子、川や山、トンネルなど） ・虫を探したり、触れたりする遊び（ダンゴムシ、青虫など） ・草花を使った遊び（ごちそう、色水など） ・固定遊具や巧技台を使った遊び（サーキットなど） ・ごっこ遊び（お家ごっこ、店屋ごっこなど） ・かいたりつくったりする遊び（遊びに必要なもの、遠足の絵、こいのぼりなど） ・歌ったり、楽器を鳴らしたりする遊び（さんぽ、こいのぼりなど） ・ふれあい遊び、わらべうた遊び（楽しいね、奈良の大仏さん、貨物列車など）
小学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校や地域を散策し、身近な地域の様子や小学校の様子を知ることができるようにする。 ・小学校教師と打ち合わせする機会を持ち、互いの子ども様子や生活の仕方等を情報交換するとともに1年間の交流や連携の計画を立てる。
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の身の回りのことに進んで取り組むことや、手伝いをする大切さについて知らせる。 ・学級懇談会などを通して、園やクラスの年間の方針を伝え、理解を得られるようにする。 ・災害や警報発令時の対応を知らせるとともに、緊急の連絡先等を把握する。 ・個々の健康状態やアレルギー体質などについて把握し、個別の対応に努める。 ・家庭訪問や参観日、懇談会、送迎時に子どもの様子を丁寧に伝えたり、保護者の考えや気持ちを受け止めたりしながら、信頼関係をつくっていく。

1期
4～5月
5歳児

5歳児 2期 (6~8月)

期の 特徴		今までの経験を活かし、自ら環境に関わる中で思考力を身に付ける時期											
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> 生活の流れの見通しをもてるようになり、準備や片付けに進んで取り組み、積極的に生活の場を整える。(判断と行動) 身近な自然物や飼育栽培に関心をもち、遊びに取り入れたり世話をしたりする。(結い) 砂や土、水などの特性を生かし、必要に応じて様々な用具や材料を使って、試したり工夫したりして遊ぶ。(結い) 遊びの中で、自分なりの目的をもって挑戦しようとする。(判断と行動) 気の合う友達と、遊びのアイデアを提案したり受け入れたりしながら遊ぶ。(結い) 異なる思いや考えを認めたり、自分たちで解決しようとして話し合ったりする姿が見られる。(判断と行動・結い) 											
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> 見通しをもって、自分から生活や遊びを進める。(判断と行動) 夏ならではの遊びを楽しみながら、めあてをもって十分に力を発揮して取り組む。(判断と行動) 夏の身近な自然や事象に気付き、よく見たり調べたりする。(判断と行動) 友達と共通の目的をもって遊ぶ楽しさを味わう。(結い) 友達とのつながりを広げながら、自分なりの言葉で思いや考えを伝える。(結い・表現と反応) 											
5 領域	コンセプト	内 容	10の姿										
			健康	自立	協同	道徳	社会	思考	自然	数量	言葉	豊か	
健康	判	・全身を使って積極的に夏の遊びを楽しむ。	◎							○			
	判	・自分なりの目的をもって、積極的に遊んだり、取り組んだりする。	◎	○									
	判	・プールで顔をつけたり、もぐったり、泳いだりすることに意欲的に取り組む。	◎	○									
	判	・1日の生活や活動の流れに見通しをもち、自分から行動しようとする。	○	◎						○			
	判	・汗の始末や衣服の調整などを進んで行き、健康な生活に必要な習慣を身に付ける。	◎	○									
人間関係	結	・友達と楽しく生活をする中で、きまりの大切さに気付き、守ろうとする。				◎	○						
	結	・友達に親しみをもち、様々な刺激を受け、興味や関心を広げる。							◎				
	結	・自分たちでルールや役割分担を考えながら、遊びを進めようとする。		○	◎								
環境	結	・梅雨時の自然や夏の夜空の様子に、興味や関心をもち。							○	◎			
	結	・身近な小さな生き物に触れ、成長や変化の様子に関心をもち、調べたり世話をしたりする。							○	◎			
	結	・砂や泥、水などの特性に気付き、試したり工夫したりしながら遊ぶ。							◎	○			
	結	・夏野菜などの栽培物の生長に関心をもち、世話をしたり喜んで収穫したりする。								◎	○		
	結	・素材や用具の特性を生かし、比べたり工夫したりして遊びに取り入れる。								◎			
	結	・比べたり考えたりして、数や重さ、量などの概念に気付く。									◎		
言葉	結	・生活や遊び、行事を通して、文字への興味をもち。						○		◎	○		
	表	・自分の興味や目的に合った絵本や図鑑を選び、楽しんで見る。						○		○	◎		
	表	・自分の思いや考えを言葉で伝えるとともに、友達の話に関心をもちて聞く。									◎		
	表	・夏の自然事象のおもしろさや不思議さに気付き、調べたり話し合ったりする。						○	◎		○		
	表	・絵本や物語の内容に興味をもちて見たり聞いたりする。									◎	○	
表現	表	・いろいろな楽器に興味をもち、音色の違いや美しさを楽しむ。						○				◎	
	表	・歌詞の意味を知り、場面を思い浮かべたりストーリーを想像したりしながら楽しんで歌う。										◎	
	表	・身近な素材や用具を使って、特性を生かしながら遊びに必要なものを工夫してつくる。							◎				○

2期 (6~8月)
5歳児

環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・友達とイメージを共有しながら同じ目的に向かって取り組む中で、考えたり、試したりすることができるように、十分な時間や場を確保する。 ・水や土、泥などの特性を生かし、試したり工夫したり遊びを繰り返したりしながら知的好奇心を広げられるように、用具や材料を豊富に準備する。 ・グループの友達と共通の目的をもって活動することができるように、思いを実現するために必要な用具や材料を要求に応じて出せるように準備しておく。 ・プールでの安全な遊び方について話し合う場をもったり、個々の目標に応じた用具（ビート板など）を準備したりする。また、友達の取り組む姿や頑張る姿を互いに見せ合い認め合う場をつくったりする。 ・夏野菜を栽培し、育つ過程に興味や関心をもって進んで世話をしたり、収穫の喜びを味わったりする機会をもつ。 ・虫等の身近な生き物を観察しやすい場に置き、図鑑や虫めがねなどを使って自分たちで調べたり、世話をしたりすることができるようにしておく。 ・天候や運動量により、遊びの場や流れを考え、木陰や廊下などを有効に取り入れる。また、休息や水分補給の時間を十分に確保する。
援助	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びや生活の中で自分の思いや考えを表している場面や、失敗しても繰り返し取り組む場面を丁寧に拾い上げ十分に認める。さらに、その姿を周りの子どもにも伝えることで、子ども同士互いに認め合える雰囲気をつくり、自信をもって行動することができるようにする。 ・遊びのイメージや思いに共感し、考えるきっかけをつくったり、遊びに必要な用具を適切なタイミングを見計らって提示したりする。 ・プール遊びを楽しむ中で、自分なりの目標に近づけるように励まし、進歩したり達成したりした時を逃さず認め、「できた」という喜びを味わえるようにする。 ・子どもの思いや考え、遊びへのイメージを共有するように橋渡しを行い、積極的に遊びを進めようとする力を引き出し高めるように働き掛ける。
遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・水を使った遊び（シャボン玉、石鹸、色水など） ・砂や土を使った遊び（泥団子、川や池をつくるなど） ・生き物に触れたり、飼育したりする遊び（カタツムリ、ザリガニ、カブトムシなど） ・運動遊具や巧技台などを使った遊び ・ごっこ遊び（お店屋さんなど） ・プール遊び（顔つけ、もぐる、浮く、パタ足など） ・かいたりつくったりする遊び（水遊びに使うもの、船、魚釣り、たたみ染め、にじみ絵、吊るすものなど） ・リズム遊びやわらべ歌遊び（ごしごしあらって、もぐらとかえるなど） ・歌ったり、楽器を鳴らしたりする遊び（にじ、たなばたさま、シャボン玉など）
小学校 との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生と、子ども同士が互いに知り合いになり、一緒に遊ぶ交流を計画する。 ・小学校の教師と園児・児童の実態を話し合い、共通理解を図ることを積み重ねる。 ・小学校の教師との合同研修を実施し、互いの教育や共通の課題について話し合い、学び合う。
家庭・地域との 連携	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断の結果を報告し、治療を要する場合には受診を勧告する。 ・梅雨時の健康管理について知らせ、家庭においても健康に関心をもつように促す。 ・熱中症・食中毒について、手紙などで情報を提供し、注意を喚起するとともに予防への意識の向上を促す。 ・個人懇談では、1学期を振り返り、子どもの様子を伝えながら共に育ちを喜び。加えて、気になっていることを出し合い、園や家庭での関わり方などについて考える。

2期（6～8月）
5歳児

5歳児 3期（9～10月）

期の 特徴		一人一人が自信をもち、一つの目的に向かってクラスやグループで取り組むことで仲間意識が芽生える時期												
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> 新しい遊びや活動に進んで取り組み、自分たちでルールをつくろうとしながら遊びや生活を進める。（判断と行動） 運動遊びに興味をもち、自分なりのめあてをもち、繰り返し挑戦したり、最後まで取り組みとうしたりする。（判断と行動） 虫などの身近な生き物に興味や関心をもち、継続して観察したり飼育したりする。（結い） 友達とイメージを共有し、考えを出し合い、遊びや活動と一緒に取り組む。（結い） 自分の工夫したところや頑張ったところなどを、みんなに伝え合うことを喜ぶ。（結い・表現と反応） 												
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> 共通の目的をもちた友達と考えを出し合いながら、遊びや活動に意欲的に取り組む。（判断と行動） 体を動かす活動に進んで取り組み、繰り返し挑戦したり競い合ったりして、自分の力を十分に発揮する。（判断と行動） 季節の移り変わりに気付き、疑問をもって調べたり、試したりする。（結い） 友達の思いを感じて遊びを進め、つながりを深める。（結い） 友達と協力して、いろいろな運動遊びやルールのある遊びに取り組む。（結い） 												
5 領域	コンセプト	内 容	10の姿											
			健康	自立	協同	道徳	社会	思考	自然	数量	言葉	豊か		
健康	判	自分たちの遊びや生活の場を、自分たちで整えようとする。	◎	○										
	判	一日の見通しをもって遊びや生活を進める。	○	◎										
	判	危険な場所や遊び方が分かり、安全に気を付けて行動する。	◎			○	○							
	判	運動遊びに力いっぱい取り組み、進んで体を動かす。	◎											
人間関係	結	異年齢の友達を誘って、一緒に楽しく遊んだり踊ったりする。				◎								○
	結	運動会に向けて友達と力を合わせてやり遂げたり、5歳児としての役割を果たしたりすることに喜びを感じる。		○	◎									
	結	共通の目的をもちた友達と遊ぶ内容を考えたり、ルールやきまりを相談して決めたりしながら、遊びを進める。			◎	○		○						
	結	大勢の友達と力を合わせたり、競い合ったりして遊ぶ。			◎									
	結	異年齢の友達や高齢者、地域の人など様々な人と親しみをもって進んで関わる。				◎	○							
	結	友達の頑張りや長所に気付き、認め合ったり励まし合ったりして遊ぶ。			◎									
環境	表	友達と共通の目的をもち、考えを出し合ってやり遂げようとする。			◎								○	
	結	秋の自然の様子や事象に関心をもち、試したり、調べたりする。							○	◎				
	結	いろいろな国や旗があることを知り、外国の文化や生活に興味や関心をもち。					◎							
	結	遊びに必要な物の数や人数を数えたり比べたりする。									◎			
言葉	結	秋の草花や虫に興味や関心、好奇心、探究心をもって関わり、成長の様子や生態を知る。							○	◎				
	判	自分の考えを言葉で伝え、相手の意見も聞いて、よりよい進め方や解決を探ろうとする。			○								◎	
	表	考えたことや感じたことを人に分かるように話したり、相手の言葉や表情からその思いに気付いたりする。							○				◎	
表現	表	友達や保育者の話を聞いて理解しようとする。											◎	
	表	リズムやテンポ、音や曲想の特徴を感じながら、伸び伸びと体を動かして遊ぶ。	○											◎
	表	素材の特性を生かし、工夫してつくる。							○					◎
	表	経験したことや感じたことを、自分なりに表現したり友達の表現を認めたりする。												◎

3期（9～10月）
5歳児

環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・時間の流れを意識しながら生活できるように、目に付きやすい場所に時計や予定などを書き込んだカレンダーを設置する。 ・自分たちで遊びが進められるように、運動遊具や用具を取り出しやすい場所に整理し準備しておく。 ・友達と思いや考えを伝え合ったり、ルールをつくったりできるように時間や場を確保する。 ・子どもの好きな体操やリズム遊びなどの曲を自分たちで操作できるように準備しておく。 ・グループの友達と思いや考えを出し合ったり、協力し合ったりしながら遊ぶ機会を多く取り入れる。 ・生き物の生態や命の大切さについて関心をもてるように、飼育方法を考える機会を設けたり、子どもの身近なところに必要なものを用意しておいたりする。 ・国旗や世界の国や人々の様子について見たり調べたりできるように、絵本や地球儀、地図などを目に付きやすいところに準備する。また、子どもが疑問に思ったことをすぐに調べられるように、身近な場所に図鑑や季節の絵本などを用意しておく。 ・高齢者の方と触れ合える機会をもち、温もりを感じたり親しみをもったりできるようにする。
援助	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外での遊びや活動が増えるので、時間帯に配慮し、適宜、休息や水分補給を促す。また、汗をかいたら着替えるなど、健康的な過ごし方や必要性に気づき、自ら進んで取り組むように促す。 ・子ども達が意欲や期待をもって生活するように、活動の見通しをもてたり、時間を意識したりするような言葉掛けを必要に応じて行う。 ・一人一人が目標をもち、いろいろな運動に積極的に取り組んでいる姿を認め、やり遂げた充実感や達成感が味わえるように励ます。 ・自然物のおもしろさや不思議さを感じ知的好奇心を満足させるように言葉掛けを工夫する。 ・遊びの中で考えを出し合っている姿を認め、言葉を補ったり考えを膨らませたりし、互いの意見を取り入れながら遊ぶ楽しさを味わえるようにする。 ・意見の食い違いやぶつかり合いなど葛藤する姿を受け止め、子ども同士で乗り越えられるように励ましたり見守ったりする。
遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・自然物を取り入れた遊び（虫、種、木の葉・木の実など） ・運動遊具や用具を取り入れた遊び（フープ、ボール、巧技台など） ・運動会遊び（リレー、バルーン、綱引き、体操、ダンスなど） ・ごっこ遊び（バーベキューごっこやステージごっこなど） ・かいたりつくったりする遊び（旗、遊びに必要なもの、運動会の絵やプログラムなど） ・リズム遊びやわらべうた遊び（ちーちゃんぱーちゃん、いちりきらいらい、体操など） ・歌ったり、楽器を鳴らしたりする遊び（とんぼのめがね、百才のうた、うんどうかいの歌など）
小学校 との 連携	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生と一緒に活動する機会を通して、小学生や小学校の教師に親しみや信頼感を感じられるようにする。 ・行事に向けて取り組む姿を参観したり伝え合ったりすることで、互いの教育内容を理解できるようにする。
家庭・ 地域との 連携	<ul style="list-style-type: none"> ・秋の自然に触れる活動に取り組んでいることを知らせ、家庭でも自然に触れたり、話題にしたりして楽しむように勧める。 ・運動会に向けた取り組みの様子や子どもの頑張りを家庭に知らせ、子どもを認めたり励ましたりして家庭でも話題とするよう促し、共に運動会への期待がもてるようにする。 ・運動会実施を手紙やポスターなどで地域に発信し、園教育についての理解を図る。 ・夏の疲れから体調を崩しやすいので、健康状態などについて家庭と密に連絡を取り合う。

3期
(9月～10月)
5歳児

5歳児 4期（11～12月）

期の 特徴		友達と折り合いをつけながら、協同して自分たちで遊びや活動を進めていく時期												
よむもの姿		<ul style="list-style-type: none"> 遊びや活動の見通しをもち、友達と相談したり計画したりしながら意欲的に取り組む。（判断と行動） 友達の姿から刺激を受けることが増え、自分なりの目的や課題をもち、いろいろな方法を工夫しながら最後までやり遂げようとする。（判断と行動） 秋の自然に触れて遊ぶ中で自然の変化に気付き、好奇心や探究心をもって積極的に自然に関わる。（結い） 同じ目的をもった友達同士で集まり遊ぼうとする傾向が強まり、仲間意識をもっている。（結い） 友達と互いの考えを伝え合う中で、相手の考えを受け入れたり、自分の気持ちに折り合いを付けたりして遊ぶ。（表現と反応） 												
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> 自分達で遊びや活動に見通しをもって、進めていく。（判断と行動・結い） 自分なりの課題をもって、意欲的に活動に取り組む。（判断と行動） 自然の変化や美しさを感じながら、自然物を生かして遊ぶ。（結い） 思ったことや考えたことを、友達と一緒にいろいろな方法で工夫して表現する。（表現と反応） 友達と共通の目的をもち、協力したり役割分担したりしながら遊びを進めていく。（判断と行動・結い） 												
5 領域	コンセプト	内 容	10の姿											
			健康	自立	協同	道徳	社会	思考	自然	数量	言葉	豊か		
健康	判	自分の力を十分に発揮しながら、活動に意欲的に取り組む。	○	◎										
	判	運動遊びに自ら取り組み、自分なりのめあてをもって体を十分に動かして遊ぶ。	◎											
	判	新しいことや苦手なことにも挑戦し、繰り返し取り組む。	○	◎										
人間関係	判	トラブルや困難などの葛藤場面でも前向きに取り組み、自分なりに解決しようとする。				○		◎						
	結	身近で働く人々に関心と親しみをもつとともに、感謝の気持ちをもつ。						◎						
	結	友達と共通の目的に向かって、相談したり、役割分担したりして、自分達で活動を進めていく。			◎						○			
	結	友達との関わりの中で、自分の気持ちを調整したり、お互いの意見に折り合いをつけたりする。		○	◎	○								
	表	相手の話を聞いたり、自分の思いを伝えたりして、互いの違いやよさに気付きそれを認め合う。			◎	○						○		
環境	判	目的に合った遊具や用具を選び、考えたり試したりする。		○				◎						
	結	友達から刺激や励ましを受け、挑戦したり、意欲的に繰り返し取り組んだりする。		○	◎									
	結	秋から冬への自然の変化や美しさを感じながら、自然物を使って遊びを工夫する。								◎			○	
	結	地域の文化や社会の様子に関心をもち、積極的に遊びや生活に取り入れる。						◎						
	結	身近な事象や、文字や数量、図形、位置、時間に関心をもち、遊びや生活に取り入れる。						○			◎			
言葉	表	自分の思っていることを言葉で伝え、友達の考えをしっかりと聞く。										◎		
	表	絵本や話の内容を理解し、自分のイメージを膨らませたり心情を感じ取ったりする。										◎		
	表	相手の思いを聞いて、自分なりの考えや思いを表し、折り合いをつけていく。			○	○						◎		
表現	表	様々な自然物や素材を組み合わせて使い、構成や配色などを、よく考えつくる。						○		○			◎	
	表	友達と考えを出し合いイメージを共有しながら、協力し合って、かいたりつくったりする。			○								◎	

4期（11～12月）
5歳児

環境構成	<ul style="list-style-type: none"> やり遂げた充実感や自信がもてるように、継続して取り組める場を整え、十分な時間を確保する。 木の実や木の葉の形や色の違いや不思議さに気付き、注意深く見て遊びに取り入れたり、大きさや形で分類したり調べたりできるように、様々な種類の自然物や用具や材料、図鑑や写真などを身近な場所に準備しておく。 経験したことや感動したことを、自分なりに工夫して表現することができるように、いろいろな描画材料や製作材料を用意しておく。 自分たちでルールを考え、守ろうとする意識をもち、友達と共通の課題に向けて遊びを進めていくことができるように、互いの考えや思いを伝え合う機会をつくる。 自分たちで相談して決めたことに対して、協力したり工夫したりしながら取り組めるように、十分な材料や時間を準備し確保する。
援助	<ul style="list-style-type: none"> それぞれに頑張っていることや、挑戦していることを認め、伝えることで子ども達が互いに認め合いながら自分の力を発揮することができるようにする。 子どもが自然の変化や美しさ、色や形のおもしろさなどに気付く機会を多くもてるように、意識して自然物を遊びに取り入れるよう促したり、共感したりする。 文字や数量、図形、時間などを保育者が生活の中で意識して使ったり言葉にして伝えたりして、子どもの興味や関心を広げていくことができるようにする。 子ども達との会話の中で、身近な社会の様子や地域の伝統的な行事を話題にしたり、関連する絵本などを読んだりして、知ることの楽しさや知っていることを伝える楽しさを味わえるようにし、興味や関心の範囲を広げていくことができるようにする。 友達とめあてをもって遊ぶ時には、互いの考えを出し合って内容や方法を決めていく過程を大切に、自分たちで進める意欲を高めていくようにする。 目的への思いが強くなり、主張がぶつかり合った時には、互いの懸命さを伝えるとともに、根気よく自分の考えを伝えたり友達の考えを聞いたりしながら折り合いをつけられるように促す。
遊び	<ul style="list-style-type: none"> 自然物を取り入れた遊び（木の実、木の葉など） ごっこ遊び（店屋ごっこ、学校ごっこなど） 運動遊具や用具を取り入れた遊び（ボール、短縄、長縄、鉄棒、うんていなど） 集団遊び（鬼遊び、ゲーム遊びなど） お話遊び かいたりつくったりする遊び（共同画・共同製作、生活や遊びに必要なものなど） リズム表現やわらべうた遊び（おおさむこさむ、おんまつりのうたなど） 歌ったり、楽器を鳴らしたりする遊び（まっかな秋、カレンダーマーチなど）
小学校 と連携	<ul style="list-style-type: none"> 就学時健康診断を通して、小学校生活を身近に感じ、期待をもつ。 小学生と考えたり相談したりしながら一緒に活動する機会をもち、小学生や学校の生活をさらに身近に感じ、次回の交流を楽しみにする。
家庭・地域との 連携	<ul style="list-style-type: none"> 様々な行事や遊びを経験する中で育つ姿や、目的に向かって取り組む姿などのクラス全体としての取り組みを丁寧に伝え、保護者と共に励まし認めていけるようにする。 就学に向けて、保護者同士で不安や悩みについて話し合える機会をもつ。 奈良の伝統文化である「春日若宮おんまつり」について手紙や掲示物を通して啓発する。 年末年始の町の様子や日本古来の風習に触れたり参加したりする機会の大切さを伝える。 冬に向けて、感染症が広がる時期であるので、予防について啓発する。

4期
(11月5日
12月)

5歳児 5期（1～3月）

期の 特徴		就学への期待を高め、友達とともに活動する充実感や達成感を味わう時期												
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> 就学への期待感が高まり、自信や責任感をもって、園生活に意欲的に取り組む。（判断と行動） 就学への期待が遊びの中に表れ、文字や数量、図形への関心が高まり、遊びや生活に取り入れることが増えてくる。（結い） 氷や雪、霜など冬の自然現象や春への移り変わりに関心をもち、友達と考えたことを試してみようとする。（結い・表現と反応） 遊びの中でトラブルや困難なことが起きた時には、自分たちで解決しようとする。（結い） 共通の目的に向かって、それぞれが自分の力を十分に出し、協力したり役割分担したりしながら進めていこうとする。（判断と行動） 												
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> 就学への喜びや期待をもち、自信をもって意欲的に園生活を過ごす。（判断と行動） 冬の自然現象や春に向かう季節の変化に関心をもち、友達と話し合ったり、試したりする。（結い） いろいろな活動に主体的に取り組む、一人一人が自分のもっている力を十分に発揮する。（判断と行動） 友達と互いの力を出し合って、活動を通して達成感を味わい、その成果を喜び合う。（結い・表現と反応） 												
5 領域	コ ン セ プ ト	内 容	10の姿											
			健 康	自 立	協 同	道 徳	社 会	思 考	自 然	数 量	言 葉	豊 か		
健康	判	友達と共に遊びに意欲的に取り組み、自分の力を十分に発揮する。	○	◎	○									
	判	寒さに負けず十分に体を動かして遊ぶとともに、健康や安全など生活に必要な習慣や態度を身に付ける。	◎											
	判	自分なりのめあてをもって挑戦し、失敗しても諦めずに最後までやり遂げようとする。		◎				○						
	判	友達同士で約束やルールを確認し合って、遊びや生活を進める。			◎	○								
人間関係	判	友達や周りの人の思いを受け止め、自分なりに考えて行動する。				◎		○						
	結	異年齢児に思いやりをもち、見守ったり手助けしたりする。				◎	○							
	結	グループやクラスにおいて一員としての意識をもち、目的に向かって互いに協力して遊びや活動を進める。		○	◎									
	結	卒園を控えて、身近な人やお世話になった人たちに感謝を表す。					◎					○	○	
環境	結	友達と共通の目的をもって、役割を分担したり助け合ったりしながら、自分たちでやり遂げる。		○	◎									
	結	冬の自然現象や春の訪れに気付き、感動したり、試したりして遊ぶ。						○	◎					
	結	ものの性質や形、数量、文字などへの関心が高まり、積極的に遊びや生活に取り入れる。						○	◎					
言葉	結	就学への期待や喜びを膨らませるとともに、小学校生活の様子を知る。		○			◎							
	表	様々な出来事を通して、イメージを膨らませ、感動したことを伝え合う。										◎	○	
	表	絵本や物語を通して、言葉の響きやリズムを楽しんだり、新しい言葉や表現を知ったりする。										◎		
表現	表	人の話をよく聞き、自分の考えを人に分かるように話す。										◎		
	表	いろいろな表現を楽しむ中で、見てもらうことを意識したり、工夫したりする。						○				◎		
	表	友達と一体感を味わいながら、音や動き、作品などで表現することを楽しむ。											◎	
	表	言葉や動きなど複数の表現を組み合わせて、お話遊びを友達と協同してつくる。			◎							○	○	

5歳児
5期（1～3月）

環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの成長や育ちを自覚し、意欲的に取り組んだり、友達同士で認め合ったり、自分を振り返ったりする時間を確保する。 ・感謝の気持ちを自分なりの言葉や行動で示せるように、お世話になった人や異年齢児と一緒に過ごす機会をつくる。 ・文字や数などへの興味や関心が増すので、カルタやトランプ、すごろくなど、数や文字に親しめるものを身近な場所に置き、使えるようにしておく。 ・冬の自然に触れて、氷や霜に興味や関心をもち、予想しながら試したりすることができるように、比較しやすい素材や、大きさや深さ、形の違う容器などを用意する。 ・友達と決めた遊びを自分たちのやり方で工夫して進められるように、機材や用具、材料などを準備しておく。 ・グループやクラス全体で創作や表現を行う活動を取り上げ、仲間同士で教え合ったり見せ合ったりする機会をもつ。 ・感染症が多くなる時期なので、保育室の換気等に十分配慮する。
援助	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで目的意識をもてるようにするために助言したり、話し合いを促したりして、意欲を持続させて遊びを展開していけるように働き掛ける。 ・自分の得意なことや好きなことを生かして、それぞれが力を発揮し、みんなでやり遂げた満足感を味わえるように促す。 ・役割を意識し、自信や責任をもって最後までやり遂げるように支えたり励ましたりする。 ・友達と互いに意見を聞き入れながら共に進めていこうとする様子を認め、友達関係がより深まる方向へ促す。 ・小学校への期待を膨らませ、不安を抱かないよう一人一人の実態をしっかり見守り、自信をもてるようにする。 ・卒園までの時間を大切に、園生活を振り返り、気の合った仲間といる楽しさや学級全体が繋がっている心地よさを共に味わえるようにする。
遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・自然物を取り入れた遊び（氷、霜柱、雪、風など） ・集団遊び（鬼遊び、ゲーム遊び、ボール遊び、縄遊びなど） ・お正月遊び（こままわし、カルタ、すごろく、トランプ、羽根つき、凧揚げなど） ・ごっこ遊び（郵便ごっこ、学校ごっこなど） ・挑戦する遊び（縄遊び、こままわしなど） ・かいたりつくったりする遊び（鬼の面、雛人形、修了に関わるもの、生活や遊びに必要なものなど） ・お話遊び ・リズム遊びとわらべ歌遊び（あんたがたどこさ、大波小波など） ・歌ったり、楽器を鳴らしたりする遊び（たき火、ゆき、一年生になったらなど）
小学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・一日体験入学や小学生との交流を通して、小学校生活や学習活動を具体的に知り、より身近に感じたり憧れたりして、就学を心待ちにする。 ・就学に向けた小学校との連絡会などにおいて、子ども達の様子や指導の手立てをより具体的に伝え合う。
家庭・地域の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの園生活を振り返り、子どもの育ちを実感し、共に喜び合えるようにする。 ・就学への期待感を受け止めながら、ゆったりとした気持ちで子どもを見守り支えるように促す。また、家庭での生活習慣や通学路の再確認を行う。 ・就学に向けて不安になる子どもや保護者がいた場合には、小学校と連携を図り具体的な生活や様子を知らせ、期待感や安心感につなげるようにする。

5期
(1~3月)
5歳児

カリキュラム原稿の表記について

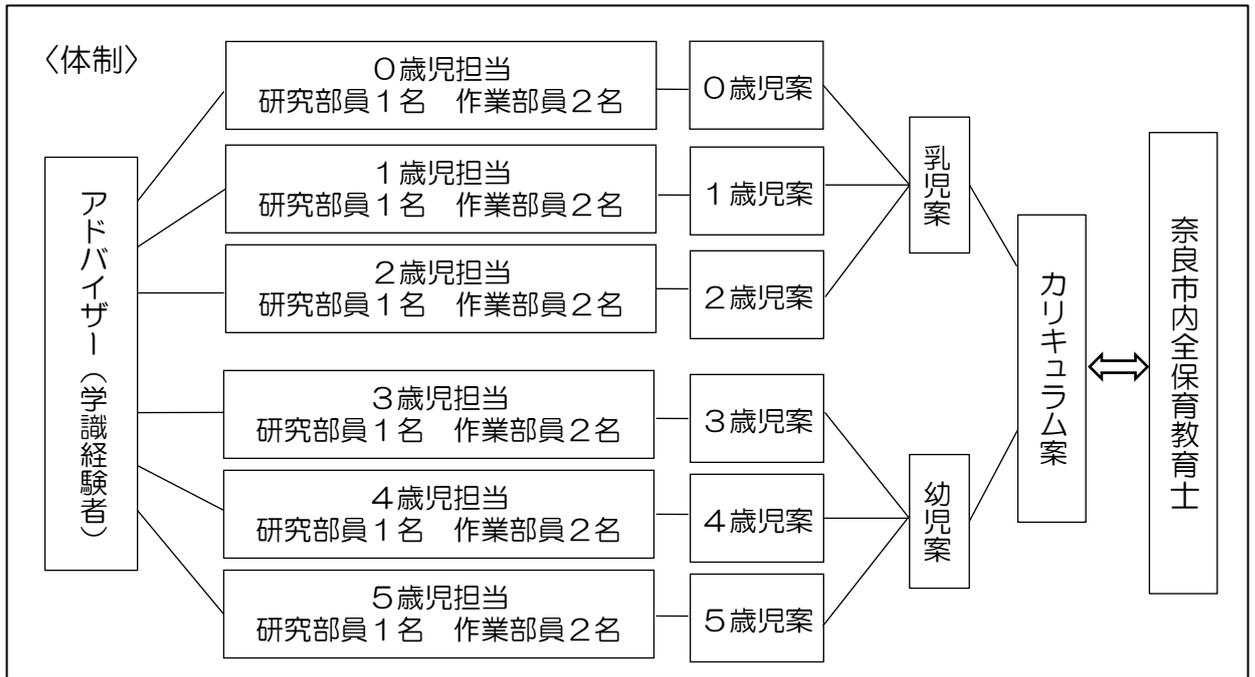
項目	奈良市立こども園カリキュラム
こども	子ども
ともだち	友達
かかわり	関わり
よさ	よさ
きづく	気付く
もつ	もつ
小動物	生き物（小さな・身近な）
からだ	体
仲間	仲間
とりくむ	取り組む
ことばがけ	言葉掛け
～とともに	～をするとともに 共に〇〇をする
こどもたち	子ども達
興味・関心	興味や関心
とらえる	捉える
制作	製作

改訂の取り組み

平成29年度

期間 平成29年5月～平成30年2月

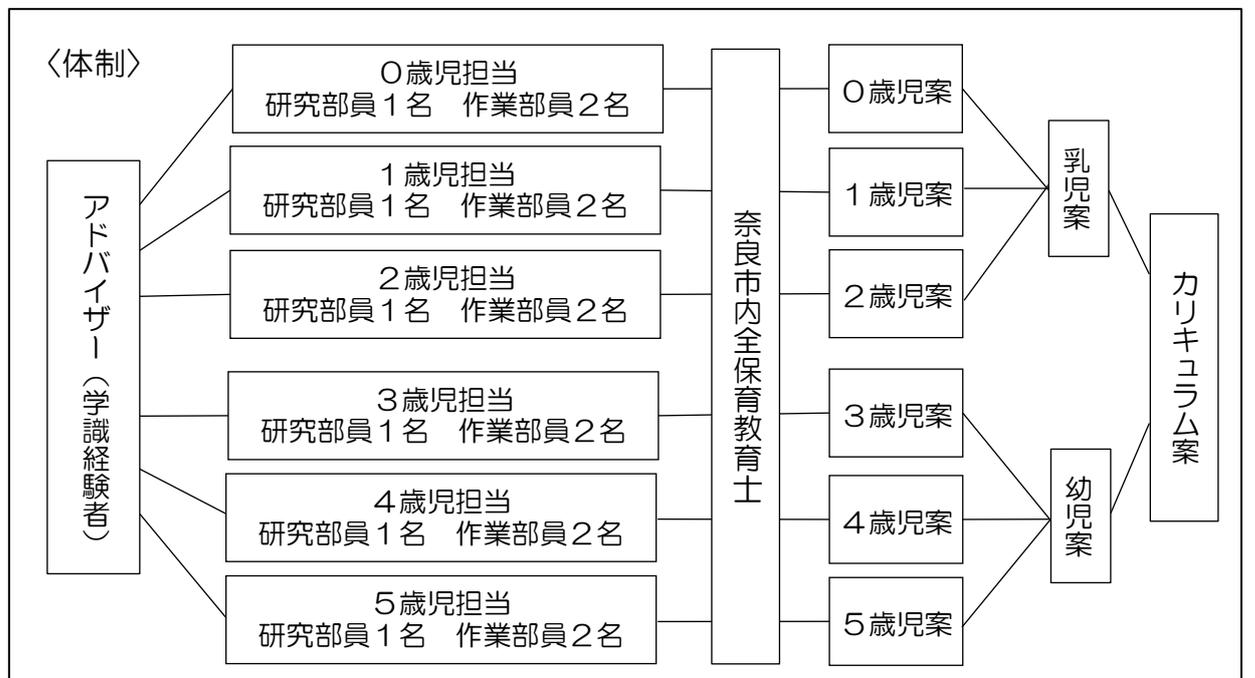
(年間10回研究会議開催)



平成30年度

期間 平成30年5月～平成30年10月

(年間8回研究会議開催)



平成29年度カリキュラム改訂研究会議

アドバイザー 帝塚山大学 教授 清水 益治先生
奈良教育大学 教授 横山 真貴子先生

研究部員 大西 三千代 山上 鈴代 八尾谷 和美
杉本 絹子 上島 三佐子 林 陽子
学校教育課

作業部員 魚谷 早代子 野口 和代 岡田 千代美 松石 明子 奥 晴江
富田 恵 永井 美希 小村 有貴 松下 智加 尾北 亜紀
小林 尚子 西田 真由美

平成30年度カリキュラム改訂研究会議

アドバイザー 帝塚山大学 教授 清水 益治先生
奈良教育大学 教授 横山 真貴子先生

研究部員 野口 和代 山上 鈴代 八尾谷 和美
鎌田 稔子 上島 三佐子 林 陽子

作業部員 吉岡 理恵 仲島 かおり 小川原 由美子 小村 有貴 宮崎 敦子
小林 尚子 前田 美穂 上垣内 晶美 近藤 美子 入矢 陽介
高木 千佳 池田 果奈栄

事務局 真銅 正宣 川尻 ひとみ 大前 睦美 鍋谷 理佐子
高尾 美咲 田中 典子 寺町 歩 宮本 克子 木村 恵美

奈良市立こども園カリキュラム バンビーノ・プラン

平成27年3月31日第1版

平成31年3月31日第2版

発行 奈良市子ども未来部

〒630-8580 奈良市二条大路南一丁目1-1

電話 (0742) 34-1111 (代表)

